

**平成 26 年度 保育所保育士研修等事業
実施報告書**

社会福祉法人 日本保育協会

はじめに

日本保育協会では昭和 49 年度より厚生労働省の委託を受けて、「保育所保育士研修等事業」を保育所長並びに保育士を対象に、40 年にわたって実施してきました。この研修事業は、①園長並びに主任保育士を対象にした職階別研修、②乳児保育・障害児保育などの保育実践研修、③事故予防・実習指導など、その時代のトピック的なテーマの研修の 3 本の柱で構成されています。

毎年度、研修内容や研修手法のブラッシュアップはもちろんのこと、研修デザインの企画から評価までの P D C A サイクルについても、多くの学識者・保育現場の先生方のご指導をいただきながら、長年にわたって独自に工夫を重ねてきました。

平成 26 年度においては大きく二つを改善しました。平成 25 年度から引き続き、事前学習（事前シート・保育 e-Learning の視聴）⇒研修会受講⇒実践⇒自己評価（3 ヶ月後活用度調査）の流れを取り入れました。点としての研修会の受講だけではなく、線として研修会に関心を持ち続けていただくため、加えて、研修前、研修会、研修後とそれぞれのタイミングで受講者に働きかけて振り返りを促し、各人の学びを深めることを目的としています。

また、平成 26 年度は各講義科目の理解ではなく研修会のねらいへと活用度測定の視点を移しました。もちろん各講義の理解は欠かせませんが、研修プログラム改善により反映しやすい設問としました。

本「保育所保育士研修等事業」は平成 26 年度をもって一旦は終了になります。年度後半の研修会において 3 ヶ月後調査が実施できなかったのはそのためです。保育士不足が問題となっている昨今、現任研修に期待されること、その重要性は増しています。平成 27 年度スタートの「子ども・子育て新制度」にあわせて、国と都道府県で現任研修内容を見直して役割分担し、国として新たな体系が導入される予定となっています。保育者の学びの場がますます充実していくように、当協会でもより学びの深い研修の開発と実施に努めていきたいと考えています。保育関係者の多くに本報告書を手にとっていただき、ご批判、ご指導をいただければ幸いです。

本報告書の作成にあたっては、研修委員である洗足子ども短期大学の井上眞理子先生に研修内容、研修手法、評価方法、報告書の内容など、細部にわたっていねいなご指導をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成 27 年 3 月
日本保育協会 研修部次長
今 井 豊 彦

保育所保育士研修等事業の全体考察

日本保育協会の保育所保育士研修等事業（以下本事業とする）においては、所長研修を中心とした職階別研修、乳児保育や障害児保育などの保育士の専門性として重要とされる実践力の向上を図る研修、そして保育所における保護者支援やアレルギー対応といった現代的課題を取り上げた研修という 3 つの柱を中心として、研修対象や研修内容を精査し、保育所の現状を踏まえて必要とされる研修が実現されるよう毎年検討が重ねられ実施されています。平成 26 年度では、平成 25 年度の取り組みに引き続き、企画委員会及び月 1 回のペースでの定例（評価）委員会を設け、各研修での学びが深まるような研修内容及び方法を検討すると同時に、研修での受講者の学びがその場限りの学びに終始することなく、現場での実践に活かされるような学びに継続、発展するものとなるような受講後のアンケート調査・分析の場を設けて参りました。さらに研修会での学びに限定されることなく、実践への広がりが可能となるよう、今年度は以下の 3 点について、これまで以上に充実、拡大し研修会を企画、実施致しました。

① 研修会前の実践や意識を研修会の学びに繋げる

研修会での学びは、参加した時間の中だけで終始するものではなく、まずは一人一人の受講者の実践での課題に立脚したものでなければならないという点です。そのために、本研修会では、「事前シート」の提出を課題として取り入れ、実施しています。例えば、保育所初任保育所長研修会では、「自園の保育理念（保育方針）・育てたい子ども像」という事前シートを課題にし、提出を求めています。これは、研修会で扱われる「これからの保育所づくり（アクションプラン）」の講義の中で、モデルとしての保育所の組織づくりを検討するのではなく、それぞれの園が掲げている理念を基盤とし、園の特徴や環境を活かした組織づくりを受講者自らが検討し、現場に持ち帰ることを予定しているからです。研修会の限られた時間での学びには限界があります。事前シートに取り組むことによって、研修会での学びの準備を行い、自身の課題を整理して研修会に臨むことができることを意図しています。

② 他園の実践を知り、人脈を広げる

第二の点は、講師から研修内容を学ぶことに加え、参加している他の受講生との交流の中での学びの展開の必要性です。保育実践の現場は、社会情勢や地域性、園の資源など、多様な要因が影響し、様々な条件の中で園が運営されています。講師からの豊富な情報や実践、理論から学ぶことは確かに重要なことですが、他園の実践や問題解決の工夫を知ることは、現場で生きるアイデアや理念をたくさん含んでいます。また研修会を通じて得られた他園や保育士との繋がりは、今後の保育をつくっていく者同士、新たな課題を乗り越えていくパートナーシップを形成するきっかけとなり、大きな財産になることと考えています。本事業では、受講者同士が日々の実践を伝え合い、課題について考えを交流させることを通じて、グループでのディスカッションの中で理論を実践へつなぐ機会をこれまで以上に重視し、講義の中で設定することとしました。

③ 研修評価の新たな方法

第三は、研修評価の方法についてです。研修会実施の 3 ヶ月後に行う追跡型のアンケート

は、平成 25 年度から採用したのですが、この方法は平成 26 年度も同様に取り入れていません。平成 25 年度と異なる点は、それぞれの研修会の「ねらい」を明確にしたことにより、そのねらいをどの程度達成できたかという観点での学びの自己評価を取り入れました。また、3 ヶ月後アンケートでは、研修会で学んだことを活かして、研修会のねらいがどの程度達成できたかを問うています。さらに研修会の中で展開された各講義について、「実践に最も活かした講義」と「実践に最も活かしくかった講義」を選択した上で、その理由を選択肢から選び、回答する方式を取り入れました。その選択肢の中には、講義の内容を受講者が十分に理解できていたか、講義の内容が実践に即していたものであったか、理論と実践の乖離があったかといった「講義内容に関わる要因」、研修会終了後に継続して問題意識を持っているか、改善のために取り組む時間をとることができたか、保育の取り組む姿勢が変わったかといった「受講生自身の意識や実践に活かす意欲に関わる要因」、さらに職場での共通理解が得られたか、新しいことに挑戦する環境が整っていたかといった「職場環境に関わる要因」という大別すると 3 つの要因を含んだ項目で構成されています。研修評価としては、研修会での学びが実践に活かされたか否かだけでなく、活かすことができた（活かすことができなかった）要因を詳細に分析しその原因を探ることが必要です。その要因を明らかにすることで、実践に活かすことができる研修内容や方法の改善や開発に繋がると考えています。その意味で 3 ヶ月後アンケートの回答を、今後更に詳細に分析することによって、実践に活かすことができる研修会の開発に努めて参りたいと思います。

このように、研修会の評価については、単にその場での受講者の満足感などで図るのではなく、研修会での学びがそれぞれの受講者の中で咀嚼され、醸成され、日々の実践に活かされるようにと時間的な広がりを見野に入れた中で検討していかなければなりません。その意味で、3 ヶ月後アンケートや継続的な研修の実施といった受講者の学びの展開が「点」ではなく「線」となり、「面」となるような長期的多角的な研修の実施が必要であると考え、その実現に向けて検討を重ねています。

保育における研修の必要性は、保育の質の向上の視点でこれまで以上に議論が高まっており、保育士不足の現状や現代的な保育の課題に向き合うために、ますます検討を重ねなければならない課題です。そして保育の質を向上するためには、実践の質が向上することはもとより、実践を変容するようなダイナミックな学びが実践者に生起することが求められます。本事業がこれらの課題の改善に寄与することのできる取り組みの一つとなり、またこの事業から得られた多くの示唆が今後の保育者の研修の発展への検討課題として活かされることを切に願い、子どもの豊かな成長を支える保育現場の発展につながることを祈念いたします。

平成 27 年 3 月
洗足こども短期大学
井上 真理子

目 次

-はじめに-

-保育所保育士研修等事業の全体考察-

-実施要綱・事業概要等-

保育所保育士研修等実施要綱（目的・対象申込方法等）	1
研修会申込みの流れ（フローチャート）	2
企画・定例委員会（評価委員会）の実施	3
研修会受講者数の実績等	6

-各研修会実施報告・研修活用調査結果-

1. 保育所中堅保育所長研修会	9
2. 保育所初任保育所長研修会（東京開催・大阪開催）	13
3. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会（東京開催2回）	21
4. 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催・大阪開催）	29
5. 保育所障害児保育担当者研修会	40
6. 保育所保護者支援研修会	48
7. 保育所実習指導研修会（旧：保幼小連携研修会）	56
8. 保育所事故予防研修会（東京開催・大阪開催）	61
9. 保育所主任保育士研修会（東京開催2回・大阪開催2回）	68
10. 保育所におけるアレルギー対応研修会（全国4地区開催）	80
参考資料（事前シート・事後シート・研修活用調査票等）	86

過去の研修会受講者数・推移

実施報告書作成者等分担等

95

101

保育所保育士研修等実施要綱

1. 本事業の目的

保育所は人が「育ち」「育てる」という人類普遍の価値を共有し、継承し、広げることを通じて社会に貢献していく重要な場である。保育所保育士研修等事業によって、保育所長及び保育所保育士等の保育所職員の専門性を向上し、保育所保育指針を踏まえた各保育所の創意工夫あふれる保育が展開されることにより、子どもの最善の利益が保障されることを目的とする。

2. 本事業の対象

本事業の対象者は以下のとおり。

- (1) 認可保育所の保育所職員
 - (2) 平成 27 年度に認可予定の保育所職員
 - (3) 児童福祉施設最低基準を満たした認可外保育施設の職員
- ※各研修会の対象者については、各研修会実施要領を参照すること

3. 本事業の研修会の申込方法

- (1) 各研修会の実施要領を、研修会実施の約 3 か月前に日本保育協会より都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課あてに送付し、市町村児童福祉（保育）主管課・管下保育所などへの周知・取りまとめを依頼している。

また、日本保育協会のホームページからダウンロードすることも可能となっている。

【研修情報】URL：<http://www.nippo.or.jp/guide/>

- (2) 申込みの受付は、都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課となる。同主管課の推薦により、実施要領送付の際にご案内の「申込締切日」までに日本保育協会へ申込みをする。各都道府県・指定都市・中核市において予定の割当人員を超える場合は、事前に日本保育協会研修部まで相談すること。

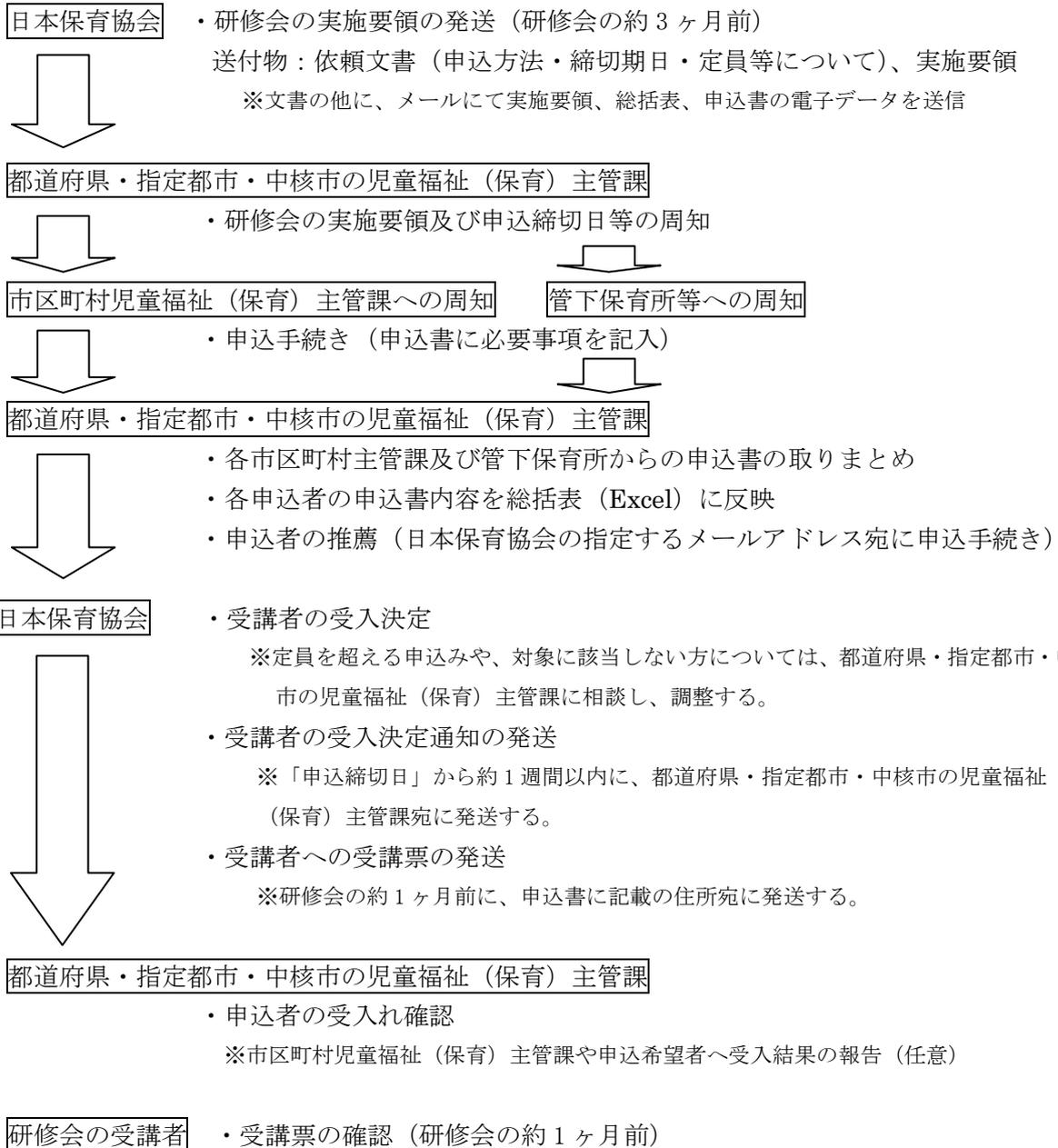
なお、申込者から同主管課への申込締切日については各主管課が指定することとする。

- (3) 申込者の受講の可否については、「申込締切日」から約 1 週間以内に、都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課宛に文書を送付する。なお、研修会の定員を超える申込みがあった場合や対象に該当しない方の申込みがあった場合は、受入人数の調整を依頼することもあり、その際には、同主管課宛に相談する。

- (4) 研修会実施の約 1 か月前に、受講決定者に受講票を送付する。

- (5) 詳細な研修内容や申込方法については、研修会実施の約 3 か月前に送付する各研修会の実施要領を参照すること。

研修会申込みの流れ（フローチャート）



【受講者の変更・取消について】

- ・受講者変更及び取消があった場合、申込みの流れと同様に、受講者から都道府県・指定都市・中核市の児童福祉（保育）主管課に連絡し、同主管課より日本保育協会研修部への連絡をもって手続き完了となる。
- ・受講者変更については、変更した総括表（Excel）と、変更後の方の個別申込書をメールに添付し、日本保育協会が指定するメールアドレス宛に連絡すること。念のため、メール本文にも変更内容を記入すること。
- ・受講者取消については、日本保育協会が指定するメールアドレス宛に連絡すること。なお、メール本文には、推薦時の総括表No.、保育園名、氏名を記載すること。
- ・受講取消には、研修会初日の1週間前よりキャンセル料が発生する。

企画・定例委員会（評価委員会）の実施

保育所保育士研修等事業では、「企画委員会」と「定例委員会（評価委員会）」を設置し、研修事業のPDCAサイクルの構築、並びに研修フレームの構築（研修の質を保ち、向上していくための仕組みづくり）を行っている。

企画委員会では、主に、保育界全体の動向を踏まえ、今後の研修事業の計画を立て、各研修会の方向性や内容を検討する。

定例委員会では、主に、各研修会の構成や講義科目・内容、講義の手法、アンケート、事後調査、課題の整理など細かい内容を検討する。

【企画委員会】

（平成25年度内に実施）

第1回

期 日	平成26年2月27日（木）	15:00～18:00
場 所	東京都渋谷区 こどもの城	会議室
議 題	1. 平成25年度保育士（保育所長）研修の実施報告について 2. 平成26年度保育所保育士研修等事業の企画について 3. その他	

【定例委員会（評価委員会）】

第1回

期 日	平成26年4月30日（水）	10:00～12:00
場 所	東京都渋谷区 日本保育協会	会議室
議 題	1. 平成25年度保育所保育士研修等実施報告書について 2. 各研修会における事前課題について 3. 各研修会における活用調査について 4. その他	

第2回

期 日	平成26年5月29日（水）	15:00～17:00
場 所	東京都渋谷区 こどもの城	会議室
議 題	1. 平成25年度保育所保育士研修等実施報告書について 2. 乳児保育担当者研修会の事前シート結果について 3. 各研修会における事前シート及び活用調査の書式について 4. 初任保育所長（就任予定者）研修会の事後シートについて 5. 初任保育所長研修会のアクションプランづくりについて 6. その他	

第3回

- 期 日 平成 26 年 6 月 19 日 (木) 15:00～17:00
場 所 東京都渋谷区 こどもの城 特別会議室
議 題
1. 乳児保育担当者研修会の研修会活用調査結果について
 2. 初任保育所長(就任予定者)研修会の事前シート結果について
 3. 3ヶ月後の研修活用調査票の書式について
 4. 初任保育所長研修会の各講義について
～組織マネジメント及びアクションプランづくり～
 5. その他

第4回

- 期 日 平成 26 年 7 月 14 日 (月) 16:00～18:00
場 所 東京都渋谷区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 初任保育所長(就任予定者)研修会の実施報告について
～事後シート及び研修活用調査票から～
 2. 主任保育士研修会の事前シート結果について
 3. 研修会3ヶ月後の研修活用調査票の書式について(案)
 4. 初任保育所長研修会(組織マネジメント及び保育所づくり)
～保育 e-Learning 視聴と事前シート案・事後案シート～
 5. その他

第5回

- 期 日 平成 26 年 8 月 5 日 (火) 13:30～15:30
場 所 東京都渋谷区 こどもの城 特別会議室
議 題
1. 主任保育士研修会の実施結果について
 2. 保護者支援研修会の事前シート結果について
 3. 研修会3ヶ月後の研修活用調査票の書式について(案)
 4. 初任保育所長研修会(組織マネジメント及び保育所づくり)
～保育 e-Learning 視聴と事前シート案・事後案シート～
 5. 中堅保育所長研修会の企画について
 6. その他

第6回

- 期 日 平成 26 年 8 月 26 日 (火) 10:00～12:00
場 所 東京都千代田区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 初任保育所長研修会の事前シート(内容確認)について
 2. 初任保育所長研修会(組織マネジメント及び保育所づくり)
～タイムテーブル及び内容の確認・事後シート案(委員から提案)～
 3. 研修会3ヶ月後の研修活用調査票の書式について(案)
 4. 中堅保育所長研修会の企画について
 5. その他

第7回

- 期 日 平成 26 年 9 月 30 日 (火) 16:00～19:00
場 所 東京都千代田区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 初任保育所長研修会 (9 月) の結果報告について
 2. 初任保育所長 (就任予定者) 研修会の結果報告について
 3. 障害児保育担当者研修会の事前シート結果・研修内容について
 4. アレルギー対応研修会の研修内容について
 5. 初任保育所長研修会 (11 月, 12 月) の研修内容について
 6. 研修会 3 ヶ月後の研修活用調査票について
 7. 中堅保育所長研修会の企画について
 8. その他

第8回

- 期 日 平成 26 年 10 月 28 日 (火) 16:00～18:00
場 所 東京都千代田区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 実習指導研修会について
 2. 初任保育所長研修会 (11 月, 12 月) の研修内容について
 3. 中堅保育所長研修会の企画について
 4. その他

第9回

- 期 日 平成 27 年 1 月 16 日 (金) 17:00～19:00
場 所 東京都千代田区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 保育所主任保育士研修会の実施報告について
 2. 保育所事故予防研修会の事前シート結果について
 3. 中堅保育所長研修会の講義内容及び事前シートについて
 4. その他

第10回

- 期 日 平成 27 年 1 月 27 日 (金) 16:30～18:30
場 所 東京都千代田区 日本保育協会 会議室
議 題
1. 中堅保育所長研修会の事前シートの中間報告について
 2. 中堅所長研修会の講義内容について
 3. 保育所保育士研修等事業全体について
 4. その他

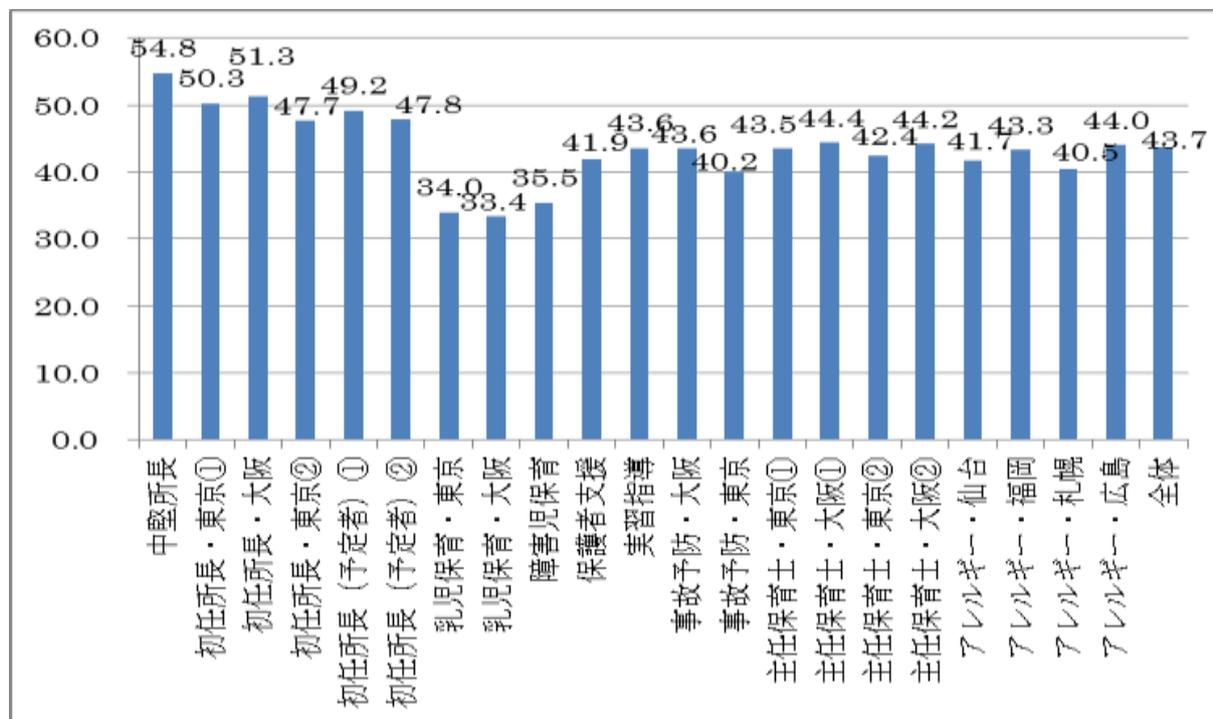
研修会受講者数の実績等

研修会名		定員数	申込者数	受講者数	参加率
1	保育所中堅保育所長研修会	200	111	94	47.0%
2	保育所初任保育所長研修会(東京①)	300	523	358	119.3%
	保育所初任保育所長研修会(大阪)	300	272	263	87.7%
	保育所初任保育所長研修会(東京②)	300	322	298	99.3%
3	保育所初任保育所長(就任予定者)研修会①	300	386	328	109.3%
	保育所初任保育所長(就任予定者)研修会②	300	225	199	66.3%
4	保育所乳児保育担当者研修会(東京)	300	509	407	135.7%
	保育所乳児保育担当者研修会(大阪)	300	339	334	111.3%
5	保育所障害児保育担当者研修会(東京)	300	328	319	106.3%
6	保育所保護者支援研修会	300	345	337	112.3%
7	保育所実習指導研修会	200	271	254	127.0%
8	保育所事故予防研修会(大阪)	300	251	240	80.0%
	保育所事故予防研修会(東京)	300	375	346	115.3%
9	保育所主任保育士研修会(東京①)	300	411	360	120.0%
	保育所主任保育士研修会(大阪①)	300	315	303	101.0%
	保育所主任保育士研修会(東京②)	300	382	330	110.0%
	保育所主任保育士研修会(大阪②)	300	203	195	65.0%
10	保育所におけるアレルギー対応研修会(札幌)	300	95	93	31.0%
	保育所におけるアレルギー対応研修会(仙台)	300	130	124	41.3%
	保育所におけるアレルギー対応研修会(広島)	300	155	144	48.0%
	保育所におけるアレルギー対応研修会(福岡)	300	296	284	94.7%
合計		6100	6244	5610	92.0%

- (1) 太字・下線については、申込数または受講者数が定員を超えており、受講者のニーズが非常に高かった研修会を示している。
- (2) 定員数を大幅に超える申込みがあった場合、申込者数が多い自治体の優先順位の低い申込者から受講不可としている。なお、優先順位については、研修会の対象を参考に、自治体担当者に決定いただいております、最終的には協議の上、受入不可を決定している。

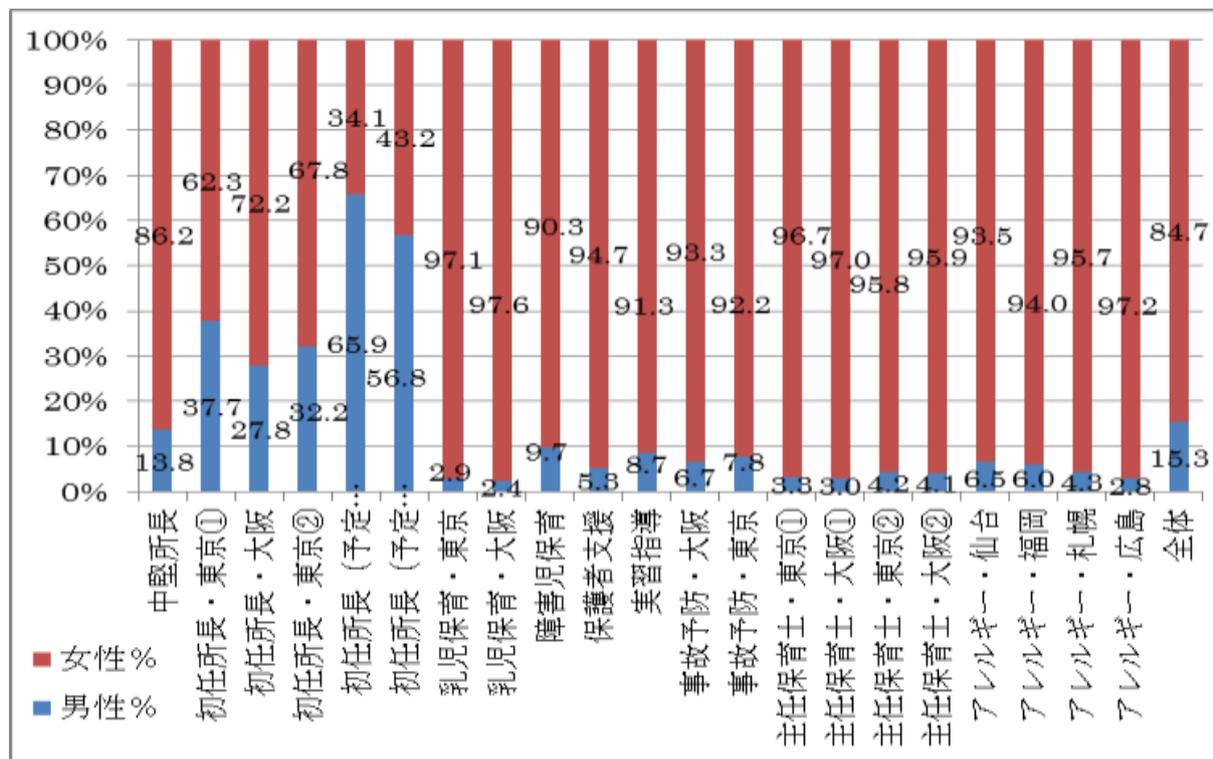
【各研修会受講者の平均年齢比較】

全体としては、「保育所長研修」、主任・リーダー等の「指導者研修」、「担当者研修」の3層に分かれ、幅広い年齢層が受講している。



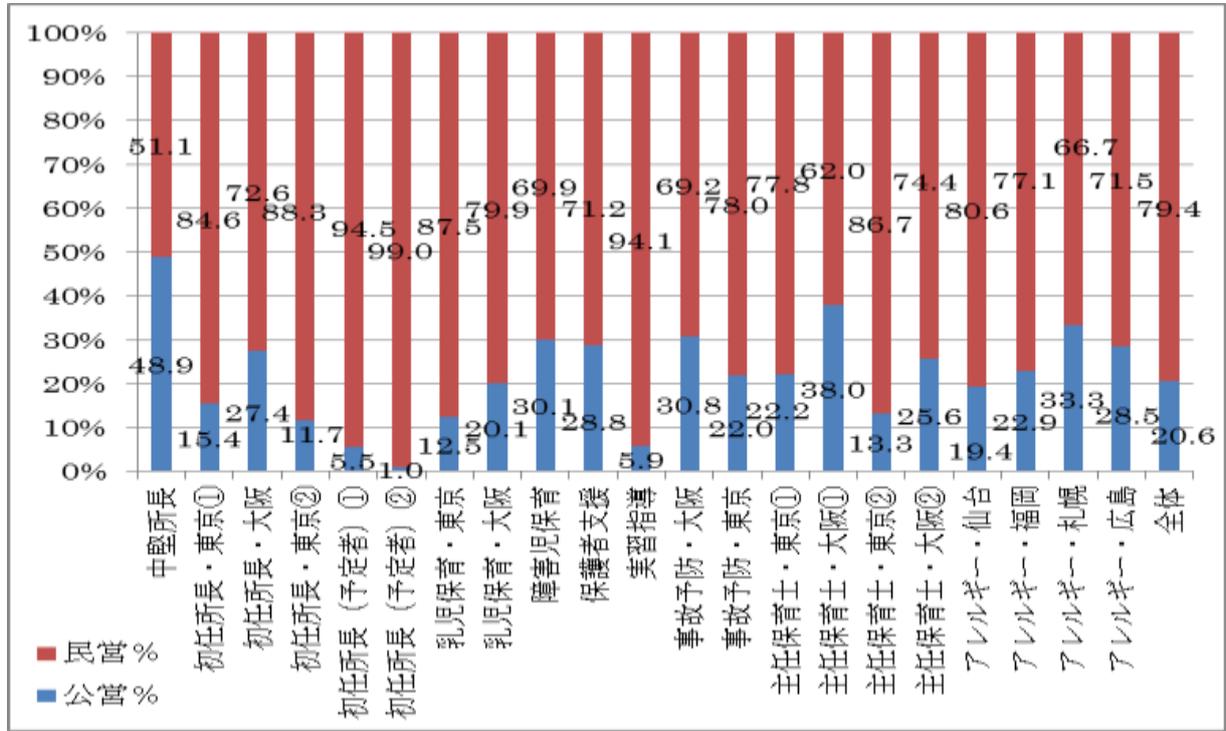
【各研修会受講者の男女比率】

「全体」の85%が女性の受講者となっている。「保育所長研修」では、男性の比率も高くなるが、他研修においては、9割以上が女性となっている。



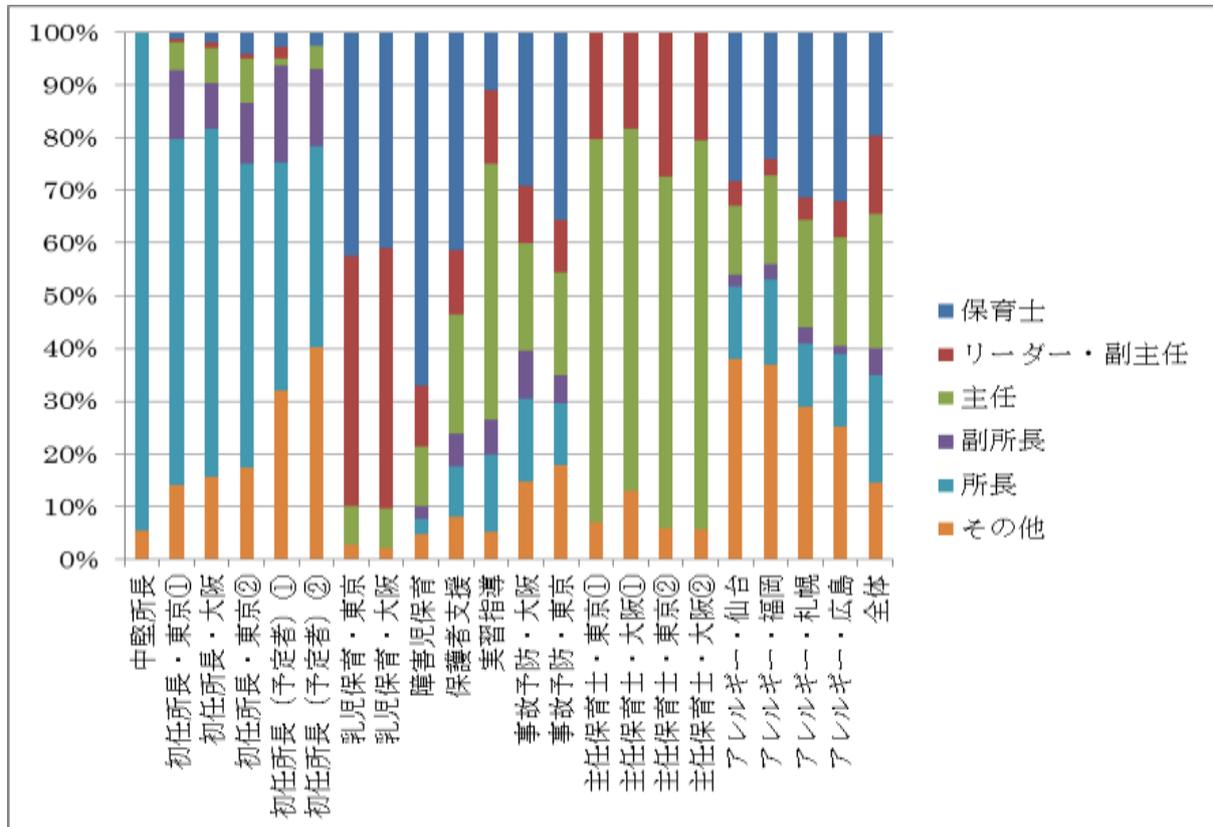
【各研修会受講者の運営主体(公営・民営)比率】

全体としては、公営2割・民営8割のとなっている。「中堅所長研修会」は半々となっており、大阪開催の研修会では、公営の割合が高い傾向がある。



【各研修会受講者の運営主体(公営・民営)比率】

「保育所長」「指導者(主任等)」「保育士」の3層に分けて研修会を実施している。



各研修会実施報告・研修活用調査結果

1. 保育所中堅保育所長研修会

(1) 研修のねらい

最新の保育及び子ども政策の動向や関係法令、保育所や子どもの今日的な課題への対応を学び、自園の保育の向上のための具体的な方法を考察し、保育所長としての資質向上を図る。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育及び子ども政策や関係法令を理解し、今後の保育所のあり方を考える。
- ・保育及び保育所職員の資質向上のため、保育所の組織マネジメントの向上を図る。
- ・乳幼児期の教育と保育所の福祉的機能および保育ソーシャルワークについて学び、今日的な課題から、これから求められる保育所の役割を理解する。
- ・これからの保育所づくりを意識した自園のアクションプランを作成する。

(3) 対象

保育所長の経験年数5年以上の保育所長

※原則として、保育所長経験5年以上の保育所長を中堅としているが、各都道府県・指定都市・中核市等において、原則によらない場合は、日本保育協会へ相談すること。

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成27年2月18日(水)～20日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台4-6	200名

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育・子ども政策の動向と保育所	講義・討議 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	教育と福祉 ～乳幼児期の教育の意義～	講義・討議 3時間	神戸大学 発達科学部 人間発達環境学研究所 准教授 北野 幸子
3	教育と福祉 ～保育ソーシャルワーク～	講義・討議 3時間	白梅学園大学 子ども学部 子ども学科 教授 長谷川 俊雄
4	保育所の組織マネジメント ～アクションプランづくり～	講義・ ワークショップ 6時間	洗足こども短期大学 幼児教育保育科 専任講師 井上 眞理子 青山学院大学 情報メディアセンター 助教 坂田 哲人 RISSHO KID'S きらり&分園ポピー(神奈川県) 園長 坂本 喜一郎 かほる保育園(山梨県) 園長 落合 陽子

(6) タイムスケジュール

日	時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第1日					受 付	開 講 式	保育・子ども政策の動向と保育所			オリエンテーション
第2日		教育と福祉 ～乳幼児期の教育の意義～			休 憩	教育と福祉 ～保育ソーシャルワーク～			オリエンテーション	
第3日		保育所の組織マネジメント ～アクションプランづくり～			休 憩	保育所の組織マネジメント ～アクションプランづくり～			修了証配付	

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

受講者数（申込者数）		94名（111名）	現職	保育所長	89（94.7%）
年齢	平均年齢（標準偏差）	54.8歳（7.1）		理事長	2（2.1%）
	範囲	31～73歳		その他	3（3.2%）
性別	男性	13（13.8%）	保育所長 経験年数	平均年数（標準偏差）	6.5年（3.9）
	女性	81（86.2%）		範囲	1～19年
運営 主体	公営	46（48.9%）	保育士 経験年数	平均年数（標準偏差）	24.8年（12.8）
	民営	48（51.1%）		範囲	0～40年

※「保育所長経験年数」について、本協会では、原則として5年以上の方を「中堅所長」としてしているが、「5年以上は定年退職のため不在」「市町村としては初任以外の所長を中堅所長としてしている」等の自治体の事情を鑑み、公営の保育所長経験1～4年の方を受け入れしている。

(8) 事前シートの活用（保育所の組織マネジメント～アクションプランづくり～）

事前シートは、研修会の一環として、研修の学びをより深めるために、受講者全員に課し、講義4「保育所の組織マネジメント」で活用・発展することを目的としている。

テーマは、自園の「保育理念（保育方針）・育てたい子ども像」とし、保育理念を実現するための「①保育内容」「②保育方法」「③環境」の3つの項目から、それぞれ『実現するために必要なこと』『実際の現状』の項目を設定した。さらに、保育理念や①～③を充実させていくためには、保育者の育成を考えていく必要があるため、「自園の職員（保育士）育成の現状と課題」の項目を設定し、A4用紙1枚の事前シートにまとめた。

講義当日は、自園の保育理念を実現に向けて「保育内容」「保育方法」「環境」を発展していくために、「組織マネジメント」のレクチャーに加えて、受講者同士での共有や2園の実践報告を受け、リライト版を作成した。

(9) 研修活用調査結果について

本研修会は、2月開催のため、3か月後調査は実施できず、研修会直後のみの調査結果となっている。受講者94名のうち、82名（87.2%）から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

最新の保育及び子ども政策の動向や関係法令、保育所や子どもの今日的な課題への対応を学び、自園の保育の向上のための具体的な方法を考察し、保育所長としての資質向上を図る。

調査では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1) 全く達成できなかった、(2) 達成できなかった、(3) あまり達成できなかった、(4) 少し達成できた、(5) 達成できた、(6) 大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出しており、研修のねらいが概ね達成されたと考えられる評価となっている。

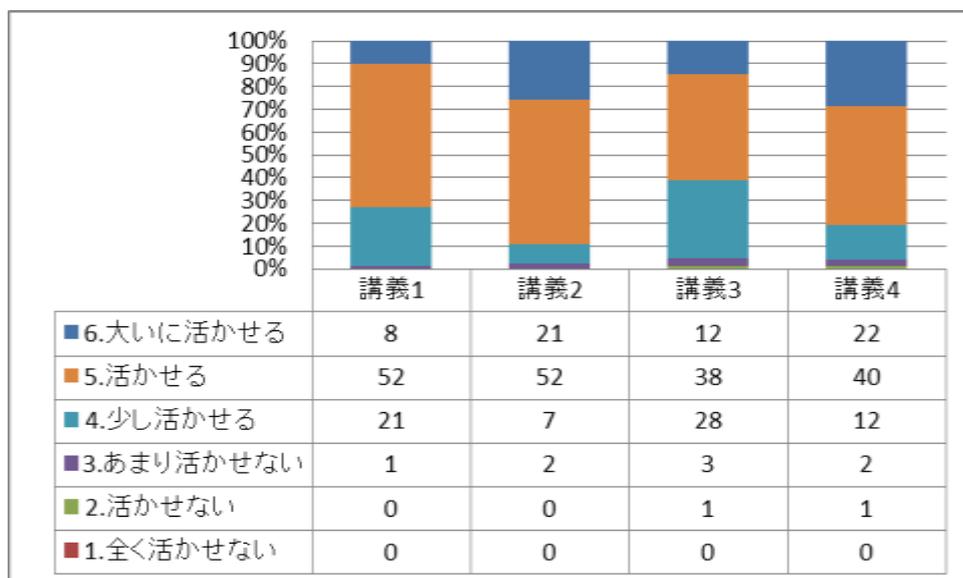
	平均値 標準偏差
【研修のねらい】 達成度	4.7 0.6

②各講義の活用度について

各講義の内容が保育所運営や保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1) 全く活かさない、(2) 活かさない、(3) あまり活かさない、(4) 少し活かせる、(5) 活かせる、(6) 大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。いずれの講義も、(4)～(6)の活かせる側の回答が95%を超え、中でも講義2,4については、「(6) 大いに活かせる」の回答が25%を超え、高評価となっている。

研修科目	講義1	講義2	講義3	講義4
平均値	4.8	5.1	4.7	5.0
標準偏差	0.6	0.7	0.8	0.8



③「保育所長」として今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、31名（37.8%）から得られた。

「危機管理」「保育ソーシャルワーク」「人材育成」「保育所の組織マネジメント」「認定こども園/乳幼児期の教育」「保護者支援」については、複数回答があった。

その他、「遊びの質を高めるために」「保育所運営」「園長のあるべき姿～園長職の理念を考えよう～」「子育て支援に求められること、職員の資質向上」「ことばが育つ保育支援」「職員のメンタルヘルス・モチベーションアップ研修」「人事考課の在り方」「新制度に関する自治体とのシンポジウム」「新制度の問題点・改善点・実務手続きの考え方」「世界の保育動向」「地域との関わり」「乳幼児の精神発達と病気」「発達」「不安障害や依存症等、精神的病気を抱えている家族への支援」「保育計画内容の自己評価視点」「保育の心持ち」「領域別指導と全領域の相互性」が挙げられた。

④研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、48名から得られ、その内の39名（81.3%）からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。その他の意見としては、オプションの昼食への意見や会場への提案等の記載があった。

2. 保育所初任保育所長研修会

(1) 研修のねらい

保育所長として、最新の保育政策の動向や関係法令、保育所における運営管理の課題への対応を学び、自園の保育の向上のための具体的な方法を考察し、リーダーとしての資質向上を図る。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度や関係法令を理解する。
- ・保育所における組織マネジメント、リーダーとしての役割を学ぶ。
- ・保育所のリスクマネジメントと保護者とのコミュニケーションを学ぶ。
- ・地域の実情にあわせた保育所のあり方や地域及び関係機関との連携・協働について理解する。
- ・保育理念に基づいた保育所運営や保育実践を実現するための自園のアクションプランを作成する。

(3) 対象

以下の条件のいずれかに該当する方

- ①平成 25・26 年度の保育所初任保育所長（就任予定者）研修会を修了し、平成 26 年度または平成 27 年度中に保育所長に就任（予定含む）する方、もしくはすでに保育所長に就任している方
- ②保育士資格を有し、平成 26 年度または平成 27 年度中に保育所長に就任（予定含む）する方、もしくはすでに保育所長に就任している方（経験 5 年以下）
- ③保育所長経験年数 1 年以上、5 年以下の方

【保育所初任保育所長研修会を受講される際の留意事項】

- ・保育士資格を有していない方で、かつ、保育所（認可）での所長経験が 1 年未満の方が「保育所初任保育所長研修会」の受講をするためには、「保育所初任保育所長（就任予定者）研修会」の受講（修了）が必要。
- ・「平成 26 年度 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会」を修了した方は、必ず平成 26 年度または平成 27 年度中に「保育所初任保育所長研修会」を受講すること（原則、受講した年度を含む 2 年度以内に受講すること）。やむを得ない事情により、期間中に受講ができなかった場合には、その翌年度（平成 28 年度）であれば受講が可能（申込みの際、理由書を添付すること）。
- ・すでに「保育所初任保育所長（就任予定者）研修会」を修了している方は、申込書に修了証No.を記入すること。今年度の 9/24～26 開催分を受講予定の方は、申込書に受講No.を記入すること。

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成 26 年 9 月 10 日(水)～12 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	300 名
平成 26 年 11 月 5 日(水)～7 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1	
平成 26 年 12 月 10 日(水)～12 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向	講義 1時間 30分	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課 【東京開催①】 課長 橋本 泰宏 【大阪開催】幼保連携推進室 室長 南 新平 【東京開催②】 課長 朝川 知昭
2	関係法令とガイドライン	講義 1時間 30分	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
3	保育所の組織マネジメント	講義・討議 3時間	上段:講師・コーディネーター、下段:実践報告 【東京開催①】 青山学院大学 情報メディアセンター 助教 坂田 哲人 RISSHO KID'S きらり&分園ポピー 園長 坂本 喜一郎 【大阪開催】 東洋大学 ライフデザイン学部 生活支援学科 准教授 高山 静子 社会福祉法人七恵会 ながかみ保育園(静岡県) 園長 野村 弘子 【東京開催②】 玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 教授 大豆生田 啓友 社会福祉法人 ほうりん福祉会 理事長 まんぼう保育園 園長 牧野 彰賢
4	保育所のリスクマネジメントと 保護者とのコミュニケーション	講義 3時間	東京きぼう法律事務所 弁護士・社会福祉士 寺町 東子
5	保育所の保護者支援と 地域に開かれた保育所づくり	講義・討議 3時間	【東京開催①②】 武蔵大学 人文学部 教授 武田 信子 【大阪開催】 NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事 松田 妙子
6	これからの保育所づくり ～アクションプラン～	講義・ ワークショップ 3時間	【東京開催①】 洗足こども短期大学 専任講師 井上 真理子 【大阪開催・東京開催②】 社会福祉法人つくし会 都原保育園 理事長・園長 岩井 沙弥花

(6) タイムスケジュール

時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第1日				受付	開講式	保育制度の動向	休憩	関係法令とガイドライン	
第2日		保育所の組織マネジメント		休憩		保育所のリスクマネジメントと保護者とのコミュニケーション			
第3日		地域に開かれた保育所づくり		休憩		これからの保育所づくり (事後シート含む)			

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		東京開催①	大阪開催	東京開催②
受講者数（申込者数）		358名（523名）	263名（272名）	298名（322名）
年齢	平均年齢（標準偏差）	50.3歳（10.2）	51.3歳（9.7）	47.7歳（9.6）
	範囲	24～80歳	23～72歳	24～73歳
性別	男性	135（37.7%）	73（27.8%）	96（32.2%）
	女性	223（62.3%）	190（72.2%）	202（67.8%）
運営主体	公営	55（15.4%）	72（27.4%）	35（11.7%）
	民営	303（84.6%）	191（72.6%）	263（88.3%）
対象	対象①	150（41.9%）	83（31.6%）	110（36.9%）
	対象②	155（43.3%）	123（46.8%）	138（46.3%）
	対象③	53（14.8%）	57（21.7%）	50（16.8%）
現在の勤務先	認可保育所	290（81.0%）	207（78.7%）	210（70.5%）
	認可外保育所	18（5.0%）	27（10.3%）	39（13.1%）
	認定こども園	21（5.9%）	15（5.7%）	17（5.7%）
	幼稚園	11（3.1%）	4（1.5%）	11（3.1%）
	学校教育施設（幼稚園以外）	1（0.3%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	社会福祉施設（保育所以外）	7（2.0%）	3（1.1%）	4（1.3%）
	その他	10（2.8%）	7（2.7%）	17（5.7%）
現職	保育士・幼稚園教諭	4（1.1%）	5（1.9%）	12（4.0%）
	リーダー	3（0.8%）	3（1.1%）	3（1.0%）
	主任	19（5.3%）	17（6.5%）	25（8.4%）
	副施設長	47（13.1%）	23（8.7%）	34（11.4%）
	施設長	235（65.6%）	174（66.2%）	172（57.7%）
	事務職員	27（7.5%）	16（6.1%）	23（7.7%）
	その他	23（6.4%）	25（9.5%）	29（9.7%）
保育所長経験年数	平均年数（標準偏差）	1.0年（1.0）	1.1年（1.2）	0.9年（1.3）
	範囲	0～6年	0～6年	0～10年
	0年	122名（34.1%）	104名（39.5%）	151名（50.7%）
	1年未満	180名（50.3%）	96名（36.5%）	85名（28.5%）
	1年以上	56名（15.6%）	63名（24.0%）	62名（20.8%）

(8) 事前・事後シート（アクションプラン）について

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするために、「事前シート」「事後シート(アクションプラン)」の提出を課題としている。研修会 1 か月前から課題に取り組むことで、研修への準備・心構えに繋げ、さらに、講義内のワークショップにおいても、他者と共有し、リライトすることで、研修効果の向上にも役立っている。

①事前シート

事前シートは、研修会最終日の講義 6「これからの保育所づくり(アクションプラン)」と接続させている。受講者が保育e-Learning(講義名:保育園長の責務と役割)を視聴した上で、「自園の保育理念(保育方針)・育てたい子ども像」について、原稿用紙(320~400 字)にまとめている。また、事前シートは、講義 6 担当講師にお送りし、講義やワークショップの検討材料として活用している。

※e-Learning とは? インターネットを活用して動画やテキスト教材を使って進めていく学習方法。日本保育協会が制作している「保育 e-Learning」では、インターネットが閲覧できる環境であれば、自宅や職場からいつでも保育に関する講義を無料で視聴することができる。

②事後シート（アクションプラン）

講義 6 において、保育所運営の理論・実践を踏まえた上で、「保育理念を実現するために」「職員の魅力を活かすために」の 2 つのキーワードでワークショップを行い、受講者同士で議論を深めた。

事後シートは、上記 2 つのキーワードを踏まえたアクションプランとして、受講者が「明日から所長としてできること、心がけること」をテーマに、原稿用紙(320~400 字)にまとめている。3 日間の研修を通じて学んだことや考えたことを振り返り、所長としての行動指針・計画を記述することで、保育現場に活かすことを目的としている。

(9) 研修活用調査結果について

東京①・大阪の 2 開催では、研修会の直後と 3 ヶ月後に実施した調査結果となっている。12 月に実施した東京開催②については、研修会の直後のみの調査結果となっている。

調査票の回収数(%)については、下記表の通り。

	東京開催①	大阪開催	東京開催②
受講者数	358	263	298
研修会直後調査回収数(%)	347(96.9%)	260(98.9%)	295(99.0%)
【受講者】3 ヶ月後調査回収数(%)	308(86.0%)	216(82.1%)	

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

保育所長として、最新の保育政策の動向や関係法令、保育所における運営管理の課題への対応を学び、自園の保育の向上のための具体的な方法を考察し、リーダーとしての資質向上を図る。

研修会直後では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の 6 段階の評価から回答を得た。

研修会の 3 ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「リーダーとしての資質」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、

(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後・3ヶ月後のいずれも高評価となっている。また、他研修会と比較すると、3ヶ月後の数値が0.5前後下がる傾向にあったが、微減もしくは同等となっている。保育所職員とは異なり、組織のトップとして研修会の学びをすぐに活かせることが一因として考えられる。

	東京開催①		大阪開催		東京開催②	
	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	4.8 0.7	4.6 0.7	4.6 0.7	4.6 0.7	4.7 0.7	

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育所運営・保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、各講義にばらつきはあるものの全体的に良い評価となっており、中でも講義4は非常に高い評価となっている。3ヶ月後になると、全体的に下がり同程度の数値に落ち着いている。

研修科目	東京開催①		大阪開催		東京開催②	
	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義1 保育制度の動向	4.5 0.8	4.2 0.9	4.6 0.8	4.2 0.8	4.5 0.9	
講義2 関係法令及びガイドライン	5.1 0.7	4.6 0.9	5.0 0.7	4.5 0.8	5.0 0.8	
講義3 保育所の組織マネジメント	5.0 0.9	4.4 0.9	4.8 0.9	4.3 0.9	5.0 0.9	
講義4 保育所のリスクマネジメントと保護者とのコミュニケーション	5.3 0.7	4.7 0.8	5.5 0.6	4.8 0.8	5.4 0.6	
講義5 保護者の支援と地域に開かれた保育所づくり	5.0 0.9	4.3 0.8	4.5 0.9	3.9 0.8	5.0 0.9	
講義4 これからの保育所づくり～アクションプラン～	5.0 0.9	4.2 0.9	4.9 1.0	4.0 1.0	5.2 3.5	

③保育所運営・保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている。活用度と同様に、講義4が最も活かしているという回答が3割強あり、「新しい知見・気づきが得られた」との理由であった。全体的な理由としては、いずれの開催地においても「継続的に課題として意識している」「新しい知見・気づきが得られた」「講義の内容が具体的で実践に活かした」の順に多く挙げられた。

（東京開催①）

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	無効・ 不明	回答 数
最も活かしている講義を1つ選択	16	53	80	99	30	29	0	307
1.講義の内容を理解できている	8	22	19	25	6	2	1	83
2.継続的に課題として意識している	9	28	51	70	22	22	0	202
3.保育の内容が良くなった	1	2	6	4	2	0	1	16
4.職場での共通理解が得られた	7	27	13	43	10	6	1	107
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	0	0	10	2	5	6	0	23
6.取り組む時間が取れた	2	5	2	0	0	4	0	13
7.講義の内容が実践にマッチしている	5	16	23	39	8	10	1	102
8.新しい知見・気づきが得られた	8	18	58	51	22	19	0	176
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	4	26	32	43	8	7	1	121
10.保育への姿勢が変わった	1	6	18	13	5	8	0	51
11.その他	1	1	0	0	1	0	0	3
計	46	151	232	290	89	84	5	

（大阪開催）

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	無効・ 不明	回答 数
最も活かしている講義を1つ選択	6	29	39	112	7	21	0	214
1.講義の内容を理解できている	2	12	8	23	2	7	0	54
2.継続的に課題として意識している	5	16	28	80	2	15	1	147
3.保育の内容が良くなった	0	1	2	0	1	1	0	5
4.職場での共通理解が得られた	2	13	11	44	0	0	0	70
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	1	3	3	2	0	3	0	12
6.取り組む時間が取れた	1	2	2	5	0	2	0	12
7.講義の内容が実践にマッチしている	1	12	16	43	2	3	0	77
8.新しい知見・気づきが得られた	3	12	25	54	6	16	0	116
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	1	12	15	48	4	7	0	87
10.保育への姿勢が変わった	1	2	5	25	0	8	0	41
11.その他	1	0	0	2	0	0	0	3
計	18	85	115	326	17	62	1	

④保育所運営・保育実践に活かしくかった講義とその理由について

最も活かしくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。「取り組む時間が取れなかった」「新しいことに取り組みにくい環境がある」が多く挙げられたのは、活かしたくても実務の都合や園環境等の理由で難しかったことが考えられる。また、「理論ばかりで実践に活かさない」「理論ばかりで実践に活かさない」という理由も多く挙げられた。

(東京開催①)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	無効・ 不明	回答 数
最も活かしくかった講義を1つ選択	112	18	60	7	30	63	0	290
1.講義の内容を理解できていない	28	4	9	0	5	7	0	53
2.継続的に課題として意識していない	20	3	17	0	7	7	0	54
3.保育の内容が変わらない	22	3	5	1	1	7	0	39
4.職場での共通理解が得られなかった	17	6	16	2	7	9	0	57
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	17	4	22	1	13	20	1	78
6.取り組む時間が取れなかった	30	9	18	4	13	33	1	108
7.講義の内容が実践にマッチしていない	25	4	29	3	10	9	0	80
8.新しい知見・気づきが得られなかった	21	4	12	3	10	15	0	65
9.理論ばかりで実践に活かさない	45	11	15	2	7	22	1	103
10.保育への姿勢が変わっていない	11	2	6	0	3	11	0	33
11.その他	35	1	11	2	4	15	0	68
計	271	51	160	18	80	155	3	

(大阪開催)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	無効・ 不明	回答 数
最も活かしくかった講義を1つ選択	61	16	27	3	56	44	0	207
1.講義の内容を理解できていない	21	2	1	1	0	3	0	28
2.継続的に課題として意識していない	13	2	6	0	16	8	0	45
3.保育の内容が変わらない	6	5	5	0	7	3	0	26
4.職場での共通理解が得られなかった	8	4	9	0	14	9	0	44
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	6	1	9	1	26	24	0	67
6.取り組む時間が取れなかった	13	9	8	3	28	11	0	72
7.講義の内容が実践にマッチしていない	18	6	13	1	25	24	0	87
8.新しい知見・気づきが得られなかった	9	4	5	0	11	14	0	43
9.理論ばかりで実践に活かさない	28	7	7	1	3	6	0	52
10.保育への姿勢が変わっていない	6	2	2	0	5	2	2	19
11.その他	19	3	7	0	11	9	0	49
計	147	45	72	7	146	113	2	

⑤「保育所長」として今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、東京開催①121名(33.8%)、大阪開催125名(47.5%)、東京開催②144名(48.3%)の計390名から得られた。以下の表は複数回答のあったテーマとなっている。

テーマ	回答数	テーマ	回答数
保育所におけるリスクマネジメント	36	園内環境整備	6
保護者支援・対応・方法	35	地域連携	6
人材育成	29	幼保連携型認定こども園の具体的なイメージ(教育、あり方、実践)	6
組織マネジメント	26	連携・チームワーク	5
園長の責務と役割(実務、労務)	19	保育計画及び評価(指導課程、指導計画、教育計画)	4
経営、運営、事務	13	保育指針と幼稚園教育要領	4
園内研修	12	保育所づくり	4
保育制度の動向	12	アレルギー対応	3
遊びの質を高めるには	11	教育と保育	3
危機管理(子どものケア、災害)	11	子どもの最善の利益、支援、生活	3
特別なニーズを要する子ども支援・障害児保育	11	質の高い園にするための所長の関わり	3
関係法令及びガイドライン	10	感覚統合	2
保育内容と実践	10	子どもの発達	2
保育の質の向上	10	コミュニケーション・人間関係	2
保育士と園の評価の仕組み	9	職員のメンタルヘルス	2
クレーム対応事例(苦情、近隣トラブル)	8	食事のガイドライン	2
これからの保育所づくり、アクションプラン	8	心理学(TA・・・行動療法)	2
他園の運営事例(多施設展開、過疎地、小規模の保育所など)	8	幼児の野外保育・野外活動・森のようちえんプロジェクト	2
保育全般	7		

その他、個別の記述としては、「社会情勢と保育」「福祉におけるBCP策定」「職員のキャリアパスについての具体的取組と概論」「テファリキ・学びの物語」「家庭崩壊の背景(虐待と病気、犯罪)」「NPO法人との協働(地域資源の活動)」「保幼小の連携」「アンガーマネジメント」「現場保育の基礎マニュアル」「コモンセンスペアレンツ」「自尊心・基本的信頼感を育てる」「子どもとの対話力・心の育ち」「異年齢保育での子どもの育ち」「育児担当制」「アレルギー食対応(作り方、注意の仕方)」「臨床心理士からの保育」などが挙げられ、所長の学びたいテーマは多岐に渡っている。

⑥研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、東京開催①175名(48.9%)、大阪開催126名(47.9%)、東京開催②169名(56.7%)の計470名から得られ、その内の316名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。一方、1つの講義の終了時間が伸びたことがあり、講義時間の徹底への意見もいただいた。その他としては、「全国規模の研修会のため、交流会を設けてほしい」「全国をブロックにわけて開催してほしい」「地方から参加のため最終日の終了時間を早めてほしい」「参加者のマナーへの苦言」「運営主体や経験年数を細かく分けての実施やワークショップでのグループ分けの配慮」などの意見もそれぞれ複数あった。

3. 保育所初任保育所長（就任予定者）研修会

(1) 研修のねらい

保育所長として、最新の保育政策の動向や関係法令、保育所の果たす社会的な役割や保育所保育指針などの保育所を運営する際の基礎を学ぶ。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度や関係法令を理解する。
- ・保育所の社会的役割と保育の原理を理解する。
- ・保育所保育指針第1章から第7章までを理解する。

(3) 対象（以下の4条件のすべてに該当する方）

- ①保育士資格を有していない方 ②保育所（認可）での所長経験が0～1年未満の方
- ③平成26年度中または平成27年度中に保育所長に就任（予定含む）する方、もしくは、すでに保育所長として就任している方（保育所長経験1年未満）
- ④平成26年度または平成27年度「保育所初任保育所長研修会」の受講を希望している方

【保育所初任保育所長（就任予定者）研修会を受講される際の留意事項】

・保育士資格を有していない方で、かつ、保育所（認可）での所長経験が研修会開催日までに1年未満の方は、「保育所初任保育所長研修会」の受講をするために、本研修会の受講が必要。

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成26年7月9日(水)～11日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台4-6	300名
平成26年9月24日(水)～26日(金)			

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向	講義 1時間30分	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局保育課 課長 橋本泰宏(7月)・朝川知昭(9月)
2	関係法令とガイドライン	講義 1時間30分	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場耕一郎
3	保育所保育指針第1・2・3章 ～総則・子どもの発達と保育の内容～	講義 3時間	日本女子体育大学 幼児発達学専攻 准教授 天野珠路
4	保育所保育指針第4章 ～保育の計画及び評価～	講義・討議 3時間	東京家政大学 家政学部 児童学科 教授 増田まゆみ
5	保育所保育指針第5章 ～健康・安全～	講義 1時間30分	全国保育園保健師看護師連絡会 理事・看護師 宮崎博子
6	保育所保育指針第6章 ～保護者に対する支援～	講義 1時間30分	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授 寺田清美
7	保育所保育指針第7章 ～職員の資質向上～	講義・討議 3時間	仁愛大学 人間生活学部 子ども教育学科 教授 西村重稀

(6) タイムスケジュール

日	時間	9	10	30	50	11	30	12	20	13	20	30	14	50	15	10	16	40	50	17
第 1 日								受 付		開 講 式	保育制度の動向				休 憩	関係法令と ガイドライン				オリエン テー
第 2 日		保育所保育指針第1・2・3章 ～総則・子どもの発達と保育の内容～						休 憩	保育所保育指針第4章 ～保育の計画及び評価～						オリエン テー					
第 3 日		保育所保育指針 第6章 ～保護者に対す る支援～	休 憩	保育所保育指針 第5章 ～健康・安全～			休 憩	保育所保育指針第7章 ～職員の資質向上～ (事後シート含む)						オリエン テー						

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		東京開催 (7月)	東京開催 (9月)
受講者数 (申込者数)		328名 (386名)	199名 (225名)
年齢	平均年齢 (標準偏差)	49.2歳 (11.8)	47.8歳 (12.2)
	範囲	23～81歳	23～75歳
性別	男性	216 (65.%)	113 (56.8%)
	女性	112 (34.1%)	86 (43.2%)
運営主体	公営	18 (5.5%)	2 (1.0%)
	民営	310 (94.5%)	197 (99.0%)
保育士資格	有り	43 (13.1%)	29 (14.6%)
	無し	285 (86.9%)	170 (85.4%)
現在の 勤務先	認可保育所	234 (71.3%)	113 (56.8%)
	認可外保育所	18 (5.5%)	27 (13.6%)
	認定こども園	17 (5.2%)	19 (9.5%)
	幼稚園	15 (4.6%)	9 (4.5%)
	学校教育施設 (幼稚園以外)	5 (1.5%)	0 (0.0%)
	社会福祉施設 (保育所以外)	16 (4.9%)	6 (3.0%)
	その他	23 (7.0%)	25 (12.6%)
現職	保育士・幼稚園教諭	9 (2.7%)	5 (2.5%)
	リーダー	7 (2.1%)	0 (0.0%)
	主任	5 (1.5%)	9 (4.5%)
	副施設長	60 (18.3%)	29 (14.6%)
	施設長	142 (43.3%)	76 (38.2%)
	事務職員	48 (14.6%)	33 (16.6%)
	その他	57 (17.4%)	47 (23.6%)
保育所長 経験年数	平均年数 (標準偏差)	0.1年 (0.3)	0.3年 (0.4)
	範囲	0～3年	0～2年
	1年未満	300名	192名
	1年以上	28名	7名

※本協会では、『保育士資格を有する方』及び『保育所長経験1年以上の方』を本研修会の対象としていないが、「保育所初任保育所長（就任予定者）研修会及び保育所初任保育所長研修会の受講をセットとしている」「保育所長経験1年以上でも、児童福祉施設経験2年に満たない」等の自治体の事情を鑑みて、受講者の受け入れをしている。また、「保育士資格取得から数十年経っているので、新指針を学びたい」「最新の保育を学びたい」等の熱意ある申込者についても、自治体からの推薦があり、受け入れをしている。

（8）事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容は、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践・保育所運営を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述（320～400字）の3項目となっている。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（複数回答可）

受講者の回答としては、2開催共通して「保育所長の設置要件に必要」との回答が1番多く65%前後となっており、受講者の保育所がある自治体が重なっていることを考慮しても、おおよそ半分の自治体で所長要件の対象としていることがわかった。7月開催の参加理由の2位は、「法人等からの業務命令」が42%となっており、所長の設置要件を年度の早い段階で満たすことを求められていることが考えられる。9月開催の2位は、「研修のねらい、研修内容を見て」が41%強となっている。3位については、共通して「保育所運営・実践に課題を感じている」が41%前後となっている。

研修会参加の理由（複数回答可） （なぜ参加しようと思ったか）	東京開催（7月）		東京開催（9月）	
	回答数	割合	回答数	割合
1.研修のねらい、研修内容	114	34.8%	82	41.2%
2.各講義のテーマ・講師	53	16.2%	30	15.1%
3.保育所運営・実践に課題を感じている	137	41.8%	81	40.7%
4.保育所長の設置要件に必要	216	65.9%	125	62.8%
5.自治体の保育所主管課から派遣の要請	38	11.6%	24	12.1%
6.法人等からの業務命令	138	42.1%	76	38.2%
7.その他	9	2.7%	12	6.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答数	705		430	
受講者数	328		199	

②受講者が特に学びたい講義

2開催共通して、「保育指針第7章職員の資質向上」が3割を超え、次いで「保育制度の動向」が3割弱となっており、施設長の責務や職員育成、最新の情報に関する講義に全体の約7割が集中している。続いて、7月開催では「保育指針1～3章 総則・子どもの発達・保育の内容」が13%、9月開催では「保育指針5章 健康・安全」が12%となっている。

学びたい講義	東京開催(7月)		東京開催(9月)	
	回答数	割合	回答数	割合
1.保育制度の動向	95	29.0%	55	27.6%
2.関係法令及びガイドライン	16	4.9%	12	6.0%
3.保育所保育指針第1・2・3章～総則・子どもの発達と保育の内容～	45	13.7%	21	10.6%
4.保育所保育指針第4章～保育の計画及び評価～	10	3.0%	8	4.0%
5.保育所保育指針第5章～健康・安全～	18	5.5%	24	12.1%
6.保育所保育指針第6章～保護者に対する支援～	37	11.3%	6	3.0%
7.保育所保育指針第7章～職員の資質の向上～	107	32.6%	73	36.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
受講者数	328		199	

(9) 研修活用調査結果について

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

回収率について、7月開催の研修会直後調査では、受講者数328名のうち、323名(98.5%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、275名(83.8%)の受講者から調査票を回収した。

9月開催の研修会直後調査では、受講者数199名のうち、196名(98.5%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、154名(77.4%)の受講者から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について(単純平均値・標準偏差)

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

保育所長として、最新の保育政策の動向や関係法令、保育所の果たす社会的な役割や保育所保育指針などの保育所を運営する際の基礎を学ぶ。

研修会直後では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして保育所を運営する際の基礎力が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後・3ヶ月後のいずれも高評価となっている。また、他研修会と比較すると、3ヶ月後の数値が下がる傾向にあったが、本研修会では、若干ではあるが評価が上がっている。保育所職員とは異なり、組織のトップとして研修会の学びをすぐに活かせることが一因として考えられる。

	東京開催(7月)		東京開催(9月)	
	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後
	平均値	平均値	平均値	平均値
	標準偏差	標準偏差	標準偏差	標準偏差
【研修のねらい】	4.7	4.8	4.6	4.7
	0.8	0.7	0.7	0.8

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育所運営・保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、いずれの講義も多少の前後はあるものの高評価となっているが、3ヶ月後になると、全体的に下がり、いずれの講義も同程度の数値となっている。

研修科目	東京開催(7月)		東京開催(9月)	
	講義直後	3ヶ月後	講義直後	3ヶ月後
	平均値	平均値	平均値	平均値
	標準偏差	標準偏差	標準偏差	標準偏差
講義 1 保育制度の動向	4.5 0.9	4.2 1.0	4.5 0.8	4.3 0.8
講義 2 関係法令及びガイドライン	4.9 0.9	4.6 0.9	4.9 0.8	4.5 0.8
講義 3 保育所保育指針第 1.2.3 章	4.9 0.8	4.4 0.8	4.9 0.8	4.5 0.8
講義 4 保育所保育指針第 4 章	4.9 0.8	4.4 0.9	4.8 0.9	4.5 0.9
講義 5 保育所保育指針第 5 章	4.8 0.8	4.5 0.9	4.9 0.8	4.6 0.9
講義 6 保育所保育指針第 6 章	5.0 0.9	4.5 0.9	5.1 0.8	4.5 0.9
講義 7 保育所保育指針第 7 章	4.9 0.8	4.5 0.9	5.0 0.8	4.5 0.9

③保育所運営・保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている。特に多い理由としては、「継続的に課題として意識している」「新しい知見・気づきが得られた」「講義の内容が具体的で実践に活かされた」が挙げられた。

（7月開催）

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	講義 7	無効 不明	回答数
最も活かしている講義を1つ選択	36	67	23	30	30	40	28	15	269
1.講義の内容を理解できている	18	22	8	10	9	14	10	2	93
2.継続的に課題として意識している	27	36	9	18	19	19	17	11	156
3.保育の内容が良くなった	0	3	3	0	1	6	3	3	19
4.職場での共通理解が得られた	6	17	4	5	8	9	6	4	59
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	6	3	2	1	2	3	3	5	25
6.取り組む時間が取れた	2	2	2	3	1	3	3	0	16
7.講義の内容が実践にマッチしている	6	30	4	14	12	15	6	3	90
8.新しい知見・気づきが得られた	18	39	16	12	15	22	18	8	148
9.講義内容が具体的で実践に活かされた	8	30	6	12	16	17	7	5	101
10.保育への姿勢が変わった	3	12	10	7	3	9	6	4	54
11.その他	6	3	1	0	0	0	0	0	10
計	100	197	65	82	86	117	79	45	

（9月開催）

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	講義 7	無効 不明	回答数
最も活かしている講義を1つ選択	15	31	9	20	19	36	15	10	155
1.講義の内容を理解できている	9	9	1	8	4	11	5	1	48
2.継続的に課題として意識している	10	15	7	6	11	24	8	7	88
3.保育の内容が良くなった	0	2	1	2	0	4	1	1	11
4.職場での共通理解が得られた	3	9	1	5	8	5	5	2	38
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	2	5	1	3	3	5	5	2	26
6.取り組む時間が取れた	0	3	1	2	3	2	1	1	13
7.講義の内容が実践にマッチしている	3	9	2	6	6	13	4	3	46
8.新しい知見・気づきが得られた	10	19	8	14	9	22	11	8	101
9.講義内容が具体的で実践に活かされた	1	6	2	7	10	13	4	4	47
10.保育への姿勢が変わった	3	8	2	7	1	6	1	5	33
11.その他	2	1	1	0	0	0	0	0	4
計	43	86	27	60	55	105	45	34	

④保育所運営・保育実践に活かしくかった講義とその理由について

最も活かしくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。最も多い理由としては、「取り組む時間が取れなかった」となっているが、活かしたくても実務の都合で難しかったことが考えられる。次いで「理論ばかりで実践に活かせない」「新しいことに取り組みにくい環境がある」「新しい知見・気づきが得られなかった」が挙げられた。

(7月開催)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	講義 7	無効 不明	回答数
最も活かしくかった講義を1つ選択	105	22	17	30	26	16	30	4	250
1.講義の内容を理解できていない	35	9	3	7	3	2	3	2	64
2.継続的に課題として意識していない	23	6	3	6	5	1	5	1	50
3.保育の内容が変わらない	15	6	5	13	6	4	6	1	56
4.職場での共通理解が得られなかった	19	0	3	6	5	3	7	2	45
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	28	4	2	9	10	5	8	2	68
6.取り組む時間が取れなかった	29	7	13	15	14	7	13	2	100
7.講義の内容が実践にマッチしていない	32	5	1	5	4	5	8	1	61
8.新しい知見・気づきが得られなかった	18	6	5	4	18	7	10	0	68
9.理論ばかりで実践に活かせない	44	11	5	5	7	6	11	3	92
10.保育への姿勢が変わっていない	8	4	3	3	2	1	4	1	26
11.その他	27	0	0	7	4	2	6	0	46
計	278	58	43	80	78	43	81	15	

(9月開催)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6	講義 7	無効 不明	回答数
最も活かしくかった講義を1つ選択	57	23	10	12	10	9	14	2	137
1.講義の内容を理解できていない	14	10	1	1	1	1	2	0	30
2.継続的に課題として意識していない	11	8	1	3	2	2	1	0	28
3.保育の内容が変わらない	18	3	3	3	5	0	4	1	37
4.職場での共通理解が得られなかった	5	2	3	1	1	3	4	0	19
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	11	5	4	3	4	4	4	1	36
6.取り組む時間が取れなかった	17	3	4	6	4	5	6	3	48
7.講義の内容が実践にマッチしていない	15	5	4	5	1	3	3	0	36
8.新しい知見・気づきが得られなかった	12	8	1	2	7	4	2	0	36
9.理論ばかりで実践に活かせない	20	11	2	2	1	3	3	1	43
10.保育への姿勢が変わっていない	6	4	3	3	1	0	3	3	23
11.その他	15	5	1	3	1	0	3	0	28
計	144	64	27	32	28	25	35	9	

⑤「保育所長」として今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、7月開催 164名(34.5%)、9月開催 113名(56.8%)の計 277名から得られた。

以下の表は複数回答のあったテーマとなっている。

テーマ	回答数	テーマ	回答数
保護者支援・対応・方法	40	安全管理	5
人材育成	30	保育士と園の評価の仕組み	4
保育制度の動向	29	保育所におけるマネジメント	4
経営、運営、事務	17	保育の質の向上	4
幼保連携型認定こども園の具体的イメージ (メリット、展望、理解、討論会、実状、課題、 教育・保育要領)	16	食育	4
危機管理(ケガ・震災、国内外事故防止、 SIDS、アナフィラキシーショック、病気、救命 救急、実際の事例)	15	「生きる力」を養う保育	3
質の高い保育園にするための所長の関わり	12	少子化における保育所のあり方	3
保育計画及び評価(指導課程、指導計画、 教育計画)	11	保育所におけるリスクマネジメント	3
地域子育て支援	11	見守る保育	3
特別なニーズを要する子ども支援	11	遊びの質を高めるには	2
園内研修	9	絵本・図書の活用	2
保育指針(DVD 視聴を通しての講義)	8	感染症	2
子どもの発達	7	先進的・個性的な取り組みをしてい る園の実践事例	2
園内の事故事例と対応、評価	6	小学校との連携	2
クレーム対応・事例	6	地域連携	2
関係法令及びガイドライン	6	子どもを取り巻く社会変化と現状	2
施設長の役割(実務、労務)	6	園内環境整備	2
保育内容と実践	6	自己肯定感を育てる保育	2
アレルギー対応	5	乳児の健康管理・安全	2

その他、個別の記述としては、「アレルギー食対応（作り方、注意点）」「病児後保育の具体的実践例」「社会の求める保育所像」「園に求められる役割」「他県の保育事情・事例」「乳幼児期の保育」「認知科学と乳幼児教育」「気になる子どもの対応」「小1プロブレムの現状のとらえ方」「所長と保護者間の良い関係の作り方」「ヒヤリハットの活用」「公私立の待遇差（官民格差）」などが挙げられた。

⑥研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、7月開催 246名(75.0%)、9月開催 156名(78.4%)の計 402名から得られ、その内の 184名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。一方、1つの講義の終了時間が伸びたことがあり、講義時間の徹底への意見もいただいた。その他としては、「全国規模の研修会のため、交流会を設けてほしい」「全国をブロックにわけて開催してほしい」「地方から参加のため最終日の終了時間を早めてほしい」などの意見もそれぞれ複数あった。

4. 保育所乳児保育担当者研修会

(1) 研修のねらい

保育士として、最新の保育政策の動向や関係法令、乳児保育の意義や乳児の心身の発達を理解し、保育所並びに個人の乳児保育の実践力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度や関係法令を理解する。
- ・乳児保育の意義と社会的役割を理解する。
- ・乳児期の心の発達を支援する保育者の関わりを学ぶ。
- ・乳児の発達に関する記録の取り方を学ぶ。
- ・乳児期の感染症、予防接種など医学的な知見を深める。

(3) 対象

- ①保育所の乳児保育担当の保育士
- ②保育所の保育士並びに保育所職員

(4) 研修期間及び会場・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成 26 年 6 月 4 日(水)～6 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	300 名
平成 26 年 6 月 11 日(水)～13 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1	

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン	講義 3時間	厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	乳児保育の意義	講義 3時間	東京家政大学ナースリールーム 主任 井桁 容子
3	予防接種と 保育所における感染症対策	講義 3時間	大阪府済生会中津病院 臨床教育部・感染管理室 部長・医学博士 安井 良則
4	乳幼児期の心の発達と 保育者の役割	講義・討議 3時間	帝塚山大学 現代生活学部 こども学科 准教授 西村 真実
5	乳児の育ちと記録	講義・討議 3時間	大阪総合保育大学・大学院 児童保育学部 学部長・教授 大方 美香

(6) タイムスケジュール

時間 日	9	10	11	30	12	20	13	20	30	14	15	10	16	17	40
第 1 日					受	開	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン							オリエンテ ーション	
第 2 日	乳児保育の意義				休		予防接種と 保育所における感染症対策							オリエンテ ーション	
第 3 日	乳幼児期の心の発達と 保育者の役割				休		乳児の育ちと記録							修了証配 付	

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		東京開催	大阪開催
受講者数（申込者数）		407名（509名）	334名（339名）
年齢	平均年齢（標準偏差）	34.0歳（9.7）	33.4歳（9.4）
	範囲	20～69歳	20～61歳
性別	男性	12（2.9%）	8（2.4%）
	女性	395（97.1%）	326（97.6%）
運営主体	公営	51（12.5%）	67（20.1%）
	民営	356（87.5%）	267（79.9%）
現職	保育士	173（42.5%）	137（41.0%）
	クラスリーダー	95（23.3%）	79（23.7%）
	乳児リーダー	98（24.1%）	86（25.7%）
	主任	30（7.4%）	25（7.5%）
	その他	11（2.7%）	7（2.1%）
乳児経験年数	平均年数（標準偏差）	4.3年（4.0）	4.3年（3.9）
	範囲	0～36年	0～21年
保育士経験年数	平均年数（標準偏差）	9.4年（7.1）	10.0年（7.3）
	範囲	0～36年	0～32年

(8) 参考資料の活用

講義 5 「乳児の育ちと記録」

本講義の中で、乳児期の子どもの育ちを保障するために、各園がどのようなねらいや目標を立てて日々の保育実践を行っているかを情報共有し、新たな視点や気づきを得ることを目的として、グループワークによるディスカッションを実施した。参考資料として、受講者が担当しているクラスの保育計画（月案・週案）のコピーを持参いただいた。なお、保育計画に記載の個人情報等については、イニシャル化や空白にするなど、十分に配慮するよう対応した。

(9) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述(200～400字)の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長(所属長)にも依頼している。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由(受講者回答)・派遣理由(保育所長回答)

受講者の回答としては、「所長等からの業務命令」「研修のねらい・研修内容」「乳児保育の実践に課題がある」が上位を占めている。保育所長の回答としては、「研修のねらい・研修内容」が非常に多く45%前後となり、「毎年保育士を順番に派遣している」「乳児保育の実践に課題がある」が20%前後であった。

参加/職員派遣の理由 (なぜ参加しようと思ったか)	【東京開催】		【大阪開催】	
	受講者	保育所長	受講者	保育所長
	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)
1.研修のねらい・研修内容	102(25.1%)	184(45.2%)	80(24.0%)	138(41.3%)
2.各講義のテーマ・講師	23(5.7%)	24(5.9%)	20(6.0%)	28(8.4%)
3.乳児保育の実践に課題がある	74(18.2%)	72(17.7%)	88(26.3%)	56(16.8%)
4.毎年、保育士を順番に派遣している	50(12.3%)	83(20.4%)	31(9.3%)	60(18.0%)
5.自治体からの派遣の要請	20(4.9%)	18(4.4%)	24(7.2%)	22(6.6%)
6.所長等の業務命令/本人からの申し出	126(31.0%)	15(3.7%)	79(23.7%)	18(5.4%)
7.その他	9(2.2%)	11(2.7%)	6(1.8%)	11(3.3%)
無回答・無効	3(0.7%)	0(0.0%)	6(1.8%)	1(0.3%)
受講者数	407 (100%)	407 (100%)	334 (100%)	334 (100%)

②受講者が特に学びたい講義/保育所長が特に学んでほしい講義

受講者の68%の方が「乳幼児期の心の発達と保育者の役割」を学びたいと回答し、保育所長からも55%強の回答が得られた。保育所長からは、「乳児保育の意義」への回答も多く、東京開催31%・大阪開催24%となっている。受講者としては実践的な内容に期待し、保育所長としては保育所の社会的役割や総論的な学びにも期待していることがわかった。

学びたい講義/学んできてほしい講義	【東京開催】		【大阪開催】	
	受講者	保育所長	受講者	保育所長
	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)	回答数 (%)
1.保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	7(1.7%)	23(5.7%)	7(2.1%)	19(5.7%)
2.乳児保育の意義	39(9.6%)	126(31.0%)	22(6.6%)	80(24.0%)
3.予防接種と保育所における感染症対策	39(9.6%)	18(4.4%)	51(15.3%)	39(11.7%)
4.乳幼児期の心の発達と保育者の役割	277(68.1%)	224(55.0%)	229(68.6%)	193(57.8%)
5.乳児の育ちと記録	45(11.1%)	16(3.9%)	23(6.9%)	2(0.6%)
無回答	0(0.0%)	0(0.0%)	2(0.6%)	1(0.3%)
受講者数	407(100%)	407(100%)	334(100%)	334(100%)

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

保育所長の7割前後が「自治体からの案内」から、次いで17%が「保育団体からの案内」から本研修会を知ったことがわかった。また、「その他」の意見としては、法人や保育園としての外部研修の計画の中に組み込んでいるという回答が5名から得られた。課題としては、他研修会でも共通しているが、自治体からの周知に偏っているため、自らの広報周知を工夫する必要がある。

研修会を知った経緯	【東京開催】		【大阪開催】	
	回答数	割合	回答数	割合
1.自治体(都道府県・市区町村)からの案内	297	73.0%	222	66.5%
2.保育団体からの案内	69	17.0%	59	17.7%
3.日本保育協会のホームページ等の案内	30	7.4%	29	8.7%
4.他園の園長からの情報	1	0.2%	8	2.4%
5.保育関係の雑誌・業界紙	2	0.5%	5	1.5%
6.受講保育士からの申し出	0	0.0%	5	1.5%
7.その他	8	2.0%	5	1.5%
無回答	0	0.0%	1	0.3%
受講者数	407	100.0%	334	100.0%

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全体の99%以上の保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園(組織)として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「研修報告書の作成・報告会」が最も多く77%強、次いで「職員会議での報告」が71%強、「資料の回覧」が56%前後となっている。

保育園内での共有方法(複数回答)	【東京開催】		【大阪開催】	
	回答数	割合	回答数	割合
1. 研修会資料の回覧	237	58.2%	187	56.0%
2. 職員会議での報告	289	71.0%	251	75.2%
3. 研修会のテーマについて、園内研修の場を設ける	117	28.8%	104	31.1%
4. 研修報告書(復命書等)の作成・報告会	315	77.4%	267	79.9%
5. 個人の学びなので共有する予定はない	1	0.3%	0	0.0%
6. その他	2	0.5%	4	1.2%
無回答	3	0.7%	4	1.2%
総回答数	964		817	
受講者数	407		334	

(10) 研修活用調査結果について

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

回収率について、東京開催の研修会直後調査では、受講者数407名のうち、403名(99.0%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、327名(80.3%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも依頼し、320名(78.6%)から調査票を回収した。

大阪開催分の研修会直後調査では、受講者数334名のうち、332名(99.4%)から調査票を回収し、3ヶ月後調査では、263名(78.7%)の受講者から調査票を回収した。加えて、257名(76.9%)の保育所長から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について(単純平均値・標準偏差)

本研修会では、以下の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

保育士として、最新の保育政策の動向や関係法令、乳児保育の意義や乳児の心身の発達を理解し、保育所並びに個人の乳児保育の実践力を高める。

研修会直後では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「乳児保育の実践力」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後・3ヶ月後のいずれも高評価となっている。

	東京開催			大阪開催		
	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	4.9 0.6	4.8 0.7	4.6 0.7	5.0 0.7	4.8 0.7	4.5 0.7

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、いずれの講義も高評価となっているが、3ヶ月後になると、全体的に下がっている。その中で、講義4「乳幼児期の心の発達と保育者の役割」は、実践的な内容であり、下げ幅が最も少なく、研修会の学びが継続的に活かされていると考えられる。

研修科目	東京開催			大阪開催		
	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義1 保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	4.9 0.8	3.9 0.9	3.8 1.0	4.6 0.8	3.9 0.9	3.6 0.9
講義2 乳児保育の意義	5.3 0.7	4.8 0.8	4.6 0.8	5.4 0.6	4.9 0.8	4.6 0.8
講義3 予防接種と保育所における感染症対策	5.0 0.7	4.3 0.8	4.3 0.8	5.2 0.7	4.4 0.8	4.4 0.9
講義4 乳幼児期の心の発達と保育者の役割	5.1 0.7	4.7 0.8	4.6 0.8	5.1 0.8	4.8 0.8	4.6 0.8
講義5 乳児の育ちと記録	5.1 0.7	4.5 0.9	4.5 0.8	4.8 0.8	4.4 0.8	4.4 0.9

③保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている約4割の方が講義2を選択し、「新しい知見・気づきが得られた」を理由として挙げている。全体的には、「継続的に課題として意識している」「講義の内容が具体的で実践に活かされた」「保育への姿勢が変わった」の理由も多くが挙げられた。

東京開催の保育所長の回答では、「職場での共通理解が得られた」という回答も多く挙げられており、保育所全体で活かしていることがわかった。

(東京開催・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしている講義を1つ選択	4	129	19	68	56	51	327
1.講義の内容を理解できている	1	33	9	16	7	11	77
2.継続的に課題として意識している	1	69	6	33	33	28	170
3.保育の内容が良くなった	0	18	0	12	9	8	47
4.職場での共通理解が得られた	2	21	10	8	13	9	63
5.新しいことに取組みやすい環境がある	1	9	1	1	3	3	18
6.取り組む時間が取れた	2	3	1	2	5	1	14
7.講義の内容が実践にマッチしている	0	32	6	20	12	13	83
8.新しい知見・気づきが得られた	3	80	11	44	37	28	203
9.講義内容が具体的で実践に活かした	0	50	6	31	21	21	129
10.保育への姿勢が変わった	2	55	4	35	24	23	143
11.その他	0	2	2	0	0	0	4
計	12	372	56	202	164	145	

(大阪開催・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしている講義を1つ選択	2	118	12	60	19	50	261
1.講義の内容を理解できている	1	23	3	21	4	10	62
2.継続的に課題として意識している	0	58	3	39	10	24	134
3.保育の内容が良くなった	0	22	0	4	3	14	43
4.職場での共通理解が得られた	2	16	4	11	4	12	49
5.新しいことに取組みやすい環境がある	0	2	0	3	1	2	8
6.取り組む時間が取れた	1	2	1	0	0	0	4
7.講義の内容が実践にマッチしている	0	37	6	18	7	19	87
8.新しい知見・気づきが得られた	2	77	7	38	12	33	169
9.講義内容が具体的で実践に活かした	0	51	9	18	11	21	110
10.保育への姿勢が変わった	0	60	2	26	4	15	107
11.その他	0	2	1	1	0	0	4
計	6	350	36	179	56	150	

(東京開催・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしている講義を1つ選択	4	80	17	73	45	91	310
1.講義の内容を理解できている	1	26	6	16	16	33	98
2.継続的に課題として意識している	3	35	7	33	20	38	136
3.保育の内容が良くなった	1	17	5	23	7	29	82
4.職場での共通理解が得られた	1	30	8	22	11	44	116
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	1	6	1	5	4	12	29
6.取り組む時間が取れた	0	7	1	2	2	4	16
7.講義の内容が実践にマッチしている	1	12	5	14	14	22	68
8.新しい知見・気づきが得られた	2	44	10	45	19	40	160
9.講義内容が具体的で実践に活かした	1	20	7	18	13	17	76
10.保育への姿勢が変わった	1	25	0	28	11	24	89
11.その他	0	2	0	2	2	0	6
計	12	224	50	208	119	263	

(大阪開催・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしている講義を1つ選択	0	58	13	73	29	75	248
1.講義の内容を理解できている	0	22	3	17	11	20	73
2.継続的に課題として意識している	0	24	4	34	16	34	112
3.保育の内容が良くなった	0	16	1	19	5	11	52
4.職場での共通理解が得られた	0	20	7	23	5	23	78
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	0	1	0	5	2	13	21
6.取り組む時間が取れた	0	2	0	0	2	3	7
7.講義の内容が実践にマッチしている	0	15	6	24	14	17	76
8.新しい知見・気づきが得られた	0	31	5	38	13	37	124
9.講義内容が具体的で実践に活かした	0	17	6	13	6	26	68
10.保育への姿勢が変わった	0	18	2	27	6	19	72
11.その他	0	1	0	1	1	0	3
計	0	167	34	201	81	203	

④保育実践に活かしにくかった講義とその理由について

最も活かしにくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。開催地や受講者・保育所長ごとにばらつきはあるが、多い理由としては、「理論ばかりで実践に活かさない」「取り組む時間が取れなかった」「講義の内容が実践にマッチしていない」「継続的に課題として意識していない」が挙げられた。

(東京開催・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしにくかった講義を1つ選択	189	12	39	19	33	15	307
1.講義の内容を理解できていない	55	1	7	2	4	2	71
2.継続的に課題として意識していない	52	2	2	1	5	1	63
3.保育の内容が変わらない	36	3	14	8	4	3	68
4.職場での共通理解が得られなかった	11	3	4	1	8	2	29
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	24	2	4	5	13	6	54
6.取り組む時間が取れなかった	63	4	13	0	19	6	105
7.講義の内容が実践にマッチしていない	70	3	9	7	4	4	97
8.新しい知見・気づきが得られなかった	19	1	8	10	4	2	44
9.理論ばかりで実践に活かさない	97	3	17	9	9	8	143
10.保育への姿勢が変わっていない	16	1	3	1	3	2	26
11.その他	41	4	9	4	10	3	71
計	484	27	90	48	83	39	

(大阪開催・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしにくかった講義を1つ選択	135	3	25	13	42	19	237
1.講義の内容を理解できていない	43	0	5	2	7	4	61
2.継続的に課題として意識していない	29	0	6	4	10	2	51
3.保育の内容が変わらない	39	0	7	1	10	2	59
4.職場での共通理解が得られなかった	9	2	0	0	2	1	14
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	24	2	5	3	9	7	50
6.取り組む時間が取れなかった	41	3	6	2	20	15	87
7.講義の内容が実践にマッチしていない	45	0	9	5	14	5	78
8.新しい知見・気づきが得られなかった	15	0	5	4	10	3	37
9.理論ばかりで実践に活かさない	66	0	12	7	14	10	109
10.保育への姿勢が変わっていない	8	0	2	0	2	0	12
11.その他	0	2	1	1	0	43	47
計	319	9	58	29	98	92	

(東京開催・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしにくかった講義を1つ選択	208	15	18	6	16	30	293
1.講義の内容を理解できていない	56	0	1	0	1	5	63
2.継続的に課題として意識していない	83	6	5	1	2	13	110
3.保育の内容が変わらない	10	2	3	3	4	9	31
4.職場での共通理解が得られなかった	27	5	3	1	4	5	45
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	24	3	2	0	2	6	37
6.取り組む時間が取れなかった	70	7	7	1	10	9	104
7.講義の内容が実践にマッチしていない	60	1	5	1	3	5	75
8.新しい知見・気づきが得られなかった	13	5	3	0	1	5	27
9.理論ばかりで実践に活かさない	86	5	6	4	5	11	117
10.保育への姿勢が変わっていない	7	4	1	4	3	8	27
11.その他	33	3	4	1	3	5	49
計	469	41	40	16	38	81	

(大阪開催・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答者数
最も活かしにくかった講義を1つ選択	166	1	12	9	14	27	229
1.講義の内容を理解できていない	56	0	1	1	1	9	68
2.継続的に課題として意識していない	68	0	4	3	5	7	87
3.保育の内容が変わらない	29	0	4	2	4	3	42
4.職場での共通理解が得られなかった	24	0	2	2	3	6	37
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	14	0	1	0	3	10	28
6.取り組む時間が取れなかった	50	0	5	4	7	14	80
7.講義の内容が実践にマッチしていない	43	0	3	2	4	5	57
8.新しい知見・気づきが得られなかった	12	0	1	2	1	2	18
9.理論ばかりで実践に活かさない	62	1	4	6	4	13	90
10.保育への姿勢が変わっていない	6	0	2	3	0	3	14
11.その他	29	0	1	0	2	1	33
計	393	1	28	25	34	73	

⑤「乳児保育」として今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、東京開催 106 名 (26.0%)、大阪開催 70 名 (21.0%) の計 176 名から得られた。

以下の表は複数回答のあったテーマとなっている。

テーマ	回答数	テーマ	回答数
乳児保育の意義	53	食育	5
遊びについて	25	連携・チームワーク	5
保護者支援・対応	23	かみつき・ひっかきの子どもへの対応	4
環境	21	保育実践	4
担当制保育	15	言葉遣い・言葉掛け	3
玩具・遊具	14	保育制度	3
乳児の発達	13	園内研修	2
発達心理学	13	感染症対策	2
保育技術(手遊び、わらべうた、音楽、パネルシアター等)	13	子育て支援	2
保育者の役割・在り方	13	子育て	2
記録(指導計画・連絡帳・月案・週案等)	12	子どもの健康	2
子どもとの関わり方	12	子どもの病気	2
離乳食	7	人材育成・質の向上	2
運動	6	トラブル対応	2
気になる子・発達障害・障害児	5	脳科学から見た乳児の育ち	2

その他、個別の記述としては、「アレルギー対応」「事故予防」「子どもの歯のケア」「病児保育」「乳幼児期の睡眠」「保健」「防災」「各年齢に対応した保育」「シュタイナー教育」「モンテッソーリ教育」「保育士としてのスキルアップ」「少人数保育の進め方」「乳児と母親との関わり」「地域との関わり」「小学校～社会に出てからの影響」「保育制度の動向」などが挙げられた。

⑥研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、東京開催 350 名 (86.0%)、大阪開催 217 名 (65.0%) の計 567 名から得られ、その内の 272 名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。ただし、東京・大阪いずれの開催も定員を大幅に超えるお申し込みがあり、研修会場で受け入れ可能な人数を受け入れたことで、座席間の距離が狭かったことや移動の動線に影響があり、不便な点があった。その他の意見としては、地方開催の希望や情報交換の場の希望、事前シートをすることで研修効果が深まったとの回答もあった。

5. 保育所障害児保育担当者研修会

(1) 研修のねらい

保育士として、最新の保育政策の動向や関係法令、障害のある子どもの特性を理解し、保育所並びに個人の障害児保育の実践力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育政策や関係法令を理解する。
- ・障害のある子どもの特性と対応を理解する。
- ・障害のある子どもを支援するための保護者との連携のあり方を学ぶ。
- ・障害のある子どもの保育実践方法と保育所の体制づくりを学ぶ。

(3) 対象

- ①保育所の障害児保育担当の保育士
- ②保育所の保育士並びに保育所職員

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成26年10月22日(水)～24日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台4-6	300名

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン	講義 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	障害のある子どもの理解と対応	講義 3時間	横浜市総合リハビリテーションセンター 参与 清水 康夫
3	障害のある子どもと保護者の支援	講義・討議 3時間	NPO法人えじそんくらぶ 代表 高山 恵子
4	障害のある子どもの保育実践と 保育所の体制づくり	講義・演習 6時間	【前半】 東京都立小児総合医療センター 育成科 主任技術員・保育士 一般社団法人こども家族早期発達支援学会 副会長 藤原 里美 【後半】 明星大学 教育学部 教授 一般社団法人こども家族早期発達支援学会 会長 星山 麻木

(6) タイムスケジュール

時間 日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
第1日				30	20	20				オリエンテーション
第2日		障害のある子どもの理解と対応			休憩	障害のある子どもと保護者の支援			オリエンテーション	
第3日		障害のある子どもの保育実践と特別支援の体制づくり			休憩	障害のある子どもの保育実践と特別支援の体制づくり			修了証配付	

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

受講者数（申込者数）		319名（328名）	現職	保育士	214（67.1%）	
年齢	平均年齢（標準偏差）	35.5歳（9.8）		リーダー保育士	37（11.6%）	
	範囲	21～69歳		主任	36（11.3%）	
性別	男性	31（9.7%）		副施設長	8（2.5%）	
	女性	288（90.3%）		園長	9（2.8%）	
運営主体	公営	96（30.1%）		看護師・保健師	2（0.6%）	
	民営	223（69.9%）		その他	13（4.1%）	
保育士経験年数	平均年数（標準偏差）	12.0年（8.5）		障害児保育経験年数	平均年数（標準偏差）	6.9年（6.7）
	範囲	0～46年			範囲	0～46年
現在、障害のある子どもの保育を担当しているか		はい		192（60.2%）	いいえ	127（39.8%）

(8) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長（所属長）にも依頼している。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（受講者回答）・派遣理由（保育所長回答）

受講者・保育所長ともに「障害児への対応や支援・連携に課題がある」に 半数近くの方が回答してい

る。2 番目に多い回答には違いがあり、受講者は「所長等の上司からの業務命令」が 16%、保育所長は「研修のねらい・研修内容」が 25%となっている。

参加/職員派遣の理由 (なぜ参加しようと思ったか)	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
1.研修のねらい・研修内容	44	13.8%	80	25.1%
2.各講義のテーマ・講師	7	2.2%	6	1.9%
3.障害児への対応や支援・連携に課題	157	49.2%	139	43.6%
4.毎年、保育士等を順番に派遣	24	7.5%	38	11.9%
5.自治体から派遣要請	31	9.7%	34	10.7%
6.所長から業務命令/本人の申し出	51	16.0%	14	4.4%
7.その他	2	0.6%	6	1.9%
無回答	3	0.9%	2	0.6%
受講者数	319		319	

②受講者が特に学びたい講義／保育所長が特に学んでほしい講義

受講者 44%と保育所長 54%が「障害のある子どもの理解と対応」を選択しており、まずは障害への理解を深めたいとしている。続いて、多い回答としては、受講者は「障害のある子どもと保護者の支援」が 29%、保育所長は「障害のある子どもの保育実践と保育所の体制づくり」が 21%となっており、実際に子どもに関わる受講者と組織全体をマネジメントする所長の違いが出ている。

学びたい講義/学んでほしい講義	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
1.保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	4	1.25%	14	4.39%
2.障害のある子どもの理解と対応	140	43.89%	173	54.23%
3.障害のある子どもと保護者の支援	91	28.53%	61	19.12%
4.障害のある子どもの保育実践と保育所の体制づくり	84	26.33%	68	21.32%
無回答	0	0.00%	3	0.94%
受講者数	319		319	

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

「自治体からの案内」の回答が 73%を占めている。

研修会を知った経緯	回答数	割合
1.自治体(都道府県・市区町村)からの案内	233	73.0%
2.保育団体からの案内	49	15.4%
3.日本保育協会のホームページや機関誌等の案内	29	9.1%
4.他園の園長からの情報	0	0.0%
5.保育関係の雑誌・業界紙	0	0.0%
6.受講する保育士からの申し出	2	0.6%
7.その他	3	0.9%
無回答	3	0.9%
受講者数	319	

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全体の 99%以上の保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園（組織）として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「研修報告書の作成・報告会」が最も多く 84%、次いで「職員会議での報告」が 75%、「資料の回覧」が 65%となっている。他の研修会と比較しても、それぞれのポイントが高くなっており、障害のある子どもの保育等に関しては保育園全体で取り組もうとしていることがいえる。

保育園内での共有方法(複数回答)	回答数	割合
1.研修会資料の回覧	210	65.8%
2.職員会議での報告	242	75.9%
3.研修会のテーマについて、園内研修を設ける	120	37.6%
4.研修報告書(復命書等)の作成・報告会	269	84.3%
5.個人の学びなので共有する予定はない	1	0.3%
6. その他	10	3.1%
無回答	1	0.3%
総回答数	852	
受講者数	319	

(9) 研修活用調査結果について

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。

研修会直後調査では、受講者数319名のうち、312名(97.8%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、受講者の242名(75.9%)の受講者から調査票を回収した。加えて、保育所長にも依頼し、232名(72.7%)から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

保育士として、最新の保育政策の動向や関係法令、障害のある子どもの特性を理解し、保育所並びに個人の障害児保育の実践力を高める。

研修会直後では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「障害児保育の実践力」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。直後から3ヶ月後にかけて、数値は下がっているものの、いずれも高評価となっている。

	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	5.0 0.7	4.7 0.7	4.7 0.8

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育所運営・保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、講義2～4が非常に高い評価があり、受講者にとって活用度の高い学びが得られたことがわかった。3ヶ月後になると、確かに数値は下がっているものの、「活かしている」側の回答が9割以上となっている。

研修科目	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義1 保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	4.6 0.8	3.9 0.9	3.9 0.9
講義2 障害のある子どもの理解と対応	5.3 0.6	4.6 0.8	4.6 0.7
講義3 障害のある子どもと保護者の支援	5.4 0.7	4.8 0.8	4.7 0.8
講義4 障害のある子どもの保育実践と保育所の体制づくり	5.4 0.7	4.7 0.8	4.5 0.8

③保育所運営・保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている。受講者の約4割が講義3を選択し、「新しい知見・気づきが得られた」ことを理由としている。保育所長の約4割が講義2を選択し、「継続的に課題としている」「新しい知見・気づきが得られた」ことを理由としている。受講者の全体的な理由は、「新しい知見・気づきが得られた」「講義の内容が具体的で実践に活かされた」「保育への姿勢が変わった」の順に多く挙げられた。保育所長からは、「新しい知見・気づきが得られた」「継続的に課題として意識している」「職場での共通理解が得られた」の理由が多く挙げられており、保育所全体で活かしていることがわかった。

(受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・ 不明	回答 数
最も活かしている講義を1つ選択	10	58	92	77	2	239
1.講義の内容を理解できている	3	19	22	6	1	51
2.継続的に課題として意識している	3	23	36	34	1	97
3.保育の内容が良くなった	1	6	6	4	1	18
4.職場での共通理解が得られた	2	12	15	17	0	46
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	1	2	0	1	0	4
6.取り組む時間が取れた	1	3	2	3	0	9
7.講義の内容が実践にマッチしている	0	15	30	26	1	72
8.新しい知見・気づきを得られた	5	42	71	56	1	175
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	2	19	54	50	1	126
10.保育への姿勢が変わった	3	27	36	32	2	100
11.その他	3	2	1	2	0	8
計	24	170	273	231	8	

(保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・ 不明	回答 数
最も活かしている講義を1つ選択	9	98	71	45	7	230
1.講義の内容を理解できている	5	29	16	8	2	60
2.継続的に課題として意識している	5	57	43	15	3	123
3.保育の内容が良くなった	1	22	6	7	3	39
4.職場での共通理解が得られた	2	37	22	19	3	83
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	2	4	6	7	0	19
6.取り組む時間が取れた	0	7	6	2	2	17
7.講義の内容が実践にマッチしている	2	20	24	8	1	55
8.新しい知見・気づきを得られた	4	57	41	27	4	133
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	1	31	22	16	2	72
10. 保育への姿勢が変わった	3	22	14	13	0	52
11.その他	0	1	0	1	0	2
計	25	287	200	123	20	

④保育所運営・保育実践に活かしくかった講義とその理由について

最も活かしくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。受講者の理由としては、「理論ばかりで実践に活かせない」「講義の内容が実践にマッチしていない」「取り組む時間がなかった」の順に多かった。保育所長の理由としては、「取り組む時間がなかった」「理論ばかりで実践に活かせない」「講義の内容が実践にマッチしていない」の順に多かった。

(受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・ 不明	回答 数
最も活かしくかった講義を1つ選択	170	11	10	39	0	230
1.講義の内容を理解できていない	43	1	2	8	0	54
2.継続的に課題として意識していない	34	0	2	5	0	41
3.保育の内容が変わらない	44	3	2	6	0	55
4.職場での共通理解が得られなかった	14	4	2	8	1	29
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	22	2	4	17	0	45
6.取り組む時間が取れなかった	57	6	6	19	2	90
7.講義の内容が実践にマッチしていない	63	2	3	10	2	80
8.新しい知見・気づきが得られなかった	17	4	1	4	0	26
9.理論ばかりで実践に活かせない	86	2	1	12	1	102
10.保育への姿勢が変わっていない	14	2	2	1	0	19
11.その他	45	3	3	13	1	65
計	439	29	28	103	7	

(保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・ 不明	回答 数
最も活かしくかった講義を1つ選択	178	6	8	30	0	222
1.講義の内容を理解できていない	43	1	1	3	0	48
2.継続的に課題として意識していない	59	0	3	5	0	67
3.保育の内容が変わらない	22	0	1	6	0	29
4.職場での共通理解が得られなかった	28	2	1	6	0	37
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	16	3	3	8	0	30
6.取り組む時間が取れなかった	75	3	4	13	0	95
7.講義の内容が実践にマッチしていない	49	1	3	9	0	62
8.新しい知見・気づきが得られなかった	13	1	0	2	0	16
9.理論ばかりで実践に活かせない	79	2	2	11	0	94
10.保育への姿勢が変わっていない	13	2	1	5	0	21
11.その他	37	1	1	7	0	46
計	434	16	20	75	0	

⑤「障害児保育」や「保育関係」に関して今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、106名(33.2%)から得られた。以下の表は複数回答のあったテーマとなっている。

テーマ	回答数
障害のある子どもの保育実践	15
障害のある子どもの特性と理解・支援方法	14
保護者支援・対応・方法	14
保育所の体制づくり	9
障害のある子どもと保護者支援	6
気になる子どもの対応	3
ADHDの個別事例	2
ケースカンファレンスの持ち方	2
自閉症スペクトラム	4
障害児と仲間集団	2
ダウン症の子の育て方	2
地域連携の作り方	2
保育技術(運動あそび等)	2
保育士のメンタルヘルス	2
連携・チームワーク	2

その他、個別の記述としては、「感覚統合」「ABA（応用行動分析）」「河添理論」「構造化」「ユニバーサルデザインの保育」「障害児保育の有効な取り組み方」「障害の早期発見～保護者の受入」「ペアレント・トレーニングの実践」「場面緘黙症」「乳児の発達障害」「視覚支援の実践内容」「運動保育と発達障害の関係性」「重度障害の受入と保育実践、体制づくり」「保護者の障害受容の支援方法」「障害児の家族支援（兄弟）」「アスペルガーを長所にしたきっかけや道のり」「学童期、思春期の障害を持った子の対応」「関係機関との連携」「保護者心理」「保育哲学」「保育の質の向上」「保小の連携のより良いあり方」などが挙げられた。

⑥研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、216名(67.7%)から得られ、その内の152名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。一方で、「昼食や宿泊のオプション提案への意見」「会場設備についての意見」については、それぞれ複数の意見があった。その他意見としては、「地方から参加のため最終日の終了時間を早めてほしい」「全国規模のため、情報交換会の実施」について複数意見があった。

6. 保育所保護者支援研修会

(1) 研修のねらい

最新の保育政策の動向や関係法令、保育士の専門性をいかした保護者支援を理解し、保育所並びに個人の保護者支援の実践力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度や関係法令を理解する。
- ・保育士の専門性をいかした保護者支援を理解する。
- ・保護者支援における環境の構成を理解する。
- ・発達に支援を要する子どもとその保護者の支援のあり方を学ぶ。
- ・保育における記録等の発信を通して保護者と連携する方法について学ぶ。

(3) 対象

保育所の保育士並びに保育所職員

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成 26 年 8 月 27 日(水)～29 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	300 名

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン	講義 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	保育所における保護者支援	講義・ ワークショップ 3時間	NPO 法人 せたがや子育てネット 代表理事 松田 妙子
3	保護者支援における環境の構成	講義・討議 3時間	東洋大学 ライフデザイン学部 生活支援学科 准教授 高山 静子
4	保護者との連携 ～具体的な手法～	講義・討議 3時間	【コーディネーター】 社会福祉法人日本保育協会 研修部 次長 今井 豊彦 【実践報告】 社会福祉法人つくし会 都原保育園(宮崎県) 園長 岩井 沙弥花 社会福祉法人愛育福祉会 豊川保育園(大分 県) 主任保育士 安倍 正子
5	子どもの発達支援と保護者対応	講義・討議 3時間	NPO 法人 えじそんくらぶ 代表 高山 恵子

(6) タイムスケジュール

時間 日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
第1日				受 付	開 講 式	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン			オリ エン テー ション
第2日	保育所における保護者支援				休 憩	保護者支援における環境の構成			オリ エン テー ション
第3日	子どもの発達支援と保護者対応				休 憩	保護者との連携～具体的な手法～			修 了 証 配 付

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

受講者数（申込者数）		337名（345名）	現職	保育士	139（41.2%）	
年齢	平均年齢（標準偏差）	41.9歳（10.4）		リーダー保育士	41（12.2%）	
	範囲	21～78歳		主任	77（22.8%）	
性別	男性	18（5.3%）		副施設長	21（6.2%）	
	女性	319（94.7%）		園長	32（9.5%）	
運営主体	公営	97（28.8%）		看護師・保健師	4（1.2%）	
	民営	240（71.2%）		その他	23（6.8%）	
保育士 経験年数	平均年数（標準偏差）	17.2年（10.9）		現職経 験年数	平均年数（標準偏差）	8.1年（8.2）
	範囲	0～55年			範囲	0～51年

(8) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述(200～400字)の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長(所属長)にも依頼している。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（受講者回答）・派遣理由（保育所長回答）

受講者・保育所長ともに、「保護者への支援や連携・対応に課題がある」「研修のねらい・研修内容」が上位理由として挙げられ、合算すると6割前後となっている。

参加/職員派遣の理由 (なぜ参加しようと思ったか)	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
1.研修のねらい、研修内容	86	25.52%	114	33.8%
2 各講義のテーマ・講師	15	4.45%	10	3.0%
3.保護者への支援や連携・対応に課題を感じている	109	32.34%	108	32.0%
4.毎年、保育士や保育所職員を順番に派遣している	28	8.31%	32	9.5%
5.自治体の保育所主管課からの派遣の要請	33	9.79%	35	10.4%
6.保育所長等(上司)の業務命令/本人からの申し出	56	16.62%	28	8.3%
7.その他	5	1.48%	6	1.8%
無回答	5	1.48%	4	1.19%
受講者数	337		337	

②受講者が特に学びたい講義／保育所長が特に学んでほしい講義

受講者の回答では、「保育所における保護者支援」「保護者との連携～具体的な手法～」 「子どもの発達支援と保護者対応」にそれぞれ約 3 割となっている。保育所長の回答では、「保育所における保護者支援」が約 4 割となっている。

学びたい講義/学んでほしい講義	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
1.保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	14	4.15%	28	8.3%
2.保育所における保護者支援	99	29.38%	133	39.5%
3.保護者支援における環境構成	23	6.82%	23	6.8%
4.保護者との連携～具体的な手法～	101	29.97%	80	23.7%
5.子どもの発達支援と保護者対応	99	29.38%	68	20.2%
無回答	1		5	
受講者数	337		337	

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

保育所長の 7 割が「自治体からの案内」から本研修会を知ったことがわかった。「その他」の意見としては、「法人の研修計画に入っている」「市町村で毎年参加させているのでホームページの情報を確認している」「日本保育協会の研修予定表をもとに研修計画を立てている」などが挙げられた。課題としては、自治体からの周知に偏っているため、自らの広報周知を工夫する必要があると考えられる。

研修会を知った経緯	回答数	割合
1.自治体(都道府県・市区町村)からの案内	238	70.6%
2.保育団体からの案内	48	14.2%
3.日本保育協会のホームページや機関誌等の案内	30	8.9%
4.他園の園長からの情報	2	0.6%
5.保育関係の雑誌・業界紙	1	0.3%
6.受講する保育士からの申し出	5	1.5%
7.その他	9	2.7%
無回答・無効	4	1.2%
受講者数	337	

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全体の 99%の保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園（組織）として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「職員会議での報告」が最も多く約 77%、次いで「研修報告書の作成・報告会」が約 74%、「資料の回覧」が約 67%となっている。「その他」の意見として、「保護者の保育参加期間中の講演資料に活用する」「市内の園長会や主任保育士会等で共有する」などが挙げられた。

保育園内での共有方法(複数回答)	回答数	割合
1. 研修会資料の回覧	227	67.4%
2. 職員会議での報告	259	76.9%
3. 研修会テーマについて、園内研修の場を改めて設ける	98	29.1%
4. 研修報告書(復命書等)の作成・報告会	248	73.6%
5. 個人の学びなので共有する予定はない	2	0.6%
6. その他	9	2.7%
無回答・無効	4	1.2%
総回答数	843	
受講者数	337	

(9) 研修活用調査結果について

調査の実施については、研修会の直後と3ヶ月後の結果となっている。

回収率について、受講者数 337 名のうち、328(97.%)から調査票を回収した。また、3ヶ月後調査では、受講者 267 名(79.2%)、保育所長 256 名(71.9%)から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

最新の保育政策の動向や関係法令、保育士の専門性をいかした保護者支援を理解し、保育所並びに個人の保護者支援の実践力を高める。

研修会直後では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「保護者支援の実践力」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、いずれの講義も多少の前後はあるものの高評価となっているが、3ヶ月後になると、直後の評価が特に高い講義も好評の講義も同様に0.6~0.8程度下がっている。直後に活用しようと思っても、保育現場に戻ってから何かしらの理由により活用できない現状があることが考えられる。

	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	4.8 0.7	4.4 0.7	4.5 0.7

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、いずれの講義も高評価となっているが、3ヶ月後になると、全体的に下がっている。他研修会と比較すると、研修会直後の数値が非常に高いが、3ヶ月後の下がり幅も非常に大きくなっている。すぐに実践に活かせると考えて現場に戻ったが、受講者自身、保育園の環境、対保護者など、様々な要因から実践への活用度が下がったと考えられる。

研修科目	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義 1 保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	4.8 0.8	4.0 0.9	4.0 1.0
講義 2 保育所における保護者支援	4.8 0.8	4.1 0.9	4.3 0.8
講義 3 保護者支援における環境の構成	5.1 0.8	4.5 0.8	4.4 0.8
講義 4 保護者との連携～具体的な手法～	4.5 0.9	3.9 1.0	4.2 0.9
講義 5 子どもの発達支援と保護者対応	5.4 0.6	4.6 0.8	4.5 0.8

③保育所運営・保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている。受講者の約4割、保育所長の約3割が講義5を選択している。理由として、受講者は「新しい知見・気づきが得られた」、保育所長は「継続的に課題としている」が一番多くて挙げられている。全体的には、「新しい知見・気づきが得られた」「継続的に課題としている」

的に課題として意識している」「講義の内容が具体的で実践に活かされた」「職場での共通理解が得られた」の理由が多く挙げられており、保育所全体で活かしていることがわかった。

(受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を 1 つ選択	20	30	82	21	106	8	267
1.講義の内容を理解できている	8	7	25	7	26	1	74
2.継続的に課題として意識している	8	16	52	10	51	6	143
3.保育の内容が良くなった	0	2	2	4	5	0	13
4.職場での共通理解が得られた	6	9	16	3	18	4	56
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	2	1	7	3	2	0	15
6.取り組む時間が取れた	2	2	5	0	2	0	11
7.講義の内容が実践にマッチしている	10	6	29	7	41	5	98
8.新しい知見・気づきが得られた	10	18	52	11	79	3	173
9.講義の内容が具体的で実践に活かされた	7	12	38	8	59	4	128
10.保育への姿勢が変わった	2	10	16	6	26	1	61
11.その他	2	1	1	0	1	0	5
計	57	84	243	59	310	24	

(保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を 1 つ選択	14	54	52	43	74	14	251
1.講義の内容を理解できている	8	15	14	16	29	2	84
2.継続的に課題として意識している	7	23	34	22	40	7	133
3.保育の内容が良くなった	1	9	4	7	7	4	32
4.職場での共通理解が得られた	6	29	15	13	19	4	86
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	2	8	5	5	6	5	31
6.取り組む時間が取れた	2	2	3	2	2	1	12
7.講義の内容が実践にマッチしている	4	17	15	8	19	5	68
8.新しい知見・気づきが得られた	6	33	25	29	36	12	141
9.講義の内容が具体的で実践に活かされた	2	14	17	6	30	1	70
10.保育への姿勢が変わった	0	7	11	8	17	3	46
11.その他	0	0	1	1	1	0	3
計	38	157	144	117	206	44	

④保育所運営・保育実践に活かしくかった講義とその理由について

最も活かしくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。受講者の多い理由としては、「講義の内容が実践にマッチしていない」「新しいことに取り組みにくい環境がある」「その他」の順が多かった。保育所長の多い理由としては、「取り組む時間がなかった」「理論ばかりで実践に活かせない」「講義の内容が実践にマッチしていない」の順が多かった。受講者は、講義4に45%の方が選択しているが、保護者支援の具体的な連携の内容であったが、個人としてよりも組織としての取り組みや先駆的な事業であったために「講義の内容が実践にマッチしていない」、組織風土として「新しいことに取り組みにくい環境がある」という回答が非常に多くあった。

(受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答数
最も活かしくかった講義を1つ選択	79	43	14	116	4	0	256
1.講義の内容を理解できていない	15	2	3	2	2	0	24
2.継続的に課題として意識していない	13	12	4	19	3	0	51
3.保育の内容が変わらない	17	9	2	20	1	0	49
4.職場での共通理解が得られなかった	3	2	2	15	0	0	22
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	14	21	9	60	1	0	105
6.取り組む時間が取れなかった	27	16	7	41	1	0	92
7.講義の内容が実践にマッチしていない	12	28	5	64	2	0	111
8.新しい知見・気づきが得られなかった	12	5	3	18	0	0	38
9.理論ばかりで実践に活かせない	43	3	1	15	1	0	63
10.保育への姿勢が変わっていない	8	1	1	10	1	0	21
11.その他	27	9	1	32	0	0	69
計	191	108	38	296	12	0	

(保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	無効・不明	回答数
最も活かしくかった講義を1つ選択	123	28	22	54	12	3	242
1.講義の内容を理解できていない	41	2	2	3	2	0	50
2.継続的に課題として意識していない	41	8	4	11	2	1	67
3.保育の内容が変わらない	15	4	5	6	4	0	34
4.職場での共通理解が得られなかった	15	4	5	12	1	1	38
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	17	11	11	25	4	0	68
6.取り組む時間が取れなかった	46	8	14	17	5	1	91
7.講義の内容が実践にマッチしていない	32	15	6	30	4	1	88
8.新しい知見・気づきが得られなかった	8	2	1	4	0	2	17
9.理論ばかりで実践に活かせない	64	3	3	8	2	2	82
10.保育への姿勢が変わっていない	8	3	4	7	0	0	22
11.その他	16	2	3	10	1	0	32
計	303	62	58	133	25	8	

⑤ 「保護者支援」や「保育関係」に関して今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、78名(23.1%)から得られた。以下の表は複数回答のあったテーマとなっている。

テーマ	個数
保護者支援・対応・方法	25
子どもの発達	9
保育制度の動向	6
保護者支援の実践実例	5
園内環境整備	4
関係法令及びガイドライン	4
特別なニーズを要する子ども支援	4
地域子育て支援(実態、今後の役割)	3
小学校との連携	2
保育計画及び評価(指導課程、指導計画、教育計画、エピソード記述、連絡帳)	2

その他、個別の記述としては、「保育ソーシャルワーク」「保育における養護」「保護者面談の心得」「クレーム対応・事例」「各都道府県の取組」「保育内容と実践」「自己肯定感を育てる保育」「心理学」「PCM（プロセス・コミュニケーション・モデル）」「保育所におけるリスクマネジメント」「アレルギー対応」「免疫学」「連携・チームワーク」などが挙げられた。

⑥ 研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、283名(84.0%)から得られ、その内の194名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。一方で、「個別講義において、受講者のニーズと異なっていた」「昼食や宿泊のオプション提案への意見」「会場設備についての意見」については、それぞれ複数の意見があった。その他意見としては、「地方から参加のため最終日の終了時間を早めてほしい」について11名から意見があった。

7. 保育所実習指導研修会

※保幼小連携研修会に代わり、保育所における実習指導の研修会が新設された。

(1) 研修のねらい

最新の保育制度や保育士養成の動向、保育士養成課程における保育所の実習指導者としての態度や指導技術を学び、保育所並びに個人の実習指導力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度と保育士養成の動向を理解する。
- ・保育所における保育実習の基礎と実習生受け入れの配慮事項を理解する。
- ・保育実習の実践事例から、専門知識及び指導技術の向上を図る。

(3) 対象

保育所の保育士並びに保育所職員、行政の研修・指導担当者

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成26年12月4日(木)～5日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	300名

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と保育士養成	講義・討議 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	保育所での保育実習～基礎編～	講義・討議 3時間	東京家政大学 家政学部 児童学科 教授 増田 まゆみ
3	保育所での保育実習～実践編～	講義・討議 3時間	東京家政大学 子ども学部 子ども支援学科 准教授 小櫃 智子

(6) タイムスケジュール

時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日			30	20	20				40
第1日				受付	開講式	保育制度の動向と 保育士養成			オリエンテー
第2日	保育所での保育実習 ～基礎編～				休憩	保育所での保育実習 ～実践編～			修了証配付

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

受講者数（申込者数）		254名（271名）	現職	保育士	28（11.0%）
年齢	平均年齢（標準偏差）	43.6歳（9.6）		リーダー保育士	35（13.8%）
	範囲	23～65歳		主任	124（48.8%）
性別	男性	22（8.7%）		副施設長	17（6.7%）
	女性	232（91.3%）		園長	37（14.6%）
運営主体	公営	15（5.9%）		行政の指導研修担当	5（2.0%）
	民営	239（94.1%）		その他	8（3.1%）
保育士経験年数	平均年数（標準偏差）	16.2年（9.1）	現職経験年数	平均年数（標準偏差）	7.0年（7.9）
	範囲	0～43年		範囲	0～40年

(8) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述（200～400字）の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長（所属長）にも依頼している。なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（受講者回答）・派遣理由（保育所長回答）

受講者の回答としては「研修のねらい・研修内容」、「実習生への対応や指導・園内や養成校との連携に課題がある」が約4割ずつと多くを占めている。保育所長の回答も同様の項目を選択しているが、「研修のねらい・研修内容」が非常に多く、全体の約半数を占めている。

参加/職員派遣の理由 (なぜ参加しようと思ったか)	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
1.実施要領の研修のねらい、研修内容を見て	105	41.3%	124	48.8%
2.各講義のテーマ・講師を見て	6	2.4%	4	1.6%
3.実習生への対応や指導・園内や養成校との連携に課題	94	37.0%	87	34.3%
4.全国研修に、保育士や保育所職員を順番に派遣している	6	2.4%	8	3.2%
5.自治体の保育所主管課からの派遣要請	2	0.8%	1	0.4%
6.保育所長等(上司)の業務命令/本人からの申し出	34	13.4%	25	9.8%
7.その他	6	2.4%	5	2.0%
無回答	1	0.4%	0	
受講者数	254		254	

②受講者が特に学びたい講義／保育所長が特に学んでほしい講義

受講者の44%の方が「保育所での保育実習～基礎編～」を学びたいと回答している。反対に保育所長の4割強の方が「保育制度の動向と保育士養成」と回答しており、国の動向や方向性を最も学んできて

ほしいと考えている。

学びたい講義/学んできてほしい講義	受講者		保育所長	
	回答数	割合	回答数	割合
講義 1 保育制度の動向と保育士養成	75	29.5%	102	40.5%
講義 2 保育所での保育実習～基礎編～	112	44.1%	90	35.7%
講義 3 保育所での保育実習～実践編～	67	26.4%	60	23.8%
無回答	0	0.0%	2	0.8%
受講者数	254		252	

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

保育所長の68%が「自治体からの案内」から、次いで15%が「日本保育協会ホームページや機関誌等の案内」から本研修会を知ったことがわかった。課題としては、自治体からの周知に偏っているため、自らの広報周知を工夫する必要があると考えられる。

研修会を知った経緯	回答数	割合
1.自治体(都道府県・市町村)からの案内	173	68.1%
2.保育団体からの案内	30	11.8%
3.日本保育協会ホームページや機関誌等の案内	38	15.0%
4.他園の園長からの情報	0	0.0%
5.保育関係の雑誌・業界紙	1	0.4%
6.受講する保育士からの申し出	9	3.5%
7.その他	1	0.4%
無回答	2	0.8%
受講者数	254	

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全ての保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園（組織）として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「研修報告書の作成・報告会」が最も多く約75%、次いで「職員会議での報告」が約74%、「資料の回覧」が約61%となっている。「その他」の意見として、「主任・リーダー層と共有する(8名)」「市内の園長会や主任保育士会等で共有する(公営の保育士等4名)」などが挙げられた。

保育園内での共有方法(複数回答)	回答数	割合
1. 研修会資料の回覧	157	61.8%
2. 職員会議での報告	187	73.6%
3. 研修会テーマについて、園内研修の場を改めて設ける	79	31.1%
4. 研修報告書(復命書等)の作成・報告会	190	74.8%
5. 個人の学びなので共有する予定はない	0	0.0%
6. その他	19	7.5%
無回答	0	0.0%
総回答数	632	
受講者数	254	

(9) 研修活用調査結果について

本研修会では、研修会の直後のみの調査結果となっている。

回収率について、大阪開催では、受講者 254 名のうち、241 名 (94.9%) から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

最新の保育制度や保育士養成の動向、保育士養成課程における保育所の実習指導者としての態度や指導技術を学び、保育所並びに個人の実習指導の実践力を高める。

調査では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1) 全く達成できなかった、(2) 達成できなかった、(3) あまり達成できなかった、(4) 少し達成できた、(5) 達成できた、(6) 大いに達成できた、以上の 6 段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出しており、研修のねらいが概ね達成されたと考えられる評価となっている。

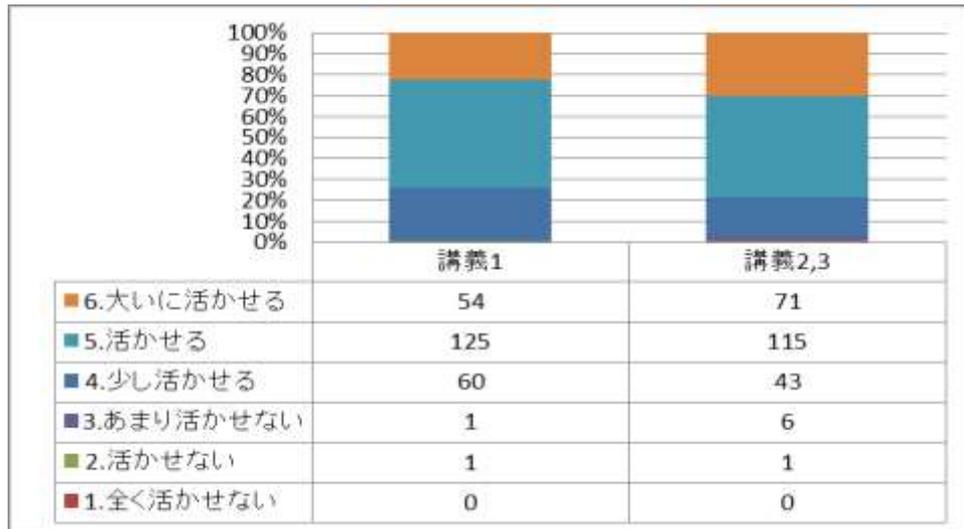
【研修のねらい】	平均値 標準偏差
達成度	4.7 0.8

②各講義の活用度について

各講義の内容が保育所運営や保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1) 全く活かさない、(2) 活かさない、(3) あまり活かさない、(4) 少し活かせる、(5) 活かせる、(6) 大いに活かせる、以上の 6 段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から 3 ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。いずれの講義も、平均値が非常に高く、(4)～(6)の活かせる側の回答が 97%を超えており、高評価となっている。また、いずれの講義の活用度も平均値 5.0 を超えているが、達成度の平均値は 4.7 と微減しているのは、良い講義内容を保育園でどのように活用するのか、自園に合わせた振り返りやアクションプラン作成の科目を設定するなどの科目設定が必要だったと考えられる。

研修科目	講義 1	講義 2,3
平均値	5.0	5.1
標準偏差	0.7	0.8



③「保育実習」について今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、38名(17.0%)から得られた。複数回答は以下の表の通り。保育実習についてのテーマを伺っているが、その他のテーマも挙げられている。

テーマ	回答数
実習生への具体的指導・対応	4
人材育成	3
養成校との協働の在り方・対話	3
新人職員育成・指導	2
保育の新しい動向と実践	2
養成校が求めるもの	2
養成校における指導・教育内容・現状	2

その他の単独回答の中で実習のテーマであったのは、「実習記録・部分・責任実習の指導」「実習生目線からの実習の在り方」「責任実習等指導案の書き方」「指導案への取り組みと評価」「振り返りの持ち方、良い所を伸ばす仕組み」「保育日誌の記録の指導」「保育士養成」「養成校での命の取組」「保育士としてのマナー（就労・保育士の質の向上策）」が挙げられた。その他のテーマとしては、「園長として保育士の指導・まとめ方」「現場間のある経営者のリーダーシップ」「園内研修」「職場のコミュニケーション」「エピソード記録」「年間指導計画」「保護者支援」「実践保育、幼児理解」「0歳児の運動遊び」「災害時の対応」などが挙げられた。

④研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、121名(47.6%)から得られ、その内の65名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。その他の意見としては、「情報交換の場の設定」により実習指導の課題や工夫についてのディスカッションを十分に取ってほしいとの提案があった。新設の研修会であるが、定員を大幅に超える申し込みがあり、ニーズが高いことがわかった。

8. 保育所事故予防研修会

(1) 研修のねらい

最新の保育政策の動向やガイドライン、乳幼児期の発達の特徴にあわせた事故予防、アレルギー対応及び感染症対策の最新の知見を理解し、保育所並びに個人のリスクマネジメント力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度の動向と関係法令及びガイドラインを理解する。
- ・子どもの予防接種及び保育所における感染症対策の最新情報を理解する。
- ・乳幼児期の子どもの発達特性にあわせたリスクマネジメント、体制づくりを学ぶ。
- ・乳幼児期の食物アレルギーの基礎知識と保育所における対応を学ぶ。

(3) 対象

保育所保育士並びに保育所職員

(4) 研修期間及び場所・定員

研修期間	研修会場	所在地	定員
平成 27 年 2 月 5 日(木)～6 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1	300 名
平成 27 年 2 月 12 日(木)～13 日(金)	御茶ノ水ソラシティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と 関係法令及びガイドライン	講義 1 時間 30 分	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	子どもの予防接種と 感染症対策	講義 1 時間 30 分	【大阪開催】 大阪府済生会中津病院 臨床教育部・感染管理室 部長・医学博士 安井 良 則 【東京開催】 川崎市健康安全研究所 企画調整担当課 課長・医学博士 三崎 貴 子
3	乳幼児期の発達と 保育所のリスクマネジメント	講義・討議 3時間	日本保育応急救護協会 保育士・保育事故の応急救護講習インストラクター (AHA BLS、LSFA Children's) 遠藤 登
4	保育所における アレルギー対応	講義 3時間	昭和大学 医学部 小児科学講座 講師・医学博士 今井 孝 成

※「保育所におけるアレルギー対応」については、講師資料に加えて、ファイザー株式会社より無償提供（寄付）をいただき、エピペントレーナーや参考資料 2 種を受講者に配付した。また、独立行政法人環境再生保全機構からも参考資料 3 種を無償提供いただき、受講者への情報提供を行った。

(6) タイムスケジュール

日	時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17
				30	20	20		50	10	40
第1日					受 付	開 講 式	保育制度の動向と 関係法令及び ガイドライン	休 憩	子どもの予防接種 と 感染症対策	オリエン テー
第2日			保育所におけるアレルギー対応			休 憩	乳児期の発達と事故予防			修了証配 付

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		大阪開催	東京開催
受講者数（申込者数）		240名（251名）	346名（375名）
年齢	平均年齢（標準偏差）	43.6歳（12.1）	40.2歳（11.4）
	範囲	21～69歳	20～70歳
性別	男性	16（6.7%）	27（7.8%）
	女性	224（93.3%）	319（92.2%）
運営主体	公営	74（30.8%）	76（22.0%）
	民営	166（69.2%）	270（78.0%）
現職	保育士	70（29.2%）	123（35.8%）
	リーダー保育士	26（10.8%）	35（10.2%）
	主任	49（20.4%）	67（19.5%）
	副施設長	22（9.2%）	19（5.5%）
	園長	38（15.8%）	40（11.6%）
	看護師・保健師	12（5.0%）	42（12.2%）
	その他	23（9.6%）	18（5.2%）
現職経験年数	平均年数（標準偏差）	9.0年（9.0）	6.9年（7.3）
	範囲	1～40年	0～36年
保育士経験年数	平均年数（標準偏差）	18.5年（12.2）	13.6年（10.8）
	範囲	0～45年	0～39年

(8) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述(200～400字)の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長(所属長)にも依頼している。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（受講者回答）・派遣理由（保育所長回答）

受講者の回答としては「研修のねらい・研修内容」、「所長等からの業務命令」「事故予防に課題がある」が上位を占めている。保育所長の回答としては、「研修のねらい・研修内容」が非常に多く 42～48%となり、「事故予防に課題がある」が 30%弱であった。

参加/職員派遣の理由 (なぜ参加しようと思ったか)	【大阪開催】		【東京開催】	
	受講者	保育所長	受講者	保育所長
	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)
1.研修のねらい・研修内容	87(36.3%)	103(42.9%)	130(37.6%)	167(48.3%)
2.各講義のテーマ・講師	14(5.8%)	9(3.8%)	24(6.9%)	23(6.6%)
3.事故予防に課題を感じている	36(15.0%)	70(29.2%)	61(17.6%)	98(28.3%)
4.毎年、保育士等を順番に派遣している	12(5.0%)	16(6.7%)	15(4.3%)	18(5.2%)
5.自治体からの派遣要請	30(12.5%)	23(9.6%)	29(8.4%)	18(5.2%)
6.所長等の業務命令/本人からの申し出	57(23.8%)	13(5.4%)	78(22.5%)	18(5.2%)
7.その他	3(1.3%)	6(2.5%)	5(1.4%)	2(0.6%)
無回答	1(0.4%)	0(0.0%)	4(1.2%)	2(0.6%)
受講者数	240(100%)	240(100%)	346(100%)	346(100%)

②受講者が特に学びたい講義／保育所長が特に学んでほしい講義

受講者の約半分の方が「乳幼児期の発達とリスクマネジメント」を学びたいと回答している。同様に、保育所長からも 6割強の回答があった。次いで「保育所におけるアレルギー対応」が多く挙げられた。

学びたい講義/学んでほしい講義	【大阪開催】		【東京開催】	
	受講者	保育所長	受講者	保育所長
	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)	回答数(%)
1.保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	16(6.7%)	28(11.7%)	16(4.6%)	47(13.6%)
2.子どもの予防接種と感染症対策	27(11.3%)	19(7.9%)	48(13.9%)	23(6.6%)
3.乳幼児期の発達と保育所のリスクマネジメント	131(54.6%)	151(62.9%)	165(47.7%)	210(60.7%)
4.保育所におけるアレルギー対応	66(27.5%)	38(15.8%)	115(33.2%)	63(18.2%)
無回答	0(0.0%)	4(1.7%)	2(0.6%)	3(0.9%)
受講者数	240(100%)	240(100%)	346(100%)	346(100%)

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

保育所長の7割前後が「自治体からの案内」から、次いで17%が「保育団体からの案内」から本研修会を知ったことがわかった。また、「その他」の意見としては、法人や保育園としての外部研修の計画の中に組み込んでいるという回答が5名から得られた。

研修会を知った経緯	【大阪開催】		【東京開催】	
	回答数	割合	回答数	割合
1.自治体(都道府県・市区町村)からの案内	160	66.7%	233	67.3%
2.保育団体からの案内	31	12.9%	59	17.1%
3.日本保育協会ホームページや機関誌等の案内	33	13.8%	35	10.1%
4.他園の園長からの情報	2	0.8%	3	0.9%
5.保育関係の雑誌・業界紙	2	0.8%	0	0.0%
6.受講する保育士からの申し出	3	1.3%	9	2.6%
7.その他	8	3.3%	6	1.7%
無回答	1	0.4%	1	0.3%
受講者数	240		346	

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全体の 99%以上の保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園(組織)として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「研修報告書の作成・報告会」が最も多く 75%前後、次いで「職員会議での報告」が71%強、「資料の回覧」が56%前後となっている。課題としては、「研修会テーマについて、園内研修の場を設ける」の回答が3割程度と低く、組織全体でリスクマネジメントに取り組めるようにするために、研修方法等に工夫が必要と考えられる。

保育園内での共有方法(複数回答)	【大阪開催】		【東京開催】	
	回答数	割合	回答数	割合
1. 研修会資料の回覧	148	61.7%	195	56.4%
2. 職員会議での報告	178	74.2%	249	72.0%
3. 研修会テーマについて、園内研修の場を設ける	78	32.5%	105	30.3%
4. 研修報告書(復命書等)の作成、報告会	181	75.4%	257	74.3%
5. 個人の学びなので共有する予定はない	2	0.8%	1	0.3%
6. その他	8	3.3%	9	2.6%
無回答	3	1.3%	10	2.9%
総回答数	595		816	
受講者数	240		346	

(9) 研修活用調査結果について

本研修会は、大阪・東京開催ともに平成 27 年 2 月に実施のため、3 か月後調査は実施せず、研修会直後のみの調査結果となっている。

回収率について、大阪開催では、受講者 240 名のうち、223 名 (92.9%) から調査票を回収した。東京開催では、受講者 346 名のうち、337 名 (97.4%) から調査票を回収した。

①研修のねらいへの達成度について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

最新の保育政策の動向やガイドライン、乳幼児期の発達の特徴にあわせた事故予防、アレルギー対応及び感染症対策の最新の知見を理解し、保育所並びに個人のリスクマネジメント力を高める。

調査では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出しており、研修のねらいが概ね達成されたと考えられる評価となっている。

【研修のねらい】	大阪開催	東京開催
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
達成度	4.7	4.9
	0.6	0.7

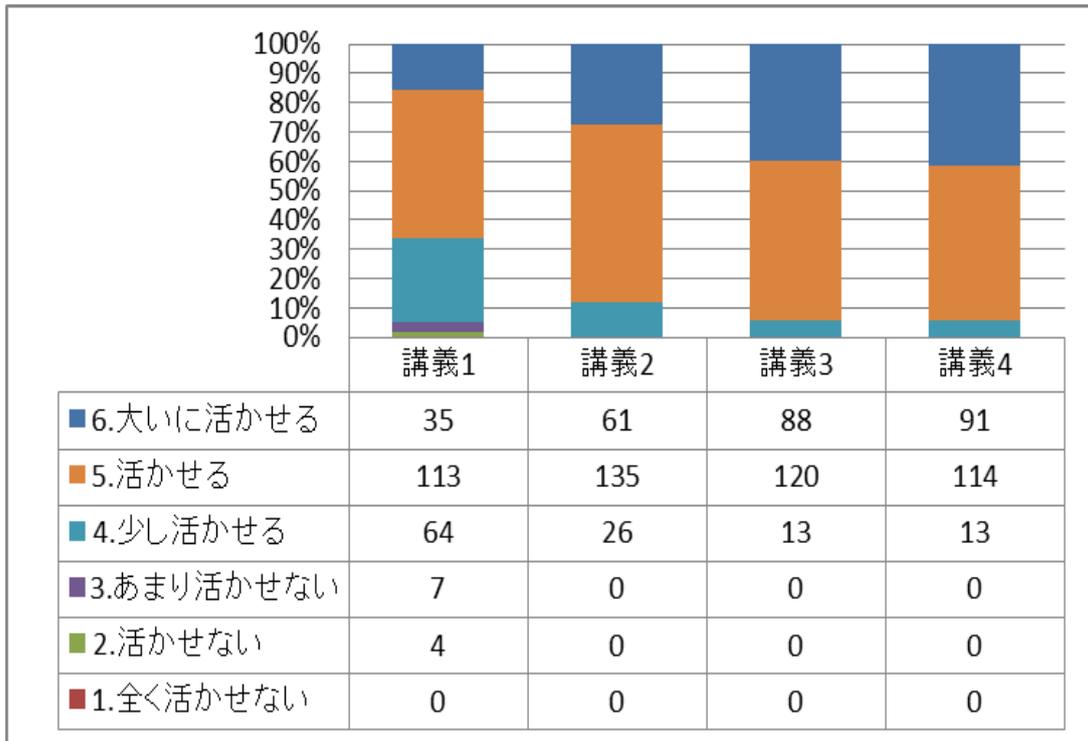
②各講義の活用度について

各講義の内容が保育実践や事故予防にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

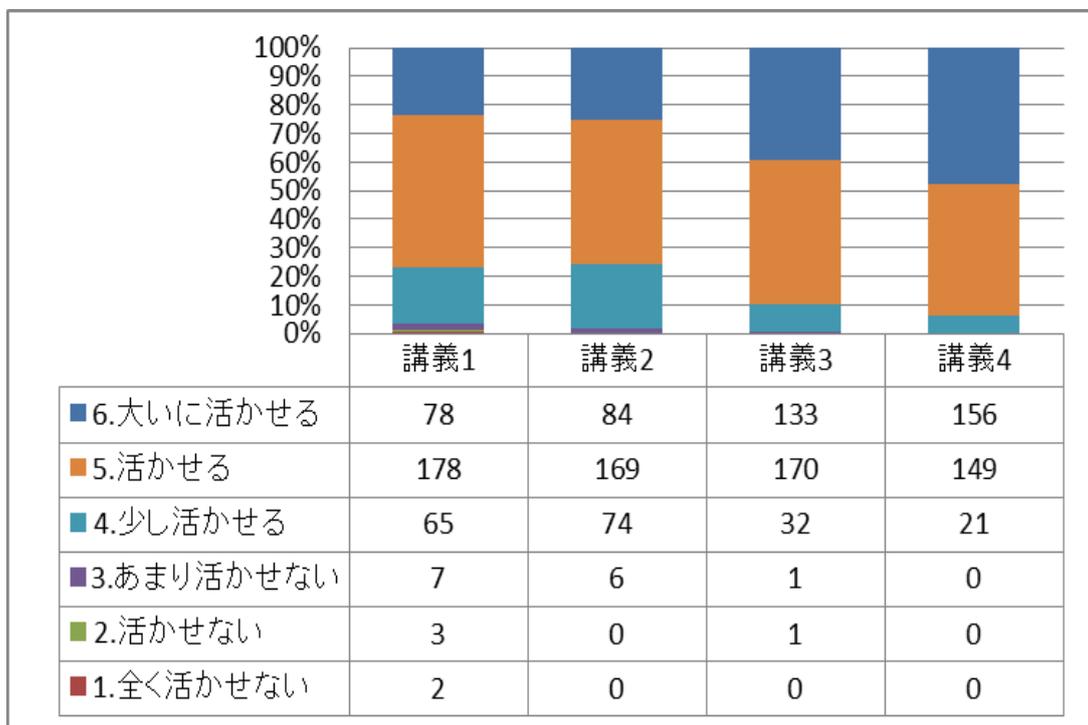
上記項目について、平均値・標準偏差の表と、6段階の回答数のグラフは下記の通りとなっている。いずれの講義も、(4)～(6)の活かせる側の回答が90%を超えている。中でも、講義3,4については、「(6)大いに活かせる」の回答が40%を超え、平均値も高評価となっている。

研修科目	大阪開催	東京開催
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義1 保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	4.9 0.8	4.8 0.8
講義2 子どもの予防接種と保育所の感染症対策	5.0 0.7	5.2 0.6
講義3 乳幼児期の発達と保育所のリスクマネジメント	5.3 0.7	5.3 0.6
講義4 保育所のアレルギー対応	5.4 0.6	5.4 0.6

【大阪開催】



【東京開催】



③「事故予防」に関して今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、大阪開催 50 名(%)、東京開催 65 名(%)の計 115 名から得られた。複数回答は以下の表の通り。事故予防に関してのテーマを伺っているが、その他のテーマも挙げられている。

テーマ	回答数	テーマ	回答数
発達に伴うリスクマネジメント	11	防災対策を含んだ事故予防	3
事故事例と対応	9	SIDS	2
事故予防	9	アレルギー食対応	2
リスクマネジメント	9	園全体でのリスクマネジメント計画マニュアル	2
アレルギー対応	7	関係法令及びガイドライン	2
応急処置、救急救命講習	7	子どもの予防接種と感染症対策	2
保護者対応	6	深刻なケース事例(訴訟、重大なケガ等)	2
怪我・病気の対処法	3	津波地震対策	2
体制づくり	3	なかよし給食の導入と事故防止の取組	2
ヒヤリハット報告書の活用(振り返り、検討方法)	3	不審者対策・対応	2
保育制度の動向	3	リスク・子どもの発達を考えた環境設定	2

その他の単独回答の中で事故予防関連のテーマであったのは、「事故予防ガイドライン作成の手引き」「事故後対応」「クライシスコミュニケーション」「災害時における対応策」「事故を踏まえての保育内容、現場への伝え方」「危機管理マニュアルの必要性」「危険予測しながら保育する力をつける、意識を高く持つ方法」「保育現場の深刻事故ハンドブック」「保護者のためのリスクマネジメント」「リスクコミュニケーション、人間心理面から行動変容」「乳児のアナフィラキシー（エピペンを使えない）」「アレルギー対応マニュアルの作り方」が挙げられた。その他のテーマとしては、「管理職の役割」「保育サーベイランス」「乳児保育」「虐待」「おもちゃの選び方」「離乳食のすすめ方」などが挙げられた。

④研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、大阪開催 68 名(28.3%)、東京開催 122 名(35.3%)の計 190 名から得られ、その内の 94 名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。ただし、その他の意見としては、参加者マナーへの苦言(4 名)があり、事前やオリエンテーションでの案内等で徹底する必要がある。

9. 保育所主任保育士研修会

(1) 研修のねらい

最新の保育政策の動向や関係法令、保育所運営における課題への対応を学び、主任保育士としての実践力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度の動向と関係法令及びガイドラインを理解する。
- ・保育所における主任保育士の役割と責務を理解する。
- ・保育所の職場及び風土づくりと保育及び保育士の資質向上の方法を学ぶ。
- ・子どもの発達を保障する保育者のかかわりを学ぶ。
- ・保育所における保護者の支援と連携を学ぶ。

(3) 対象

- ①保育所の主任保育士 ②主任保育士に準ずる保育士

(4) 研修期間及び場所・定員

期日	研修会場	所在地	定員
平成 26 年 7 月 16 日(水)～18 日(金)	御茶ノ水ソランティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	300 名
平成 26 年 7 月 30 日(水)～8 月 1 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1	
平成 27 年 1 月 7 日(水)～9 日(金)	御茶ノ水ソランティ	東京都千代田区神田駿河台 4-6	
平成 27 年 1 月 21 日(水)～23 日(金)	千里阪急ホテル	大阪府豊中市新千里東町 2-1	

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	講義・討議 3時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬 場 耕一郎
2	子どもの発達保障と保育者	講義・討議 3時間	【東京開催①・大阪開催②】 東京家政大学ナースリールーム 主任 井 桁 容 子 【大阪開催①】田園調布学園大学子ども未来学科 准教授 高 嶋 景 子 【東京開催②】福岡女学院大学 子ども発達学科 准教授 坂 田 和 子
3	保護者の支援と連携	講義・討議 3時間	【東京開催①・大阪開催①②】 大阪府立大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授 山 野 則 子 【東京開催②】 白梅学園大学 子ども学部 子ども学科 教授 長谷川 俊 雄
4	保育所における人材育成	講義・討議 6時間	大妻女子大学 家政学部 児童学科 教授 岡 健

(6) タイムスケジュール

時間 日	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			30	20	20	30		10	40
第1日				受 付	開 講 式	保育制度の動向と 保育所における主任保育士の役割			オリ エン テー ション
第2日	子どもの発達保障と保育者			休 憩	保護者の支援と連携			オリ エン テー ション	
第3日	保育所の人材育成 ～保育所の職場づくりと職員の連携 ～			休 憩	保育所の人材育成 ～保育所の園内研修～			修 了 証 配 付	

※上記は、東京開催①のタイムスケジュールの例となっており、開催ごとによって、第2日と第3日の順番に変更があった。

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		東京開催①	大阪開催①	東京開催②	大阪開催②
受講者数（申込者数）		360名（411名）	303名（315名）	330名（382名）	195名（203名）
年齢	平均年齢（標準偏差）	43.5歳（8.3）	44.4歳（8.5）	42.4歳（8.4）	44.2歳（8.8）
	範囲	24～63歳	22～62歳	25～63歳	22～62歳
性別	男性	12（3.3%）	9（3.0%）	14（4.2%）	8（4.1%）
	女性	348（96.7%）	294（97.0%）	316（95.8%）	187（95.9%）
運営 主体	公営	80（22.2%）	115（38.0%）	44（13.3%）	50（25.6%）
	民営	280（77.8%）	188（62.0%）	286（86.7%）	145（74.4%）
現職	主任保育士	262（72.8%）	209（69.0%）	221（67.0%）	144（73.8%）
	副主任保育士	28（7.8%）	30（9.9%）	38（11.5%）	14（7.2%）
	リーダー保育士	45（12.5%）	25（8.3%）	52（15.8%）	26（13.3%）
	その他	25（6.9%）	39（12.9%）	19（5.8%）	11（5.6%）
主任経 験年数	平均年数（標準偏差）	2.5年（3.3）	2.6年（3.1）	2.9年（4.3）	3.4年（4.5）
	範囲	0～26年	0～21年	0～35年	0～33年
保育士 経験年数	平均年数（標準偏差）	18.2年（9.5）	20.1年（9.1）	17.5年（8.5）	19.6年（8.8）
	範囲	1～53年	0～37年	0～36年	1～38年

(8) 事前シートについて

本研修会では、研修プログラムの一環として、受講者の日頃の保育実践の振り返りや課題の整理、より深い研修にするため、研修前に「事前シート」の提出を課題としている。内容としては、「研修会への参加理由」「特に学びたい講義」の質問事項へのチェックと、特に学びたい講義に関して「自らの課題や日頃の保育実践を踏まえて、どんなことを学びたいか」の記述の3項目となっている。

また、受講者を研修に派遣するにあたっての質問事項を保育所長（所属長）にも依頼している。

なお、事前シートについては、各研修科目を担当される講師にお送りし、講義内容の検討材料として活用している。

以下、事前シートの結果となっている。

①本研修会への参加理由（受講者回答）・派遣理由（保育所長回答）

受講者の回答としては、「主任・リーダーとして課題を感じている」が最も多く、いずれの開催でも 30% を超えている。保育所長の回答としては、「研修のねらい・研修内容」が最も多く、30%～から最大 47%と なっていた。

東京開催と大阪開催を比較すると、公営保育所の参加率が大阪開催の方が多いため、「自治体からの 派遣要請」の回答率に倍以上の差があった。

（受講者）

参加の理由	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.研修のねらい・研修内容	69	19.2%	46	15.2%	78	23.6%	38	19.5%
2.各講義のテーマ・講師	14	3.9%	7	2.3%	16	4.8%	11	5.6%
3.主任・リーダーとして課題	131	36.4%	101	33.3%	108	32.7%	60	30.8%
4.毎年主任等を順番に派遣	38	10.6%	50	16.5%	19	5.8%	22	11.3%
5.自治体から派遣要請	28	7.8%	49	16.2%	15	4.5%	25	12.8%
6.所長等からの業務命令	74	20.6%	43	14.2%	85	25.8%	35	17.9%
7.その他	5	1.4%	4	1.3%	7	2.1%	2	1.0%
無回答	1	0.3%	3	1.0%	2	0.6%	2	1.0%
受講者数	360		303		330		195	

（保育所長）

職員派遣の理由 (なぜ派遣しようと思ったか)	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.研修のねらい・研修内容	146	40.6%	91	30.0%	155	47.0%	73	37.4%
2.各講義のテーマ・講師	21	5.8%	9	3.0%	19	5.8%	11	5.6%
3.主任・リーダーとして課題	77	21.4%	52	17.2%	56	17.0%	36	18.5%
4.毎年主任等を順番に派遣	59	16.4%	68	22.4%	40	12.1%	33	16.9%
5.自治体から派遣要請	27	7.5%	48	15.8%	14	4.2%	22	11.3%
6.所長等からの業務命令	17	4.7%	26	8.6%	33	10.0%	15	7.7%
7.その他	12	3.3%	9	3.0%	12	3.6%	5	2.6%
無回答	1		0		1		0	
受講者数	360		303		330		195	

②受講者が特に学びたい講義／保育所長が特に学んでほしい講義

受講者の1回目の東京・大阪開催では、4割強の方が「保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割」と回答している。対して、2回目では、「保育所における人材育成」が一番多く、東京開催 45%、大阪開催 38%となっている。保育所長からは、6割前後の方が「保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割」と回答している。主任保育士の役割については、各園によって異なることが多く、再確認・再構築のために学びたい傾向があると考えられる。

(受講者)

学びたい講義	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	145	40.3%	134	44.2%	117	35.5%	72	36.9%
2.子どもの発達保障と保育者	30	8.3%	21	6.9%	16	4.8%	18	9.2%
3.保護者の支援と連携	51	14.2%	52	17.2%	46	13.9%	31	15.9%
4.保育所における人材育成	134	37.2%	96	31.7%	150	45.5%	74	37.9%
無回答	0		0		1		0	
受講者数	360		303		330		195	

(保育所長)

学んでほしい講義	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	221	61.4%	175	57.8%	188	57.0%	120	61.5%
2.子どもの発達保障と保育者	29	8.1%	16	5.3%	19	5.8%	17	8.7%
3.保護者の支援と連携	23	6.4%	22	7.3%	23	7.0%	14	7.2%
4.保育所における人材育成	87	24.2%	90	29.7%	100	30.3%	44	22.6%
無回答	0		0		0		0	
受講者数	360		303		330		195	

③研修会を知った経緯（回答は保育所長）

保育所長の 7 割前後が「自治体からの案内」から本研修会を知ったことがわかった。課題としては、自治体からの周知に偏っているため、自らの広報周知を工夫する必要があると考えられる。

研修会を知った経緯	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1.自治体からの案内	271	75.28%	221	72.94%	212	64.24%	125	64.10%
2.保育団体からの案内	36	10.00%	48	15.84%	70	21.21%	33	16.92%
3.日本保育協会の HP や機関誌等	41	11.39%	29	9.57%	33	10.00%	29	14.87%
4.他園の園長からの情報	1	0.28%	2	0.66%	4	1.21%	2	1.03%
5.保育関係の雑誌・業界紙	0	0.00%	1	0.33%	3	0.91%	3	1.54%
6.主任からの申し出	5	1.39%	1	0.33%	4	1.21%	2	1.03%
7.その他	5	1.39%	1	0.33%	3	0.91%	1	0.51%
無回答	1	0.28%	0	0.00%	1	0.30%	0	0.00%
受講者数	360		303		330		195	

④研修会後の保育園内での共有方法（回答は保育所長） ※複数回答可

全体の 97%以上の保育園において、受講者の学びを何かしらの方法を用いて、保育園内で共有する予定との回答が得られた。本研修会が受講者個人の学びに加えて、保育園（組織）として活用しようとしていることが考えられる。内訳としては、「研修報告書の作成・報告会」が最も多く 77%強、次いで「職員会

議での報告」が71%強、「資料の回覧」が56%前後となっている。

保育園内での共有方法 (複数回答)	【東京開催①】		【大阪開催①】		【東京開催②】		【大阪開催②】	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 研修会資料の回覧	213	59.17%	212	69.97%	199	60.30%	123	63.08%
2. 職員会議での報告	261	72.50%	250	82.51%	242	73.33%	146	74.87%
3. 研修テーマで園内研修	127	35.28%	83	27.39%	102	30.91%	68	34.87%
4. 研修報告書等の作成・報告会	295	81.94%	246	81.19%	268	81.21%	150	76.92%
5. 個人の学びのため共有しない	2	0.56%	2	0.66%	7	2.12%	3	1.54%
6. その他	10	2.78%	10	3.30%	15	4.55%	5	2.56%
無回答	0		0		0		0	
総回答数	908		803		833		495	
回答者数	360		303		330		195	

(9) 研修活用調査結果について

調査の実施については、研修会の直後と1回目の東京・大阪開催の3ヶ月後に実施した調査結果となっている。調査票の回収数(%)については、下記表の通り。

	東京開催①	大阪開催①	東京開催②	大阪開催②
受講者数	360	303	330	195
研修会直後調査回収数(%)	345(95.8%)	300(99.0%)	325(98.5%)	190(97.4%)
【受講者】3ヶ月後調査回収数(%)	296(82.2%)	249(82.2%)		
【所長】3ヶ月後調査回収数(%)	278(77.2%)	245(80.9%)		

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について(単純平均値・標準偏差)

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

<p>【研修のねらい】 最新の保育政策の動向や関係法令、保育所運営における課題への対応を学び、主任保育士としての実践力を高める。</p>

研修会直後の調査では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「主任保育士としての実践力」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後・3ヶ月後のいずれも高評価となっている。また、他研修会と比較すると、3ヶ月後の数値が下がる傾向にあったが、大阪開催①では、受講者の評価は変わらず、保育所長の評価は上がっている。保育士のトップであること、保育所長との連携が取りやすいことから研修会の学びをすぐに活かしやすいが一因として考えられる。

	東京開催①			大阪開催①		
	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	4.6	4.3	4.1	4.4	4.4	4.6
	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.8
	東京開催②			大阪開催②		
	4.5			4.7		
			0.7			

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。4 開催ごとに多少の差があるものの、研修会直後では、いずれの講義もおおむね高い評価となっている。「講義2 子どもの発達保障」「講義4 保育所における人材育成」については、全ての開催地で非常に高い評価となっている。一方で、第1回目の東京・大阪開催の3ヶ月後調査について、全体的に評価が下がっている傾向にあり、研修会直後と比べると、ポイントの下落幅は、受講者で0.5～0.8、保育所長で0.2～0.7下がっている。研修の学びに対して、受講者の回答は厳しめに評価されているが、保育所長としては一定数の評価をいただけていることがわかった。

（東京開催①・大阪開催①）

研修科目	【東京開催①】			【大阪開催①】		
	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義1 保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	4.6 0.7	4.0 0.8	4.2 0.9	4.5 0.7	4.0 0.7	4.2 0.8
講義2 子どもの発達保障と保育者	5.1 0.7	4.5 0.7	4.5 0.8	4.6 0.7	4.1 0.7	4.3 0.8
講義3 保護者の支援と連携	4.7 0.7	4.1 0.8	4.5 0.9	4.7 0.7	4.2 0.7	4.4 0.8
講義4 保育所における人材育成	5.1 0.7	4.3 0.8	4.4 0.9	4.8 0.7	4.2 0.7	4.3 0.9

(東京開催②・大阪開催②)

研修科目	【東京開催②】			【大阪開催②】		
	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義 1 保育制度の動向と保育所における主任保育士の役割	4.7 0.7	/	/	4.8 0.7	/	/
講義 2 子どもの発達保障と保育者	4.9 0.8	/	/	5.2 0.7	/	/
講義 3 保護者の支援と連携	4.7 0.8	/	/	5.0 0.7	/	/
講義 4 保育所における人材育成	5.0 0.7	/	/	5.1 0.7	/	/

③保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下の表にまとめている。東京開催では、受講者・保育所長ともに約4割の方が講義2を選択し、「継続的に課題として意識している」ことを理由として多く挙げている。大阪開催では、受講者の約4割・保育所長の約3割の方が講義4を選択し、「継続的に課題として意識している」ことを理由として多く挙げている。全体的には、「新しい知見・気づきが得られた」「継続的に課題として意識している」「講義の内容が具体的で実践に活かした」の理由も多く挙げられた。

(東京開催①・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を1つ選択	38	126	18	106	7	295
1.講義の内容を理解できている	10	35	3	21	1	70
2.継続的に課題として意識している	16	83	11	60	4	174
3.保育の内容が良くなった	1	11	4	4	0	20
4.職場での共通理解が得られた	8	19	6	26	3	62
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	6	6	4	10	0	26
6.取り組む時間が取れた	3	3	2	16	1	25
7.講義の内容が実践にマッチしている	7	36	4	30	5	82
8.新しい知見・気づきが得られた	26	77	10	64	4	181
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	21	52	3	57	2	135
10.保育への姿勢が変わった	12	41	3	22	0	78
11.その他	2	4	0	3	0	9
計	112	367	50	313	20	

(大阪開催①・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を 1 つ選択	33	26	44	140	4	247
1.講義の内容を理解できている	12	6	12	23	2	55
2.継続的に課題として意識している	26	18	30	89	1	164
3.保育の内容が良くなった	0	0	2	5	0	7
4.職場での共通理解が得られた	9	8	8	31	2	58
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	4	3	3	9	0	19
6.取り組む時間が取れた	2	0	2	17	0	21
7.講義の内容が実践にマッチしている	8	5	18	46	1	78
8.新しい知見・気づきを得られた	20	16	27	87	3	153
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	10	11	17	64	2	104
10.保育への姿勢が変わった	8	7	9	33	1	58
11.その他	0	0	2	3	0	5
計	99	74	130	407	12	

(東京開催①・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を 1 つ選択	44	100	55	70	5	274
1.講義の内容を理解できている	15	40	13	22	3	93
2.継続的に課題として意識している	25	61	34	43	2	165
3.保育の内容が良くなった	7	12	7	10	1	37
4.職場での共通理解が得られた	11	34	16	17	1	79
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	9	15	11	8	2	45
6.取り組む時間が取れた	4	6	4	8	0	22
7.講義の内容が実践にマッチしている	5	22	15	13	0	55
8.新しい知見・気づきを得られた	25	50	31	40	2	148
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	9	26	11	27	1	74
10.保育への姿勢が変わった	10	15	12	14	2	53
11.その他	0	0	0	2	0	2
計	120	281	154	204	14	

(大阪開催①・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を1つ選択	37	32	66	104	5	244
1.講義の内容を理解できている	23	12	26	33	2	96
2.継続的に課題として意識している	28	27	40	59	4	158
3.保育の内容が良くなった	3	3	4	9	1	20
4.職場での共通理解が得られた	9	5	19	30	1	64
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	6	5	9	10	1	31
6.取り組む時間が取れた	1	0	5	13	0	19
7.講義の内容が実践にマッチしている	8	5	17	25	1	56
8.新しい知見・気づきが得られた	19	14	32	57	3	125
9.講義の内容が具体的で実践に活かされた	5	7	10	44	1	67
10.保育への姿勢が変わった	4	7	16	18	2	47
11.その他	0	1	2	0	0	3
計	106	86	180	298	16	

④保育実践に活かしくかった講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしくかった講義とその理由について、以下の表にまとめている。講義1を選択する方が多くいたが、いずれの開催においても「取り組む時間が取れなかった」との理由が多く挙げられた。また、全体的な理由においては、受講者の回答で最も多い項目が「新しいことに取り組みにくい環境がある」であった。同回答は、保育所長からも2,3番目に多く、保育所の組織風土に課題があることがわかった。

(東京開催①・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしくかった講義を1つ選択	119	17	102	42	0	280
1.講義の内容を理解できていない	28	1	11	3	0	43
2.継続的に課題として意識していない	16	3	20	3	0	42
3.保育の内容が変わらない	19	5	15	3	1	43
4.職場での共通理解が得られなかった	13	3	11	15	0	42
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	29	5	31	19	0	84
6.取り組む時間が取れなかった	64	3	51	26	0	144
7.講義の内容が実践にマッチしていない	34	7	50	11	0	102
8.新しい知見・気づきが得られなかった	13	7	7	6	1	34
9.理論ばかりで実践に活かさない	51	5	23	7	0	86
10.保育への姿勢が変わっていない	7	2	3	4	0	16
11.その他	32	6	32	5	0	75
計	306	47	254	102	2	

(大阪開催①・受講者)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしにくかった講義を 1 つ選択	80	61	53	38	0	232
1.講義の内容を理解できていない	20	9	2	3	0	34
2.継続的に課題として意識していない	9	9	8	4	0	30
3.保育の内容が変わらない	12	10	9	9	0	40
4.職場での共通理解が得られなかった	15	7	7	9	0	38
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	28	15	16	21	0	80
6.取り組む時間が取れなかった	31	29	28	31	2	121
7.講義の内容が実践にマッチしていない	24	24	25	9	1	83
8.新しい知見・気づきが得られなかった	7	17	8	3	0	35
9.理論ばかりで実践に活かせない	31	18	18	7	0	74
10.保育への姿勢が変わっていない	3	7	2	4	2	18
11.その他	18	7	18	5	2	50
計	198	152	141	105	7	

(東京開催①・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしにくかった講義を 1 つ選択	130	24	33	65	3	255
1.講義の内容を理解できていない	24	2	4	1	1	32
2.継続的に課題として意識していない	33	5	6	16	1	61
3.保育の内容が変わらない	17	6	1	9	0	33
4.職場での共通理解が得られなかった	30	7	4	17	1	59
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	30	10	11	15	2	68
6.取り組む時間が取れなかった	61	10	19	36	1	127
7.講義の内容が実践にマッチしていない	37	6	12	7	1	63
8.新しい知見・気づきが得られなかった	12	4	4	11	0	31
9.理論ばかりで実践に活かせない	55	10	12	12	2	91
10.保育への姿勢が変わっていない	11	2	0	12	1	26
11.その他	15	5	2	13	0	35
計	325	67	75	149	10	

(大阪開催①・保育所長)

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	無効・不明	回答数
最も活かしにくかった講義を 1 つ選択	102	59	32	46	0	239
1.講義の内容を理解できていない	12	2	0	5	0	19
2.継続的に課題として意識していない	34	8	4	9	0	55
3.保育の内容が変わらない	10	13	3	6	0	32
4.職場での共通理解が得られなかった	25	18	8	10	0	61
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	27	18	9	10	0	64
6.取り組む時間が取れなかった	45	35	19	18	0	117
7.講義の内容が実践にマッチしていない	23	14	9	15	0	61
8.新しい知見・気づきが得られなかった	21	5	5	13	0	44
9.理論ばかりで実践に活かせない	29	20	6	15	0	70
10.保育への姿勢が変わっていない	12	9	5	5	0	31
11.その他	13	8	5	5	1	32
計	251	150	73	111	1	

⑤「主任保育士」として今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、東京開催①106名(29.4%)、大阪開催①65名(21.5%)、東京開催②100名(30.8%)、大阪開催②59名(30.3%)の計330名から得られた。今回の研修テーマである「人材育成」「園内研修」などの育成関連、「保護者支援・対応・方法」や「主任保育士の役割」「子どもの発達保障」「保育制度の動向」は全て上位に挙げられており、今の保育現場の課題に沿った研修になっている。その他には、「特別なニーズを要する子ども支援・障害児保育」や「保育計画・評価」などの記録についても多数の回答があった。

テーマ	合算
人材育成	67
保護者支援・対応・方法	43
特別なニーズを要する子ども支援・障害児保育	25
園内研修	22
主任保育士の役割(実務・労務)	18
保育計画及び評価(指導課程、指導計画、教育計画、エピソード記述、連絡帳)	18
保育内容と実践	15
園内環境整備	13
子どもの発達保障	13
保育制度の動向	12
子どもの発達	10
子どもの心の育ち	9
主任保育士の資質向上	8
保育者の役割	8
保育の質の向上	8
危機管理(災害時・緊急時マニュアル、事故予防)	7

テーマ	合算
連携・チームワーク	7
乳児保育	6
保育所におけるリスクマネジメント	6
異年齢保育・縦割り保育	5
子どもの主体性と保育者の気づき、視点の持ち方	4
認定こども園のあり方(実情)	4
保育士と園の評価の仕組み	4
遊びの質を高めるには	3
アレルギー対応	3
子どもとの関わり・言葉かけ	3
子どもの理解	3
組織づくり、組織学	3
地域子育て支援	3
人間関係(子ども、保護者、保育士、園長)	3
保育技術(あそび、わらべうた、指手あそび、ものあそび、パネルシアター)	3
園長と主任の関係づくり・連携	2
カウンセリング・技術	2
クレーム対応・事例	2
コーチング	2
コミュニケーション能力の高め方	2
今後の日本における保育のあり方	2
社会福祉制度・ソーシャルワーカー	2
脳科学から見た子育て	2
発達心理学・心理学	2
保育ソーシャルワーク	2

その他の回答としては、「所長・主任・中堅の合同研修」「ファシリテーター養成」「実習生への対応」「地域連携・交流」「保幼小の連携」「人間学・脳科学」「カウンセリングマインド」「安全管理・ヒヤリハット・保健衛生」「アレルギー食対応・給食室との連携」「保育以外のマネジメントや職場づくり」「マニュアル作り」「メンタルヘルス」「レジャ・エミリア」「テファリキ」「保育指針の理解」「保育の発信方法」「遊びの環境と援助」「年齢別保育・連続性」「感覚統合」などが挙げられた。

⑥研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、東京開催①331名(91.9%)、大阪開催①209名(69.7%)、東京開催②209名(64.3%)、大阪開催②108名(55.4%)の計857名から得られ、その内の602名(70.2%)からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。ご意見・ご提案としては、オプションの昼食や宿泊、研修会場の設備への指摘があった。また、特に東京開催については、定員以上の受講者数だったこともあり、座席に十分な余裕がない上での3日間の研修だったため、負担が大きかった。その他について「有意義な研修会なので、地方都市で開催して欲しい」「全国規模のため交流会の実施」「テキストの分冊」「地方から参加のため最終日の終了時間を早めてほしい」「参加者のマナーへの苦言」「アイスブレイクやグループ編成への提案」など複数のご意見・ご提案をいただいた。

10. 保育所におけるアレルギー対応研修会

(1) 研修のねらい

子どもの健やかな育ちを保障するために、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」から食物アレルギーに関する正しい知識を理解し、保育所並びに個人のアレルギー児への対応力を高める。

(2) 研修の内容

- ・最新の保育制度の動向と保育所におけるアレルギー対応ガイドラインを理解する。
- ・乳幼児期の食物アレルギーの基礎知識を理解する。
- ・保育所におけるアレルギーに対する適切な対処の仕方を学ぶ。

(3) 対象

保育所の施設長、主任保育士並びに保育所職員、行政の指導・研修担当者等

(4) 研修期間及び場所・定員

期日	研修会場	所在地	定員
平成 26 年 10 月 17 日(金)	メルパーク仙台	宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-6-51	300 名
平成 26 年 10 月 31 日(金)	福岡サンパレスホテル	福岡県福岡市博多区築港本町 2-1	
平成 26 年 11 月 14 日(金)	ホテル札幌芸文館	北海道札幌市中央区北 1 条西 12 丁目	
平成 26 年 12 月 19 日(金)	広島国際会議場	広島県広島市中区中島町 1-5	

(5) 研修プログラム

No.	研修科目	方法・時間	講師名
1	保育制度の動向と保育所におけるアレルギー対応ガイドライン	講義 1時間	厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課 保育指導専門官 馬場 耕一郎
2	保育所におけるアレルギー対応 (エビペン指導及び緊急対応の ロールプレイ含む)	講義 3時間	【仙台開催】 東京都立小児総合医療センター アレルギー科 部長・医学博士 赤澤 晃 【福岡開催】 福岡女学院看護大学 学長・医学博士 西間 三馨 【札幌・広島開催】 昭和大学 医学部 小児科学講座 講師・医学博士 今井 孝成

(6) タイムスケジュール

時間	10	11	12	13	14	15	16	17
第 1 日	受付	開講式	保育制度の 動向と保育 所における アレルギー 対応ガイドラ イン	休 憩	保育所におけるアレルギー対応			

(7) 受講者の内訳

受講者の内訳は、以下の表の通り。

		仙台開催	福岡開催	札幌開催	広島開催
受講者数（申込者数）		124名（130名）	284名（296名）	93名（95名）	144名（155名）
年齢	平均年齢（標準偏差）	41.7歳（11.3）	43.3歳（11.8）	40.5歳（13.1）	44.0歳（11.7）
	範囲	20～73歳	20～71歳	20～74歳	20～64歳
性別	男性	8（6.5%）	17（6.0%）	4（4.3%）	4（2.8%）
	女性	116（93.5%）	267（94.0%）	89（95.7%）	140（97.2%）
運営主体	公営	24（19.4%）	65（22.9%）	31（33.3%）	41（28.5%）
	民営	100（80.6%）	219（77.1%）	62（66.7%）	103（71.5%）
現職	保育士	35（28.2%）	68（23.9%）	29（31.2%）	46（31.9%）
	リーダー保育士	6（4.8%）	9（3.2%）	4（4.3%）	10（6.9%）
	主任	16（12.9%）	48（16.9%）	19（20.4%）	30（20.8%）
	副施設長	3（2.4%）	8（2.8%）	3（3.2%）	2（1.4%）
	園長	17（13.7%）	46（16.2%）	11（11.8%）	20（13.9%）
	行政の指導・研修担当	4（3.2%）	7（2.5%）	3（3.2%）	3（2.1%）
その他	43（34.7%）	98（34.5%）	24（25.8%）	33（22.9%）	
現職経 験年数	平均年数（標準偏差）	8.0年（7.9）	9.5年（9.0）	8.7年（8.8）	8.0年（7.5）
	範囲	0～34年	0～45年	1～37年	1～35年
保育士 経験年数	平均年数（標準偏差）	11.3年（11.2）	15.6年（12.3）	11.0年（11.0）	17.4年（11.8）
	範囲	0～43年	0～45年	0～37年	0～40年

(8) 研修活用調査結果について

調査の実施について、仙台・福岡・札幌の3開催では、研修会の直後と3ヶ月後に実施した調査結果となっている。12月に実施した広島開催については、研修会の直後のみの調査結果となっている。

調査票の回収数(%)については、下記表の通り。

	仙台開催	福岡開催	札幌開催	広島開催
受講者数	124	284	93	144
研修会直後調査回収数(%)	120(96.8%)	227(79.9%)	79(84.9%)	132(91.7%)
【受講者】3ヶ月後調査回収数(%)	91(73.4%)	194(68.3%)	57(61.3%)	
【所長】3ヶ月後調査回収数(%)	83(66.9%)	167(58.8%)	49(52.7%)	

①研修のねらいへの達成度・実践力への自己評価について（単純平均値・標準偏差）

本研修会では、以下の表の通り、研修のねらいを立てている。

【研修のねらい】

子どもの健やかな育ちを保障するために、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」から食物アレルギーに関する正しい知識を理解し、保育所並びに個人のアレルギー児への対応力を高める。

研修会直後の調査では、研修のねらいを達成するための学びができたかどうか、(1)全く達成できなかった、(2)達成できなかった、(3)あまり達成できなかった、(4)少し達成できた、(5)達成できた、(6)大いに達成できた、以上の6段階の評価から回答を得た。

研修会の3ヶ月後では、学んだことを活かして、研修のねらいである「アレルギー児への対応力」が高まっているかどうか、(1)全く高まっていない、(2)高まっていない、(3)あまり高まっていない、(4)少し高まった、(5)高まった、(6)大いに高まった、以上の6段階の評価から回答を得た。また、保育所長からも同様の尺度で、受講者に対する評価が得られた。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後・3ヶ月後のいずれも高評価となっている。3ヶ月後になると、数値が微減しているとは、他研修会と比較すると、下がり幅が非常に小さくなっており、研修のねらいや学びが継続されていることがわかった。

	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】	講義直後 【受講者】	3ヶ月後 【受講者】	3ヶ月後 【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
【研修のねらい】	仙台開催			福岡開催		
	5.1	4.8	4.9	5.0	5.0	4.9
	0.7	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7
	札幌開催			広島開催		
	5.0	4.8	5.0	4.9		
	0.7	0.7	0.6	0.8		

②各講義の活用度について（単純平均値・標準偏差）

各講義の内容が保育実践にどの程度活かせるか、いわゆる活用度について、(1)全く活かさない、(2)活かさない、(3)あまり活かさない、(4)少し活かせる、(5)活かせる、(6)大いに活かせる、以上の6段階の評価から回答を得た。

上記項目について、平均値・標準偏差を算出し、研修会直後から3ヶ月後の変容を比較した表が以下の通りとなっている。研修会直後では、いずれの開催地においても非常に高い評価となっているが、3ヶ月後になると、全体的に下がっている。

研修科目	講義直後【受講者】	3ヶ月後【受講者】	3ヶ月後【所長】	講義直後【受講者】	3ヶ月後【受講者】	3ヶ月後【所長】
	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差	平均値 標準偏差
講義 1 保育制度の動向と保育 所におけるアレルギー 対応ガイドライン	仙台開催			福岡開催		
	5.2	4.5	4.8	5.2	4.4	4.6
	0.7	0.9	0.9	0.7	0.9	0.9
	札幌開催			広島開催		
	5.1	4.4	4.6	5.1		
	0.7	0.8	0.8	0.6		
講義 2 保育所におけるアレル ギー対応 (エピペン実習・ロール プレイ含む)	仙台開催			福岡開催		
	5.3	4.5	4.6	5.3	4.5	4.7
	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	1.0
	札幌開催			広島開催		
	5.3	4.3	4.5	5.2		
	0.7	0.8	0.9	0.7		

③保育実践に活かしている講義とその理由について（3ヶ月後調査）

最も活かしている講義とその理由について、以下に仙台・福岡・札幌開催の合算した表をまとめている。全体的には、受講者・保育所長ともに「継続的に課題として意識している」「新しい知見・気づきが得られた」「職場での共通理解が得られた」の理由も多くが挙げられた。個人または保育園全体として、継続的に課題意識を持ち、研修による新しい知見・気づきから、職場理解もあり日々の実践に活かしていることがわかった。

（3開催の合算・受講者）

	講義 1	講義 2	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を1つ選択	74	255	4	333
1.講義の内容を理解できている	24	60	2	86
2.継続的に課題として意識している	51	167	5	223
3.保育の内容が良くなった	3	4	0	7
4.職場での共通理解が得られた	30	116	0	146
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	4	7	0	11
6.取り組む時間が取れた	5	24	0	29
7.講義の内容が実践にマッチしている	18	87	4	109
8.新しい知見・気づきが得られた	46	165	2	213
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	12	75	2	89
10.保育への姿勢が変わった	14	36	0	50
11.その他	2	7	0	9
計	209	748	15	

(3 開催の合算・保育所長)

	講義 1	講義 2	無効・不明	回答数
最も活かしている講義を 1 つ選択	58	216	4	278
1.講義の内容を理解できている	25	73	3	101
2.継続的に課題として意識している	39	122	5	166
3.保育の内容が良くなった	7	8	0	15
4.職場での共通理解が得られた	26	125	2	153
5.新しいことに取り組みやすい環境がある	0	11	1	12
6.取り組む時間が取れた	2	26	0	28
7.講義の内容が実践にマッチしている	14	61	1	76
8.新しい知見・気づきが得られた	29	97	3	129
9.講義の内容が具体的で実践に活かした	11	54	2	67
10.保育への姿勢が変わった	7	26	1	34
11.その他	1	4	0	5
計	161	607	18	

④保育実践に活かしくかった講義とその理由について (3ヶ月後調査)

最も活かしくかった講義とその理由について、仙台・福岡・札幌開催の合算した表を以下にまとめている。講義1を選択する方が多くいたが、いずれの開催においても「取り組む時間が取れなかった」との理由が多く挙げられた。

(3 開催の合算・受講者)

	講義 1	講義 2	無効・不明	回答数
最も活かしくかった講義を 1 つ選択	86	27	0	113
1.講義の内容を理解できていない	11	2	0	13
2.継続的に課題として意識していない	7	2	0	9
3.保育の内容が変わらない	18	6	0	24
4.職場での共通理解が得られなかった	9	4	0	13
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	20	4	0	24
6.取り組む時間が取れなかった	36	14	0	50
7.講義の内容が実践にマッチしていない	21	5	0	26
8.新しい知見・気づきが得られなかった	14	1	0	15
9.理論ばかりで実践に活かさない	41	8	0	49
10.保育への姿勢が変わっていない	10	4	0	14
11.その他	12	12	0	24
計	199	62	0	

(3 開催の合算・保育所長)

	講義 1	講義 2	無効・不明	回答数
最も活かしにくかった講義を 1 つ選択	58	25	1	84
1.講義の内容を理解できていない	3	1	0	4
2.継続的に課題として意識していない	5	4	0	9
3.保育の内容が変わらない	12	3	0	15
4.職場での共通理解が得られなかった	6	2	1	9
5.新しいことに取り組みにくい環境がある	10	8	0	18
6.取り組む時間が取れなかった	26	11	0	37
7.講義の内容が実践にマッチしていない	19	7	0	26
8.新しい知見・気づきが得られなかった	13	3	1	17
9.理論ばかりで実践に活かさない	27	8	1	36
10.保育への姿勢が変わっていない	9	2	0	11
11.その他	8	8	0	16
計	138	57	3	

③今後学びたいテーマについて（自由記述）

回答は、仙台開催 31 名 (25.0%)、福岡開催 38 名 (13.4%)、札幌開催 16 名 (17.2%)、広島開催 33 名 (22.9%) の計 118 名から得られた。今回の研修テーマである「アレルギー対応」に限らず、以下の通り、多様なテーマが挙げられた。

テーマ	合計	テーマ	合計
特別なニーズを要する子ども支援・障害児保育	16	食品添加物	3
アレルギー対応	12	グレーゾーンの子の対応	2
アレルギー食対応(作り方、注意の仕方)	10	食物アレルギー	2
感染症対策(エボラ出血熱等)	7	遊びうた、つながり遊び、ふれあい遊び	2
危機管理(事故予防、災害)	7	保育制度の動向	2
保護者支援・対応・方法	7	北海道千歳市のなかよし給食	2
食育	4	幼保連携型認定こども園の具体的イメージ	2
離乳食	4		

その他の単独回答として、アレルギー関連のテーマでは、「アトピー性皮膚炎からアレルギーにつながるメカニズム」「アレルギー主張の保護者とアレルギー児の保護者の対応」「医療・救急の連携方法」「乳糖不耐症対応」「飲み薬・点滴液・注射液・農薬によるアナフィラキシー」「誤嚥」「マニュアル作り」が挙げられた。その他のテーマでは、「外傷(湿潤療法)」「かみつき、ひっかき」「急病時や怪我対応」「小児糖尿病」「小児救急(一次)医療」「病児保育対応」「予防接種」「栄養管理」「保育保健」「看護師の役割」「保育所のリスクマネジメント」「虐待に係る関連機関との対応、あり方」「クレーム対応・事例(苦情等)」「超早期療育」「園内環境整備」「子どもの脳と発達」などが挙げられた。

④研修会の運営全体について（自由記述）

回答は、仙台開催 65 名 (52.4%)、福岡開催 73 名 (25.7%)、札幌開催 22 名 (23.7%)、広島開催 26 名 (18.1%) の計 186 名から得られ、その内の 140 名からは、運営全体や対応・全体的な感想について、大変好評であった。ご意見・ご提案としては、オプションの昼食や対応、研修会場設備への指摘があった。

【研修会直後の調査票】※保育所乳児保育研修会（東京開催）の受講者用を参考

受講No.

平成26年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）研修活用調査票

本調査は、保育所乳児保育担当者研修会の研修効果を評価するために実施いたします。
 右上の欄に、受講番号を書いていただきますが、全て統計的に処理をし、個別の評価はいたしませんので、受講者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

Q1. 本研修会では、下記の通り【研修のねらい】を立てています。全ての講義を受講をしていただき、あなたは【乳児保育の実践力を高めるための学び】が達成できましたか？ 下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。

	全く達成できなかった	達成できなかった	あまり達成できなかった	少し達成できた	達成できた	大いに達成できた
【研修のねらい】 保育所並びに個人の乳児保育の実践力を高める	1	2	3	4	5	6

Q2. 各講義内容について、どの程度、保育実践に活かされますか？（保育実践が変わる、新しい知識が得られた、意識が変わったなど）。全ての講義について、下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。

	全く活かされない	活かされない	あまり活かされない	少し活かされる	活かされる	大いに活かされる
1. 乳児の育ちと記録	1	2	3	4	5	6
2. 乳児保育の意義	1	2	3	4	5	6
3. 予防接種と保育所における感染症対策	1	2	3	4	5	6
4. 乳幼児期の心の発達と保育者の役割	1	2	3	4	5	6
5. 保育制度の動向と関係法令及びガイドライン	1	2	3	4	5	6

Q3. 乳児保育で学びたいテーマや、講演を聞いてみたいと思う講師をご自由にお書きください。

テーマ：

講師名： (所属：)

Q4. 研修会運営（事務局スタッフの対応、受付、昼食など）について、気になる点やご提案があればお書きください。研修会全体に対してのご意見でも構いません。

ご協力ありがとうございました！

【受講者用】

受講No. 1

平成 26 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
研修活用調査票【3ヶ月後】

本調査は、保育所乳児保育担当者研修会の研修効果を評価するために、研修期間中に実施した研修活用調査に続いて実施いたします。右上の欄に、受講番号を書いています。全て統計的に処理をし、個別の評価はいたしませんので、受講者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

Q1. 当研修会では、『保育所並びに個人の乳児保育の実践力を高める』ことを【研修のねらい】として立てていました。当研修会からのこの3ヶ月間で、あなたは学んだことを活かして乳児保育の実践力が高まったと思いますか？ 下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。

	全く高まっていない	高まっていない	あまり高まっていない	少し高まった	高まった	大いに高まった
乳児保育の実践力が高まったと思いますか	1	2	3	4	5	6

Q2. 各講義内容の活用度等について

(1) 当研修会から3ヶ月経ち、どの程度、保育実践に活かしていますか？各講義について、下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。

	全く活かしていない	活かしていない	あまり活かしていない	少し活かしている	活かしている	大いに活かしている
1 乳児の育ちと記録 大阪総合保育大学・教授 大方美香	1	2	3	4	5	6
2 乳児保育の意義 東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子	1	2	3	4	5	6
3 予防接種と保育所における感染症対策 大阪府済生会中津病院・部長 安井良則	1	2	3	4	5	6
4 乳幼児期の心の発達と保育者の役割 帝塚山大学・准教授 西村真実	1	2	3	4	5	6
5 保育制度の動向と関係法令・ガイドライン 厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場統一郎	1	2	3	4	5	6

裏面につづく⇒

- (2) 各講義について、あなたの日頃の保育に、最も活かしている講義に○をつけてください。また、その理由について、下記の中から、当てはまる項目の3つに○をつけてください。「その他」に○をつけた方は、カッコ内に詳細を必ずお書きください。

【最も活かしている講義について (該当の講義に○をつけてください)】

○	No.	研修科目	講師所属・役職・氏名
	1	乳児の育ちと記録	大阪総合保育大学・教授 大方美香
	2	乳児保育の意義	東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子
	3	予防接種と保育所における感染症対策	大阪府済生会中津病院・部長 安井良則
	4	乳幼児期の心の発達と保育者の役割	帝塚山大学・准教授 西村真実
	5	保育制度の動向と関係法令・ガイドライン	厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場耕一郎

【日頃の保育に最も活かしている理由について (最も当てはまる3つに○をつけてください)】

○	項目	○	項目
	1. 講義の内容を理解できている		2. 継続的に課題として意識している
	3. 保育の内容が良くなった		4. 職場での共通理解が得られた
	5. 新しいことに取り組みやすい環境がある		6. 取り組む時間が取れた
	7. 講義の内容が実践にマッチしている		8. 新しい知見・気づきを得られた
	9. 講義の内容が具体的で実践に活かされた		10. 保育への姿勢が変わった
	11. その他 ()		

- (3) 各講義について、あなたの日頃の保育に、最も活かしにくかった講義に○をつけてください。また、その理由について、下記の中から、当てはまる項目の3つに○をつけてください。「その他」に○をつけた方は、カッコ内に詳細を必ずお書きください。

【最も活かしにくかった講義について (該当の講義に○をつけてください)】

○	No.	研修科目	講師所属・役職・氏名
	1	乳児の育ちと記録	大阪総合保育大学・教授 大方美香
	2	乳児保育の意義	東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子
	3	予防接種と保育所における感染症対策	大阪府済生会中津病院・部長 安井良則
	4	乳幼児期の心の発達と保育者の役割	帝塚山大学・准教授 西村真実
	5	保育制度の動向と関係法令・ガイドライン	厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場耕一郎

【日頃の保育に最も活かしにくかった理由について (最も当てはまる3つに○をつけてください)】

○	項目	○	項目
	1. 講義の内容を理解できていない		2. 課題として特に意識していない
	3. 保育の内容が変わらない		4. 職場での共通理解が得られなかった
	5. 新しいことに取り組みにくい環境がある		6. 取り組む時間が取れなかった
	7. 講義の内容が実践にマッチしていない		8. 新しい知見・気づきを得られなかった
	9. 理論的ばかりで実践に活かせない		10. 保育への姿勢が変わっていない
	11. その他 ()		

ご協力ありがとうございました！

【保育所長用】

受講No. 1

平成 26 年度 保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）
研修活用調査票【3ヶ月後】

「保育所乳児保育担当者研修会（東京開催）」に保育所職員を派遣いただき、ありがとうございました。本調査は、保育所乳児保育担当者研修会の研修効果を評価するため、保育所保育士研修等事業の質を高めるために、受講者及び保育所長の皆さまにご協力をいただき、当研修会から約3ヶ月経った現時点での状況について、保育所長様の主観での回答及びご提出をお願いしています。

すでに受講№を記載しておりますが、全て統計的に処理し、受講者及び保育園の個別の評価はいたしません。何かとお忙しいことと存じますが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Q1. 当研修会を受講した職員の現在の保育についてお聞きします。当研修会では、『保育所並びに個人の乳児保育の実践力を高める』ことを【研修のねらい】として立てていました。当研修会からのこの3ヶ月間で、受講した職員は、学んだことを活かして乳児保育の実践力が高まったと思いますか？ 下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。保育所長の主観でお答えください。

	全く高まっていない	高まっていない	あまり高まっていない	少し高まった	高まった	大いに高まった
乳児保育の実践力が高まったと思いますか	1	2	3	4	5	6

Q2. 受講した職員の学びについて

(1) 当研修会からのこの3ヶ月間で、受講された職員は、下記の研修内容を保育実践に活かしているとお思いですか？各講義について、下記の指標から最も該当する数字に○をつけてください。

	全く活かしていない	活かしていない	あまり活かしていない	少し活かしている	活かしている	大いに活かしている
1 乳児の育ちと記録 大阪総合保育大学・教授 大方美香	1	2	3	4	5	6
2 乳児保育の意義 東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子	1	2	3	4	5	6
3 予防接種と保育所における感染症対策 大阪府済生会中津病院・部長 安井良則	1	2	3	4	5	6
4 乳幼児期の心の発達と保育者の役割 帝塚山大学・准教授 西村真実	1	2	3	4	5	6
5 保育制度の動向と関係法令・ガイドライン 厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場耕一郎	1	2	3	4	5	6

裏面へつづく⇒

(2) 受講した職員が日頃の保育に、最も活かしていると思われる講義に○をつけてください。また、その理由について、下記の中から、当てはまる項目の3つに○をつけてください。「その他」に○をつけた方は、カッコ内に詳細を必ずお書きください。

【最も活かしていると思われる講義について（該当の講義に○をつけてください）】

○	No.	研修科目	講師所属・役職・氏名
	1	乳児の育ちと記録	大阪総合保育大学・教授 大方美香
	2	乳児保育の意義	東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子
	3	予防接種と保育所における感染症対策	大阪府済生会中津病院・部長 安井良則
	4	乳幼児期の心の発達と保育者の役割	帝塚山大学・准教授 西村真実
	5	保育制度の動向と関係法令・ガイドライン	厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場耕一郎

【日頃の保育に最も活かしていると思われる理由について（最も当てはまる3つに○をつけてください）】

○	項目	○	項目
	1. 講義の内容を理解できている		2. 継続的に課題として意識している
	3. 保育の内容が良くなった		4. 職場での共通理解が得られた
	5. 新しいことに取り組みやすい環境がある		6. 取り組む時間が取れた
	7. 講義の内容が実践にマッチしている		8. 新しい知見・気づきが得られた
	9. 講義の内容が具体的で実践に活かされた		10. 保育への姿勢が変わった
	11. その他（		）

(3) 受講した職員が日頃の保育に、最も活かしにくかったと思われる講義に○をつけてください。また、その理由について、下記の中から、当てはまる項目の3つに○をつけてください。「その他」に○をつけた方は、カッコ内に詳細を必ずお書きください。

【最も活かしにくかったと思われる講義について（該当の講義に○をつけてください）】

○	No.	研修科目	講師所属・役職・氏名
	1	乳児の育ちと記録	大阪総合保育大学・教授 大方美香
	2	乳児保育の意義	東京家政大学ナースリールーム・主任 井桁容子
	3	予防接種と保育所における感染症対策	大阪府済生会中津病院・部長 安井良則
	4	乳幼児期の心の発達と保育者の役割	帝塚山大学・准教授 西村真実
	5	保育制度の動向と関係法令・ガイドライン	厚生労働省保育課・保育指導専門官 馬場耕一郎

【日頃の保育に最も活かしにくかったと思われる理由について（最も当てはまる3つに○をつけてください）】

○	項目	○	項目
	1. 講義の内容を理解できていない		2. 課題として特に意識していない
	3. 保育の内容が変わらない		4. 職場での共通理解が得られなかった
	5. 新しいことに取り組みにくい環境がある		6. 取り組む時間が取れなかった
	7. 講義の内容が実践にマッチしていない		8. 新しい知見・気づきが得られなかった
	9. 理論的ばかりで実践に活かさない		10. 保育への姿勢が変わっていない
	11. その他（		）

ご協力ありがとうございました！

過去の研修会受講者数等について

【平成 25,26 年度 受講者数(比較)】

* 受講者数は修了証の発行数と異なる

()内は25年度

研修会名		開催地	公営	民営	合計
保育所長研修会	中堅所長	東京都 (東京都)	46名 (45名)	48名 (70名)	94名 (115名)
	初任所長 (H26:2開催、H25:1開催)	東京都×2・大阪府 (東京都・大阪府)	162名 (119名)	757名 (562名)	919名 (681名)
	初任所長(就任予定者) (H26:2開催、H25:1開催)	東京都×2 (東京都)	20名 (13名)	507名 (358名)	527名 (371名)
合計			228名 (177名)	1312名 (990名)	1540名 (1167名)

研修会名	開催地	公営	民営	合計
保育所乳児保育担当者研修会 (2開催)	東京都・大阪府 (東京都・大阪府)	118名 (101名)	623名 (671名)	741名 (772名)
保育所障害児保育担当者研修会 (H26:1開催、H25:2開催)	東京都 (東京都・大阪府)	96名 (142名)	223名 (350名)	319名 (492名)
保育所保護者支援研修会 (旧:保育所地域子育て支援担当者研修会)	東京都 (東京都)	97名 (93名)	240名 (309名)	337名 (402名)
保育所実習指導研修会 (旧:保幼小研修会)	東京都 (東京都)	15名 (36名)	239名 (163名)	254名 (199名)
保育所事故予防研修会 (2開催)	東京都・大阪府 (東京都・大阪府)	150名 (175名)	436名 (395名)	586名 (570名)
合計		476名 (547名)	1761名 (1888名)	2237名 (2435名)

保育所主任保育士研修会	開催地	公営	民営	合計
東京開催①	東京都 (東京都)	80名 (64名)	280名 (324名)	360名 (388名)
東京開催②	東京都 (東京都)	44名 (56名)	286名 (306名)	330名 (362名)
大阪開催①	大阪府 (大阪府)	115名 (117名)	188名 (251名)	303名 (368名)
大阪開催②	大阪府 (大阪府)	50名 (71名)	145名 (173名)	195名 (244名)
合計		289名 (308名)	899名 (1054名)	1188名 (1362名)

研修会名	開催地	公営	民営	合計
保育所におけるアレルギー対応研修会 (平成27年度新規)	北海道	31名	62名	93名
	宮城県	24名	100名	124名
	広島県	41名	103名	144名
	福岡県	65名	219名	284名
合計		161名	484名	645名

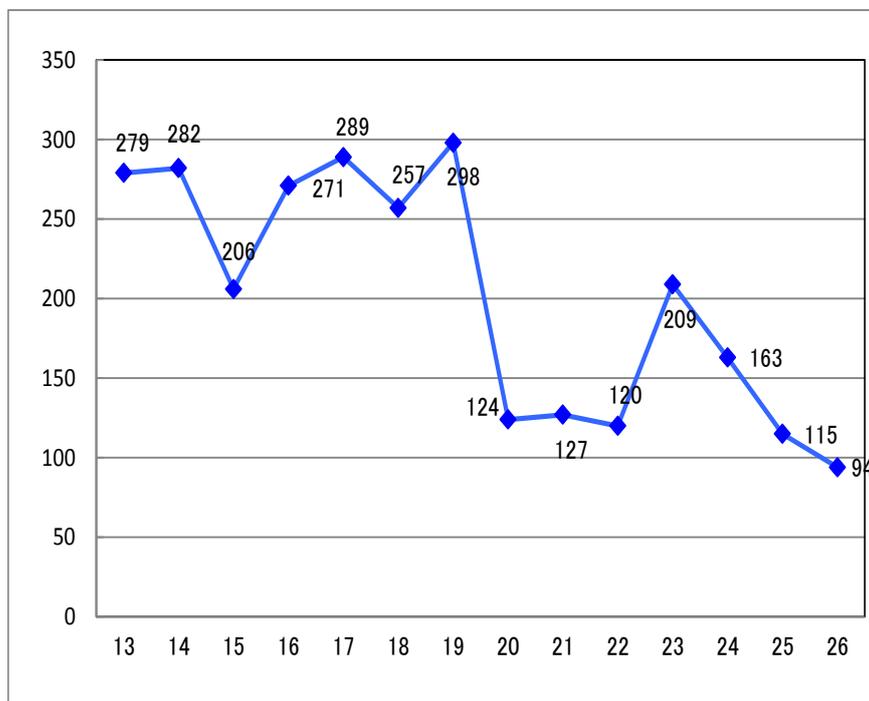
研修会総数	1154名 (1032名)	4455名 (3932名)	5610名 (4964名)
-------	------------------	------------------	------------------

【研修会受講者数の推移】

保育所中堅保育所長研修会

※年1回の開催

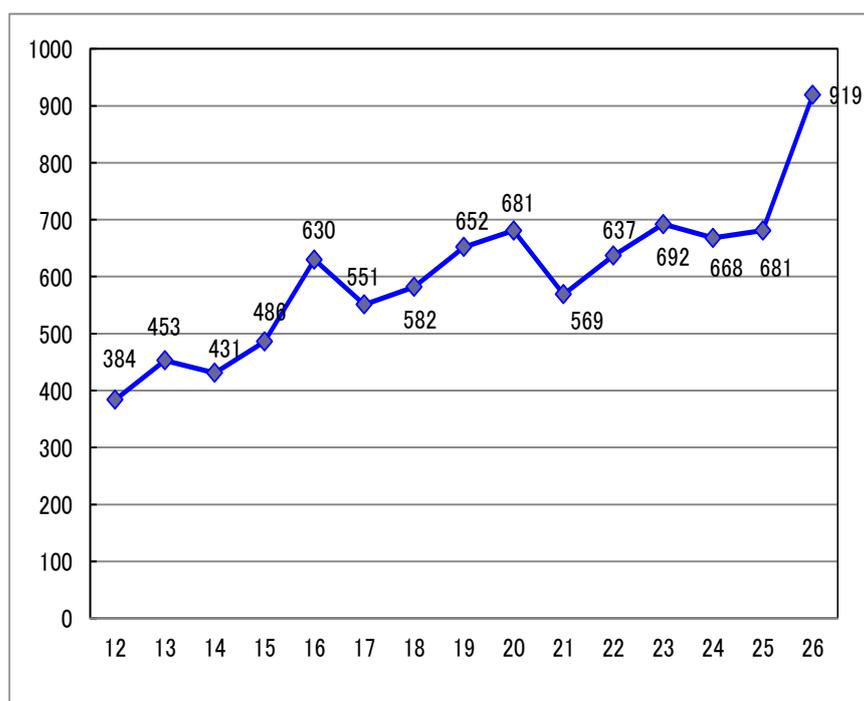
年度	受講者数
12	167
13	279
14	282
15	206
16	271
17	289
18	257
19	298
20	124
21	127
22	120
23	209
24	163
25	115
26	94



保育所初任保育所長研修会

※平成23年度までは年1回の開催、平成24,25年度は年2回の開催、平成26年度は年3回の開催

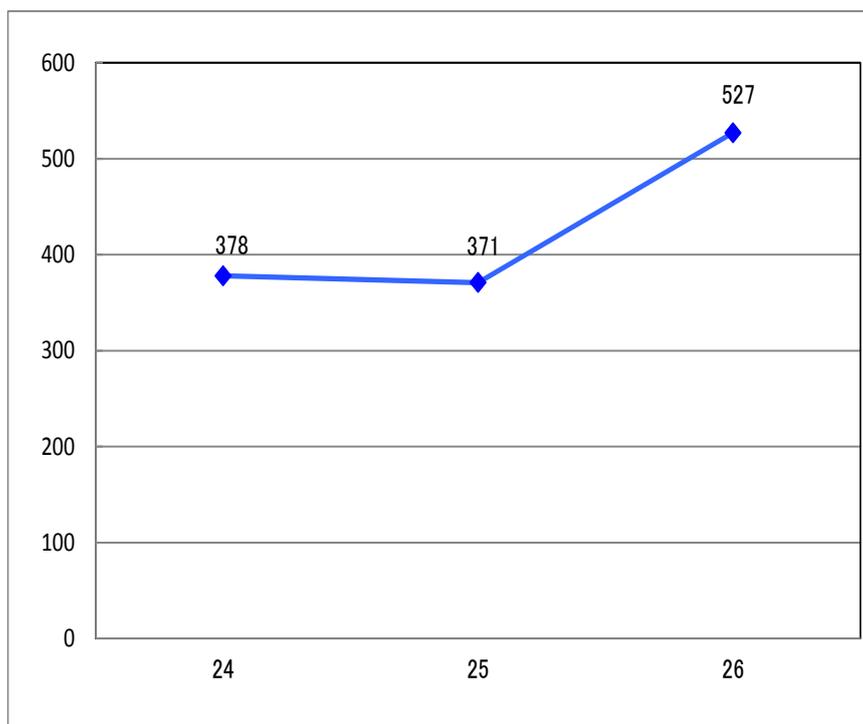
年度	受講者数
12	384
13	453
14	431
15	486
16	630
17	551
18	582
19	652
20	681
21	569
22	637
23	692
24	668
25	681
26	919



保育所初任保育所長(就任予定者)研修会

※平成24年度より新規。平成24,25年度は年1回の開催、平成26年度は年2回の開催

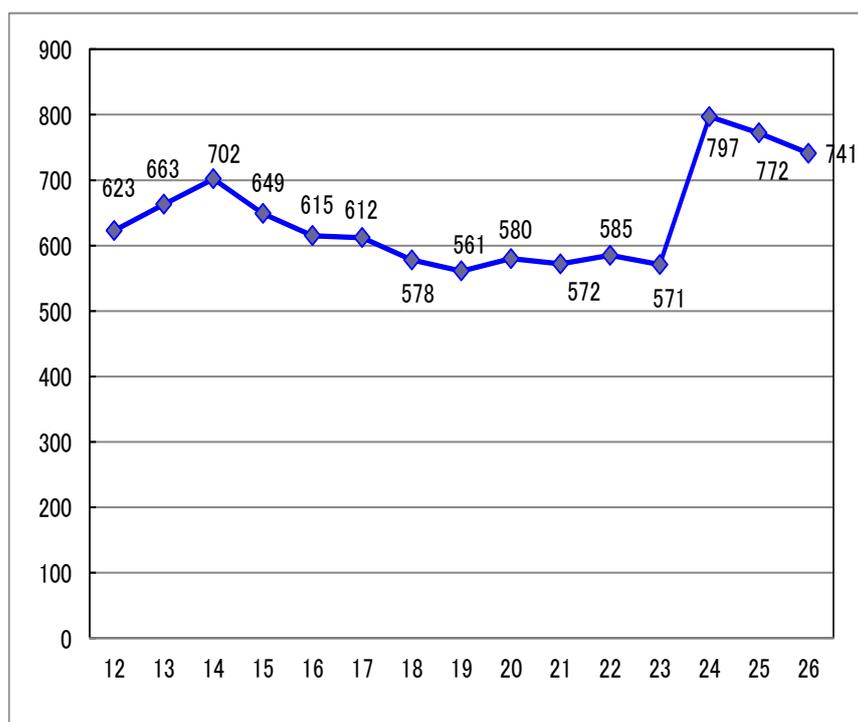
年度	受講者数
24	378
25	371
26	527



保育所乳児保育担当者研修会

※平成23年度までは年1回の開催、平成24~26年度は年2回の開催

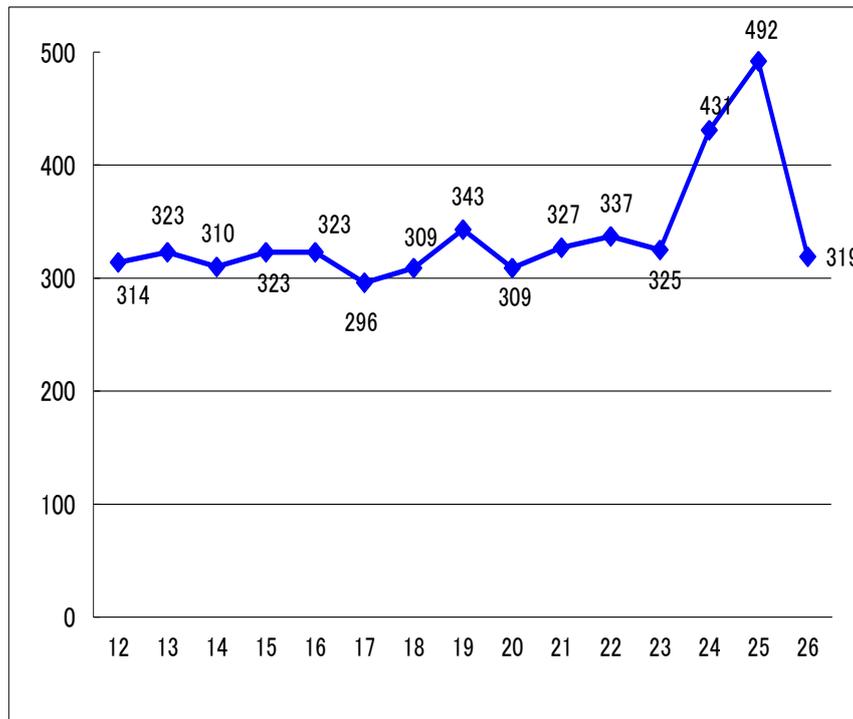
年度	受講者数
12	623
13	663
14	702
15	649
16	615
17	612
18	578
19	561
20	580
21	572
22	585
23	571
24	797
25	772
26	741



保育所障害児保育担当者研修会

※平成23年度までは年1回の開催、平成24,25年度は年2回の開催、平成26年度は年1回の開催

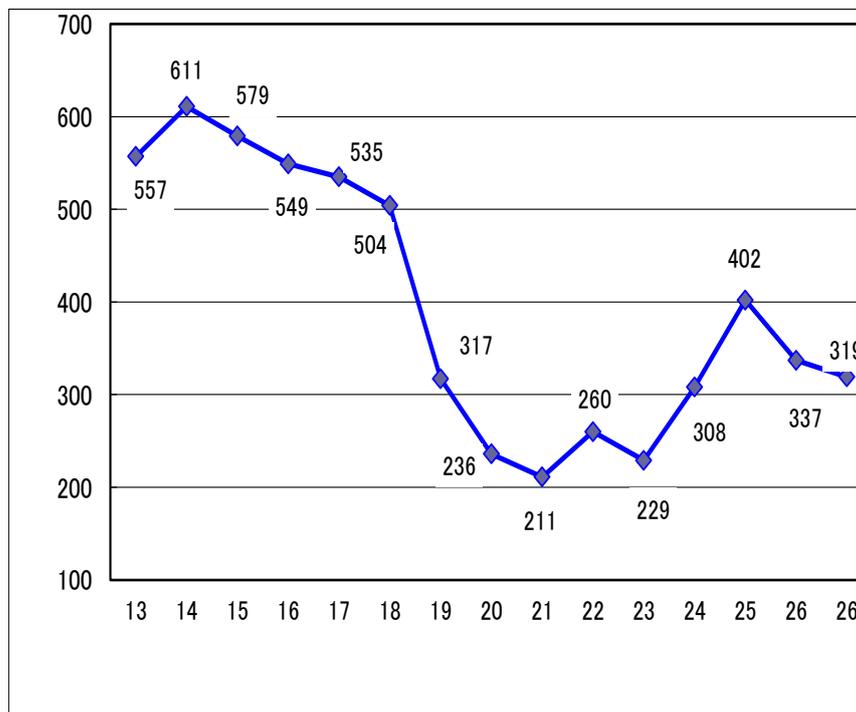
年度	受講者数
12	314
13	323
14	310
15	323
16	323
17	296
18	309
19	343
20	309
21	327
22	337
23	325
24	431
25	492
26	319



保育所保護者支援研修会(旧:保育所地域子育て支援担当者研修会)

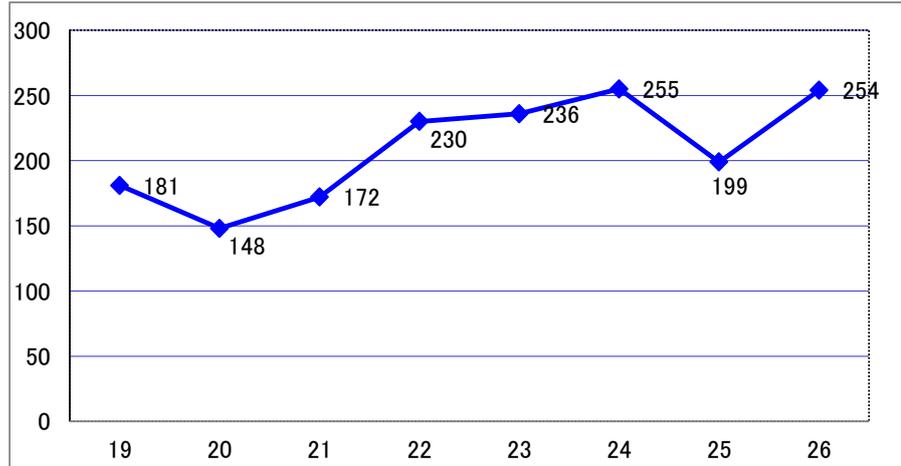
※平成12,13年度は年3回の開催、平成14~18年度は年2回の開催、平成19年度以降は年1回の開催

年度	受講者数
12	574
13	557
14	611
15	579
16	549
17	535
18	504
19	317
20	236
21	211
22	260
23	229
24	308
25	402
26	337
26	319



保育所実習指導研修会(平成25年度までは保幼小連携研修会等)

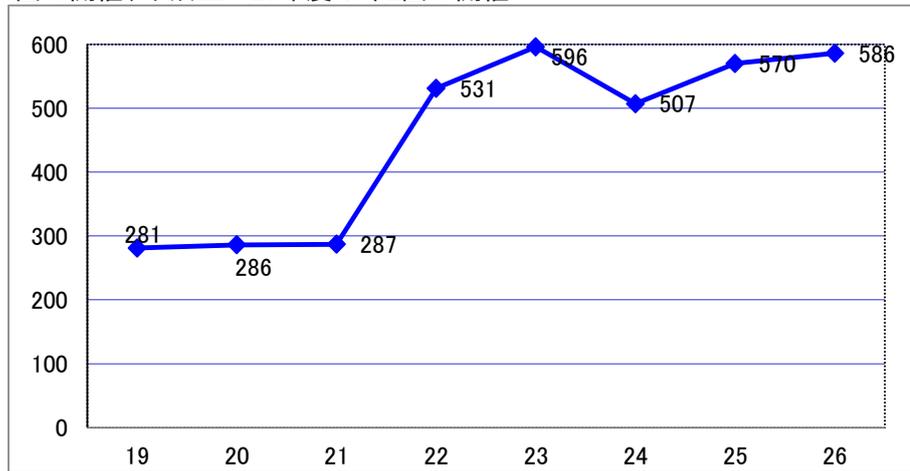
年度	受講者数
19	181
20	148
21	172
22	230
23	236
24	255
25	199
26	254



保育所事故予防研修会

※平成21年度までは年1回の開催、平成22～26年度は年2回の開催

年度	受講者数
19	281
20	286
21	287
22	531
23	596
24	507
25	570
26	586

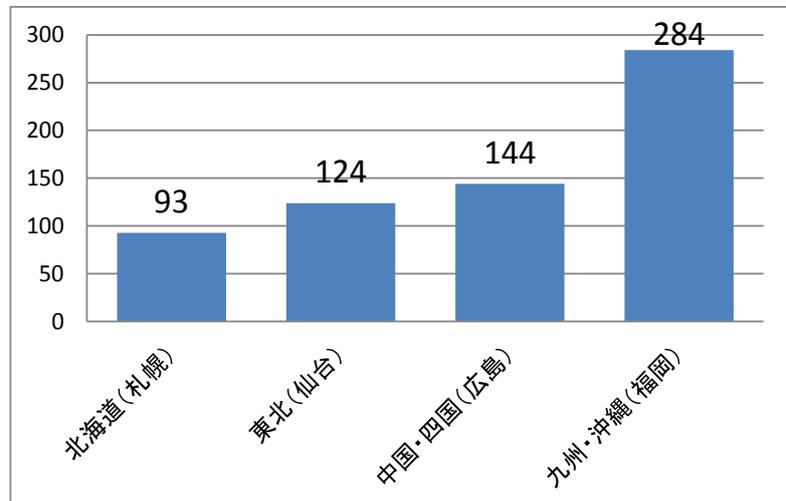


保育所におけるアレルギー対応研修会

※平成26年度より新規。

関東(北信越・東海含む)・近畿地区は、保育所事故予防研修会において開催

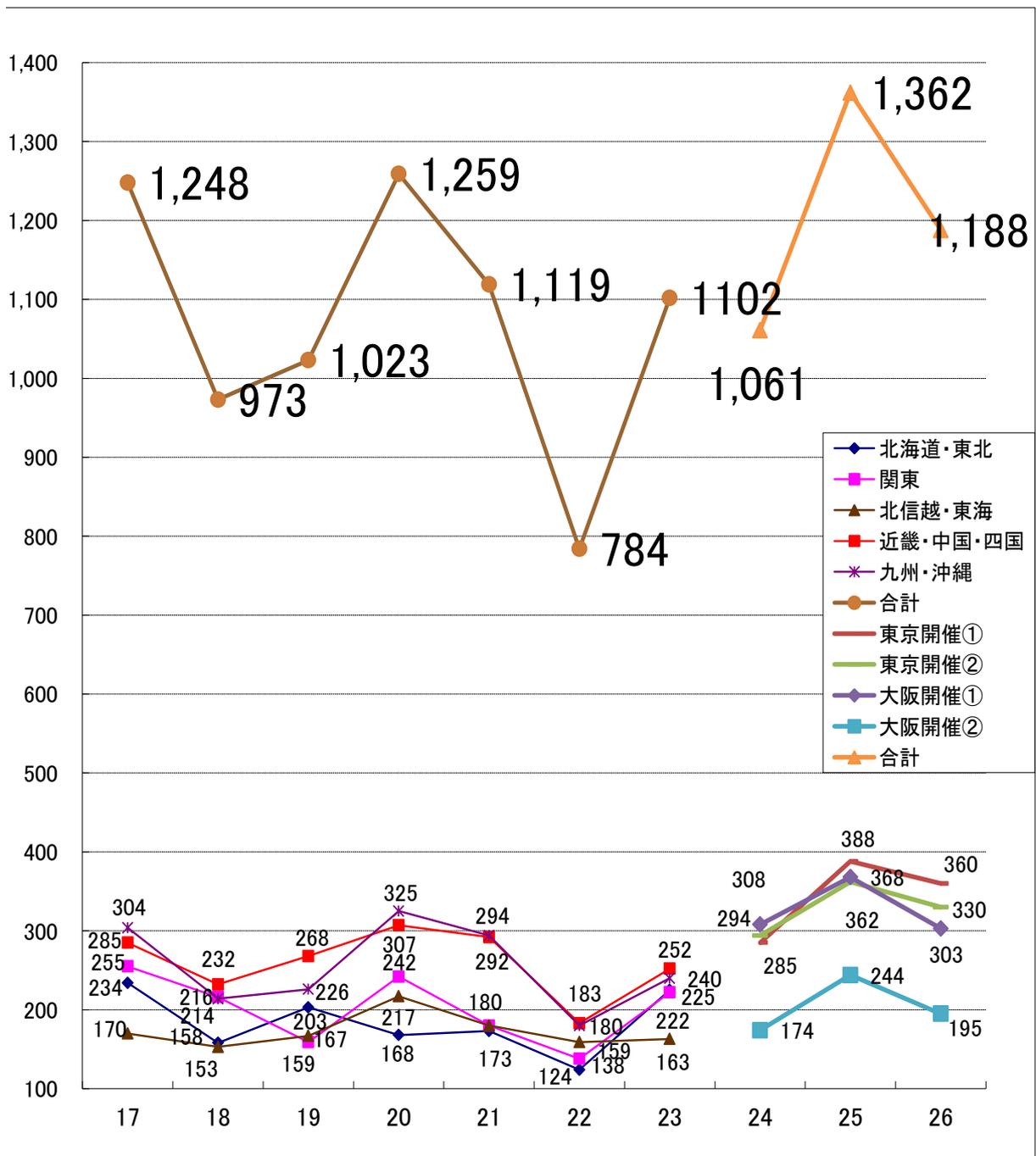
地区(開催地)	受講者数
北海道(札幌)	93
東北(仙台)	124
中国・四国(広島)	144
九州・沖縄(福岡)	284
合計	645



保育所主任保育士研修会 地区別受講者の推移

地区／年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	H24以降
北海道・東北	234	158	203	168	173	124	225	285	388	360	東京①
関東	255	216	159	242	180	138	222	294	362	330	東京②
北信越・東海	170	153	167	217	180	159	163	308	368	303	大阪①
近畿・中国・四国	285	232	268	307	292	183	252	174	244	195	大阪②
九州・沖縄	304	214	226	325	294	180	240				
合計	1,248	973	1,023	1,259	1,119	784	1,102	1,061	1,362	1,188	合計

※平成23年度までは全国5地区にて開催し、平成24年度からは東京2回・大阪2回の開催となっている。



実施報告書作成者一覧

評価委員：井上 真理子（洗足こども短期大学・専任講師）

事務局：今井 豊彦（日本保育協会 研修次長）

事務局：佐藤 紀子（日本保育協会 研修部係長）

事務局：加藤 翼（日本保育協会 研修部係員）

平成 26 年度 保育所保育士研修等事業
実施報告書

平成 27 年 3 月
社会福祉法人 日本保育協会
〒102-0083 東京都千代田区麹町 1-6-2
アーバンネット麹町ビル 6 階
TEL 03-3222-2111
FAX 03-3222-2117
URL <http://www.nippo.or.jp/>

